
はじめに

社会福祉基礎構造改革による措置から契約への転換、社会福祉事業へ多様な主体の参入等、社会福祉法人をめぐる環境が大きな転換期を迎えています。

このような状況のなか、社会福祉法人・福祉施設には社会的な信頼を基礎として、真に地域の社会福祉の中核的な担い手としての役割・機能をこれまで以上に発揮していくことが求められています。

全国社会福祉施設経営者協議会では社会福祉法人が自らの使命に基づく先駆的・開拓的なサービスのさらなる実践を進め、国民や地域住民の目に見える形でアピールし、その存在意義について広く理解を得ることを目的に「1法人(施設)1実践」事業を提唱・推進してまいりました。

昨年7月には、各県経営協ならびに会員の皆様にご協力いただき、社会福祉法人における地域貢献活動事例を収集し、第22回全国社会福祉施設経営者大会において、平成15年9月1日現在の収集状況(33都道府県、1631事例)を報告させていただきました。その後も多くの事例をお寄せいただき、現在、42都道府県から約2350事例を収集することができました。

このたび、各法人において地域貢献に向けた活動を実践するうえで参考としてご活用いただくべく、上記活動事例について以下の3つの視点、

1. 地域ニーズへの対応
 - (1) 施設機能などの地域還元
 - (2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供
2. 福祉教育・人材育成
3. 関係機関・団体との連携

から分類・整理を行い、また、多くの法人で取り組みが期待される事例、先駆性・開拓性が高い事例について49事例を抽出し、事例集としてとりまとめました。

本事例集が全国の社会福祉法人における地域の福祉向上にむけた取り組みを推進するうえでの一助となれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、事例集の作成にあたりご協力をいただきました会員法人ならびに各県経営協の皆様に心より御礼申し上げます。

平成16年3月

全国社会福祉施設経営者協議会
会長 高岡 國士
法人制度対策委員会
委員長 廣江 研

出張介護教室

神愛園（北海道） 〒006-0049 北海道札幌市手稲区手稲金山124番地1 TEL 011-681-3092

活動の概要

地域への情報提供として、町内会・各種団体・個人を対象に、介護保険や福祉又は介護技術等についての講演、実技指導を要望を受け実施しています。現在は、月に1回、町内会婦人部による集会所にての高齢者が集まる会食会（ふれあいサロン）に参加し、食事をともにしながら、福祉の相談を受けたり、介護保険やその他の福祉の情報をお話しています。

その他ご希望があれば、不定期でも「出張介護教室」を行います。

法人の概要

社会福祉法人神愛園は、クリスチャンの有志によって創立され、キリスト教の精神に立って心身の弱られた高齢者に仕えることを信条としており、1970（昭和45）年5月に、札幌市では2番目の特別養護老人ホーム「神愛園」（現在の神愛園手稲）の運営に当たるために設立されました。神愛園手稲は、札幌市手稲区にあり、豊かな自然に囲まれています。四季おりおりの景色が利用者の目を楽しませています。

●経営施設数…5

●法人全体の年間事業収入…1,123,244千円

●主な経営施設

神愛園手稲 昭和45年設立 定員108名

神愛園清田 平成9年設立 定員72名

ケアハウス シャローム羊ヶ丘
平成9年設立 定員40名

軽費老人ホームB型 札幌市琴寿園
昭和53年設立 定員50名

軽費老人ホームA型 星置ハイツ
昭和60年設立 定員50名

実施施設の概要

●施設名…神愛園手稲

●施設種別…特別養護老人ホーム
定員108名

施設の運営方針

聖書に示されたキリストの愛の精神の実践（善いサマリア人に倣う）を基本方針とし、①利用者がその人らしく生活すること、②地域ニーズに応えることを目標とし、社会に貢献することを目指します。

活動の内容

●活動対象者…町内会、各種団体、個人

●活動の頻度…定期的には月1回・1回あたり30～40分程度、その他不定期

●年間延利用者数…約250名

●活動開始年…平成13年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

現在は居宅介護相談センター（平成15年6月より）がありますが、それまでは特養・ショートステイのみの事業展開であったため、ボランティア以外の地域交流が少ない状況で

した。そのため、以前から施設内や区民センター等で「介護教室」を実施していました。「介護教室」は毎回テーマを本会で決めて開催していましたが、それでは一方的な情報提供になってしまうのではないかと、地域の方々のニーズに沿った情報提供が必要ではないのか、と考え町内会や各種団体・個人等が誰でも希望する時間に、ニーズに沿った内容で、どこでも出張していく「出張介護教室」を行うことにしました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

「出張介護教室」は、特別養護老人ホームの相談員と居宅介護相談センターのケアマネジャーが担当しています。現在、出張介護教室を定期的に行っている所は1ヶ所です。その他依頼があって、町内会の会合などで講演する機会もありました。

「出張介護教室」のPR方法としては、神愛園手稲が地域の方々向けに発行し、町内会に回覧している福祉情報紙「ひだまり」の中でお知らせしています。「ひだまり」は、介護保険や高齢者の病気・栄養の事などを紹介するもので、神愛園手稲周辺の町内会に回覧しています。

■利用者の声、地域の反応

月に1回訪問している会食会（ふれあいサロン）では、毎月のように訪問しているお陰で、利用者の皆様が担当者の顔を覚えて下さり、困った時に相談するなど、お話下さっています。利用者の皆様も、福祉への関心が高まってきているように思います。

実際、利用者の中からショートステイの希望がでるなどのケースもありました。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

「出張介護教室」の活動の場をもっと増やして行きたいと考えています。神愛園手稲としては、これからも地域との関わりを多く持っていきたいと願っています。何よりも現在、200人（登録数）ものボランティアに支えられています。これからは「出張介護教室」だけでなく、ボランティアの育成や普及をも含め地域にさまざまな情報を発信し、連携を密にしていけるよう、努力を重ねていきたいと思っています。

事例 フェローホームズ富士見町相談センター

恵比寿会（東京都） 〒190-0013 東京都立川市富士見町2-36-43 TEL 042-523-7601

活動の概要

週2回、午前9時から午後5時の時間帯で福祉相談を行っています。
平成15年5月に開設して10ヶ月を経過し、相談延件数114件、ケアマネジャーと行政経験をもつ嘱託職員であたっています。訪問者は主に高齢者ですが、精神障害、知的障害の人にも対応しています。
相談の内容の主なものは、本人の健康・介護する人が抱えている不安や、どういう施設があるのか等。

法人の概要

昭和60（1985）年、特別養護老人ホーム建設のための社会福祉法人設立準備会を発足させました。平成3（1991）年、特養「フェローホームズ」の工事着工、場所は「国営昭和記念公園」の広大な眺望を北に見て、道路をはさんで位置する好環境にあります。

翌4年4月、入所者100名、職員40名で入所開始となりました。5月にデイサービスを立川市からの業務委託で開始しました。

平成10年には羽衣地域福祉サービスセンターを受託し、在宅介護支援センターを開設しました。

介護保険の発足に伴い、在宅福祉事業にも力点を入れています。

- 経営施設数…2
- 法人全体の年間事業収入…640,000千円
- 主な経営施設
 - 特別養護老人ホーム 平成4年設立
定員100名
 - 通所介護事業 平成4年設立
定員35名
 - 地域福祉サービスセンター 平成10年設立
定員45名
 - 在宅介護支援センター 平成11年設立

活動の内容

- 活動対象者…地域の高齢者、家族
- 活動の頻度…週2回 1回8時間
- 年間延利用者数…114名
- 活動開始年…平成15年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

昭和42（1967）年に建設された富士見町団地の空き店舗の活用の打診を受けて、法人として検討した結果、この地域の高齢化率に着目しました。建設から36年、建物の老朽化もさることながら高齢化率20%、4年後には4人に1人が高齢者になると思われます。

1,525戸、3,050人が住んでいる5階建て、エレベーターのない団地です。またこの団地をとりまく周辺の地域も公営住宅が散在しています。同じ富士見町で本体の法人、特養老人ホームがある2丁目から1キロ南に位置するこの地域のかかえている少子・高齢問題と向きあうことで、私たちの法人の未来に方向性をあたえてくれるものと考えています。

1. 地域ニーズへの対応 (1) 施設機能などの地域還元

■人材・資金面等での工夫、苦慮

限りある人材をやりくりして（相談にお答えするには答えられる人材の配置）週2日の営業ですが、家賃支払等の効率を考えると営業日数を増やすべきであり、その要望も強く聞かれます。しかし現在はここでの収入はゼロですが、100%持出し分が地域貢献になっていれば、目先のことでなく社会福祉法人としての使命を全うすべきと考えます。

人員配置はケアマネジャー1名を含む2名体制で運営しており、資金面では法人本部の負担となっております。

民間企業の福祉への参入で競争の激化が今後ますます続くことは事実であり、他より特色を出すことで私ども法人の存在をアピール出来ればと考えています。

■利用者の声、地域の反応

平成15年7月の午後、75歳位の女性の訪問者がありました。話を聞いてみると、一人暮らしでの将来の不安、身体の衰えからくる何となく不安、とにかく何となく不安ということでした。市の制度に「見守り」の仕組みがあるので、すぐに在宅介護センターにつながりました。

4日後にセンターからコンタクトがとれないと連絡があり、団地の管理人と部屋に入ってみると既に亡くなられていました。どういう対応が適切であったのか、いまだに悩んでいます。

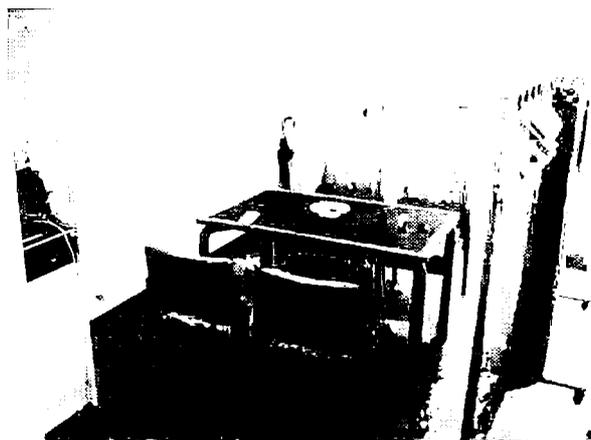
こういう場が出来て、何となく安心という声が多数寄せられていますが、反面すぐには何も出来ないではないかとも言われてもいます。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

2年前に結成された高齢者ボランティア団体「あすなろ」と交流をはかり、この団地の一員として行動しています。また、地域の民生委員（4名）と懇談会を行って、地域がかかえている問題の共有化に努めています。

公的なサポートを受けていないため、相談に対してすぐに対応でき得ないのが難点といえます。

平成16年度は各種相談機能を持つ事業を考えています。



相談コーナー

生き生き農業展開活動事業

依田窪福祉会（長野県） 〒386-0503 長野県小県郡武石村大字下武石776番地1 TEL 0268-85-2218

活動の概要

地域の高齢者の方々が遊休農地で作られた農作物を村役場の農政課を介して施設で購入しています。購入野菜は根菜類が中心で、施設職員が高齢者宅へ集荷に伺います。集荷には地元の精神障害者の方2名が担当してくれており、法人の臨時職員として雇用しています。

法人の概要

依田窪福祉会は、平成8年に法人認可され、平成9年4月1日より、特養ホームとショートステイの1法人1施設としてスタートしました。現在では、近隣町村社会福祉協議会が行っていたホームヘルプ事業、デイサービス事業などが移管され、11の事業を実施するに至っています。立地は長野県東部、美ヶ原高原東側の過疎村ですが、新幹線上田駅から車で30分程の位置にあり、交通の便は比較的良いほうです。

- 経営施設数…4
 - 法人全体の年間事業収入…600,000千円
 - 主な経営施設
- 特養ホームともしび 平成9年設立 定員50名
デイサービスセンター長門
平成13年設立（移管）
- デイサービスセンター和田
平成13年設立（移管）
- デイサービスセンター大門
平成16年度設立予定

活動の内容

- 活動対象者…地域の高齢者、精神障害者
- 活動の期間…5～11月
- 年間延利用者数…100名
- 活動開始年…平成12年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

- ・遊休農地が年々増加し、農地の荒廃が進んでいること。
- ・地元の精神障害者の働く場がないこと。
- ・地元の虚弱老人の生きがい支援、及びリハビリ。
- ・地元の野菜類の地産地消。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

- ・資金（燃料代）等は施設の持ち出し。
- ・精神障害者雇用の場として、行政の保健事業と連携を図った。

■利用者の声、地域の反応

- ・少々のお金になるので有難いこと。
- ・雇用の場が確保され、有難いこと。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

(活動の成果)

精神障害者の方々に仕事が発生したことにより、少しでも自立生活の支援につながったこと。また集荷業務に当たることで、地域の高齢者の方々から「ありがとう」の言葉かけがあることにより、精神障害者の方々にとって気持ちの安定につながったこと。

(地域への影響)

精神障害者の方々が地域の中で活躍する姿が自然と受け容れられていった。また、農業の現役を退いた後も有り余る野菜を作り続け、家族から疎まれたお年寄りが、いくらか現金収入につながることから、役割として昔の作業を続けていけるようになった。

(今後の課題)

集荷した野菜類は調理業務委託業者に買い取っていただいているものの、毎年集荷量が増えることで、野菜が捌ききれなくなっている。

事例

地域見守り活動推進事業

千ヶ峰会（兵庫県） 〒652-0875 神戸市兵庫区浜中町1丁目16番18号 TEL 078-652-8731

活動の概要

地域見守り活動を推進することを目的とします。

①小地域見守り連絡会議の運営やひとり暮らし高齢者情報等の収集・管理など、地域見守り活動の支援 ②見守希望者等からの相談や地域住民からの通報への対応 ③見守りが手薄な地域への暫定的な訪問活動 ④高齢者生活情報等の収集・提供等 ⑤その他前各号に付随する業務。

対象者 ①おおむね65歳以上のひとり暮らし高齢者 ②ひとり暮らし高齢者ではないが、これに準じる高齢者世帯。区社協に報告。

法人の概要

法人の設立は、平成4年4月1日ですが、その背景として、村おこしのコーディネーターをしており、設立者の高木俊博氏より相談があり、その時の町長の協力もあり社会福祉法人千ヶ峰会ができました。その設立メンバーの1人として参加、その7年後に神戸に公募があり、当法人も名のりを上げ、採用されました。立地は神戸の中心部、兵庫区のワールドサッカー会場になったウイングスタジアムの西160mに位置し、駅から徒歩1分という好立地に建っています。また、環境としては、幹線道路高松線から一本離れているため、非常に閑静な住宅地となっています。交通の利便性も良く、特別養護老人ホーム等の福祉施設立地条件はととのっており、理想的です。

●経営施設数…3

●法人全体の年間事業収入…800,000千円

●主な経営施設

特別養護老人ホーム ヘルシービラ加美

平成4年設立 定員60名

特別養護老人ホーム 花みさき

平成11年設立 定員50名

浜山高齢者介護支援センター

平成11年設立 定員ショート20名

デイ40名

実施施設の概要

●施設名…浜山高齢者介護支援センター

●施設種別…定員ショート20名 デイ40名

施設の運営方針

高齢社会の到来に向けて、おとしよりが住みなれた街で必要な援助を受けられるよう、また、介護をされる方の負担を少しでも軽くできるよう、心の通った福祉サービスを提供し地域の核として貢献することをめざしています。

活動の内容

●活動対象者…ひとり暮らし、高齢者、これに準じる高齢者世帯

●年間延利用者数…489名

●活動開始年…平成13年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

地域高齢者の見守り活動を円滑に進めていくには、やはり信頼関係が重要です。まず、地域の見守り相談をされている民生委員、自治会長、婦人会、老人会、管理人との交流を深めました。昔からの地域性が強いなか、その特性を知り、

1. 地域ニーズへの対応 (1) 施設機能などの地域還元

地域見守り活動推進事業への理解をしていただき、また、地域住民の高齢者に生活情報誌等にて情報を伝えるために、高齢者の集まる行事に参加させていただいています。給食会等にも参加し、レクリエーションも実施させていただいています。このような活動の中から、お互いに信頼し合うことにより、多くの情報交換、情報提供ができます。高齢者も気軽に相談ができ、より良い見守り活動ができるのではないかと思います。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

地域見守り活動の内容を行うということは、やはり住民の生活に入り込むことが多くなります。色々と他人には話せないことを聞く場合が多く、信頼関係ができると同時に発生します。それは見守り活動の対象者だけではなく、一般の住民にも言えることです。守秘義務のある中、その情報をどこでどう活かしていくか、守っていくかを考慮していくのが難しい点です。間違った使い方をすると、見守り活動ではなくなるからです。人間それぞれ生まれ育ち、考え方の違う中で、言葉一つ使うのにも神経をとがらせ会話をするのが現実です。まず、この行動を理解する者でないとこの活動は成り立ちません。そして一番に、偏見を持っている者は、相手もそれを見抜くため、見守り活動には適しません。

■利用者の声、地域の反応

地域との交流を第一に考えて活動をした結果、民生委員との情報交換もスムーズにできるようになり、民生委員だけれども同じ住民として立ち入りが困難なケースは訪問し、情報提供をさせていただいています。民生委員等から信頼をうけ高齢者を訪問し、情報提供をするなど、多忙な民生委員に高い評価をいただいています。

す。また、地域の高齢者に関しても、自分の抱えている心配事や不安に思っている事を気楽に話せるようになり、給食会等の行事や訪問時の途中でも声をかけられ相談を受けることが多くなりました。何よりも、独居高齢者の方々に「気にかけてもらってうれしい」「一人でないと安心している」「いつでも訪問してほしい」と言われる事が多くなりました。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

少子高齢化が進んでいる地域であり、現在、見守り活動や行事等をお世話して下さる方も年齢層が高い。これからはますます独居高齢者が増えていくことは避けられません。またその時、独居高齢者の居場所はどこにあるのか、生きがいをどこに見つけるのか、そして閉じこもりにならないようにするにはどうすれば良いかが今後の課題になると思います。元気な高齢者が急変し、死亡するケースもあるので、見守りの必要性についても考える必要があると思います。

事例

訪問看護における言語聴覚士(ST) 同行サービス

こうほうえん（鳥取県） 〒684-0063 鳥取県境港市誠道町2083番地 TEL 0859-45-6781

活動の概要

介護保険上、STによる単独訪問は加算対象となっていないが、在宅で生活されている脳血管障害のある方等に対し、STによる訪問リハビリは必要であると考え、訪問看護サービス提供時に併設施設のSTが同行することにより、在宅での嚥下リハビリ、口腔内ケアを実施し、ご利用者がより長く在宅で生活できるように支援します。

法人の概要

昭和5年設立以降、地域医療に貢献してきた米子脳病院（現広江病院）が現法人の母体となっています。昭和62年、当時事務長であった廣江研（現理事長）が、今後訪れるであろう高齢化社会に向け、本地域における老人ホームの必要性を強く感じ設立したのが本法人です。当時の境港市長である安田市長の強い要望もあり、境港市の誠道小学校横に特別養護老人ホームさかい幸朋苑を建設、世代間交流を重視した同地に法人を設置することとなりました。その後、特養、老健を中心とし、訪問介護、通所介護等在宅サービスを含めたトータル福祉サービス群を「ヘルスケアタウン」として、米子市に2群、鳥取市に1群、クックチル方式で食事を提供するヘルスケアフーズ、24時間保育所キッズタウン24を設置。現在、県内全域で定員数約1,600名の福祉サービス事業を営んでいます。

- 経営施設数…7（62事業）
- 法人全体の年間事業収入…5,020,210千円
- 主な経営施設
 - 介護老人福祉施設 さかい幸朋苑
昭和62年設立 定員170名
 - 介護老人福祉施設 よなご幸朋苑
平成5年設立 定員120名

- 介護老人福祉施設 なんぶ幸朋苑
平成8年設立 定員120名
- 介護老人福祉施設 新しいなば幸朋苑
平成12年設立 定員50名
- 介護老人保健施設 さかい幸朋苑
平成4年設立 定員50名
- 介護老人保健施設 なんぶ幸朋苑
平成8年設立 定員80名
- 介護老人保健施設 いなば幸朋苑
平成7年設立 定員100名

実施施設の概要

- 施設名…訪問看護ステーションさかい幸朋苑
- 施設種別…訪問看護ステーション

施設の運営方針

利用者が在宅で主体性を持ち、生活の質を高め健康の維持増進が図られるように援助します。また行政、医療機関、居宅介護支援事業者又は他職種と十分な連携を図り、適切な看護が提供できるように必要な知識及び技術を習得します。

活動の内容

- 活動対象者…脳梗塞等で嚥下困難となら
れている在宅の方
- 活動の頻度…週1回 1回あたり1時間
- 年間延利用者数…9名
- 活動開始年…平成8年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

高齢者や脳血管疾患後遺症のある方の症状として、嚥下障害、失語症を認めることが多く、更にこの症状により、窒息、誤嚥性肺炎、脱水、低栄養状態等を引き起こす危険性があります。また、コミュニケーションがとり辛く、本人が疎外感を持つケースも多くなっています。当ステーションでは、在宅における嚥下・口腔ケア、発声指導の必要性を認識し、平成8年より、関連病院の言語聴覚士（ST）との同行訪問を開始しました。介護保険導入以降は、併設施設にSTを配置し、本STとの同行訪問に切り替え（介護保険上、病院STとの同行訪問はできなくなったため）、継続して訪問を実施しています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

鳥取県特別医療費助成制度（身体障害者1・2級の方、難病の方に対し自己負担を免除する制度）があり、導入はスムーズに行うことができました。

STは併設施設の職員であるため、利用者・家族の負担にならない希望時間と、STの空き時間を調整し、看護師が同行して訪問しました。

また、利用者・家族間の交流目的でリクリエーション（絵画鑑賞・花見・梨狩り）を実施し、外出機会の少ない利用者・家族からは大変喜ばれました。

■利用者の声、地域の反応

73歳の脊髄小脳変性症を抱える女性で、声量低下、発話持続時間の低下、易疲労性が認められる方に対し、発声発語器官の運動、アセスメント法、歌による訓練を行いました。これにより、声量増加、発声持続時間の延長等の改善が認められ、ご利用者及びご家族から、「最近ではよく声が出るようになった」「笑顔が多くなった」といった声が聞かれました。

また、67歳の筋萎縮性索硬化症を抱える男性で、舌の可動域制限、開鼻声が認められる方に対し、発声発語器官の運動、ブローイング、軟口蓋へのアイシングの訓練を行いました。これにより、軟口蓋の挙上量の増加、開鼻声の減少が認められ、本人から「気持ちがいい」「治ったようだ」との発語が聞かれました。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

本事業は、①実際に発話明瞭度が向上する等の効果があっただけでなく、②介護者に対しケアを行う上での口腔ケア・発声指導の重要性の意識付けを行うことができた、③同行する看護師の技術力向上に繋がった、等のメリットがありました。

しかし、依然としてSTの役割は一般的に認知度が低い傾向にあります。今後、ケアマネジャーや在宅介護支援センターの協力を得て、訪問STの認知度を上げることにより、在宅看護の質の向上を図っていきたいと考えます。

高齢者

事例

高齢者SOS（災害時等一時避難）サービス事業 （飽田・天明地区）

寿量会（熊本県） 〒861-4125 熊本県熊本市奥古閑町4375-1 TEL 096-223-0533

活動の概要

飽田・天明地区の高齢者等を対象に、台風等の災害予想時に施設（飽田地区は2特養・1病院）で避難受入を行います。送迎は送迎ボランティア・社協・民生委員・施設職員で実施。

受入窓口は在宅介護支援センター。利用者の費用負担は食費のみとなっていますが、1日目は校区社協負担、2日目以降は利用者負担です。1日分は1,100円。

法人の概要

平成2年、医療法人社団寿量会を母体とし、飽託郡天明町（当時）の田園地帯に囲まれた静かな環境の下、特別養護老人ホーム等を開設しました。その後、熊本市との合併を経て、熊本市南西部の地域ケア支援の拠点施設としての役割を担うべく、在宅福祉サービスや施設独自の取り組みを続けています。平成12年には母体医療法人立の有明海リハビリテーションクリニックが開設、翌年には当法人によりケアハウス宝光庵を開設し、保健医療福祉の連携の下、さらに地域社会へ貢献する体制づくりを目指しています。

- 経営施設数…2
- 法人全体の年間事業収入…500,000千円
- 主な経営施設
 - 特別養護老人ホーム 平成2年設立
定員75名
 - 軽費老人ホーム（ケアハウス）
平成13年設立
定員22名

実施施設の概要

- 施設名…特別養護老人ホーム天寿園
- 施設種別…特別養護老人ホーム
定員75名

施設の運営方針

- 一、処遇に関する技術的質的向上を図る。
- 一、入居者の主体性を尊重する。
- 一、精神的援助の充実と自立の援助を図る。
- 一、ホームの家庭的機能の充実と生活の場としての環境整備に努める。
- 一、地域福祉への貢献とその発展に寄与する。

活動の内容

- 活動対象者…飽田・天明地区在住の65歳以上の高齢者等（天明地区は70歳以上）
- 活動の頻度…台風や大雨等の災害の恐れがある場合
- 年間延利用者数…約10名
- 活動開始年…平成9年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

以前、台風による被害が相次ぎ、その際の高

高齢者の安全確保について、地域住民より心配の声があり、各校区社協にて「高齢者SOSサービス事業」を実施することとなり、利用者の受入についての協力が当施設などへありました。

その後、送迎ボランティアの確保や、サービスについて、民生委員などへ在介を通じ広報を行うとともに、毎年関係者が集まり、実施内容を検討するなどし、翌年度以降の充実を図っています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

SOSサービスについては、台風接近などで利用を希望するケースが多く、天候によっては施設までの送迎がボランティアでは困難となることもあり、利用者に対しては、早めの連絡を呼びかけています。また、施設によっては受入人員数が限られることもあるため、飽田地区については、他の協力施設との連携も必要となっています。一方、食費についてのみ利用者の負担であり、1日目の利用に関しては校区社協が負担しており、これまで問題となることはありませんでした。

■利用者の声、地域の反応

これまで一人暮らしの利用者が多く、災害の恐れがある場合には、特に不安が強かったということで、「何かあった時にも安心できる」と、利用者からも好意的に受け止められています。また利用者には身体的に障害がある場合もあり、地域住民からも、もしもの時に安全に避難してもらえることでの安心感を持ってもらっています。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

これまでの活動については、「災害時」と限定されていることもあり、利用者数は多くないものの、高齢者の日々の安心につながっているのではないかと思います。今後、更に地域に向けて、サービスについて周知を図っていくとともに、大規模な災害が起きた際の対応など、検討していく必要があると思われる。

事例

大分市在宅高齢者、身障者緊急通報センター事業

永生会（大分県） 〒870-0274 大分県大分市大字種具字南谷144番地 TEL 097-529-2316

活動の概要

標記事業は大分市からの受託事業であり、昭和62年10月から開始し、17年目を迎えています。大分市の人口約44万人のうち約2千人の1人暮らしの高齢者又は身障者がこのサービスを受けています。センターは特別養護老人ホーム清流苑に置かれ、24時間365日待機体制をとっています。

法人の概要

社会福祉法人永生会は、昭和54年7月に設立され、昭和55年4月に特別養護老人ホーム清流苑（50床）を開設し事業を開始しました。今年で法人設立25年目を迎えます。

現在の事業内容は特養100床、短期入所施設30床、ケアハウス50床、グループホーム9床、大分市認可保育園110人に加えデイサービス、ヘルパーステーション等14事業を行っています。

法人本部は大分市東部鶴崎地区に在り、大野川の清流を臨む高台に特養等主要な建物は立っています。

本来は大分市東部を事業範囲としていますが今年から市内中心部にも在宅の拠点を設け、3月より一部を開始し、4月から全事業を開始します。

- 経営施設数…10
- 法人全体の年間事業収入…1,100,000千円
- 主な経営施設
 - 特別養護老人ホーム清流苑
昭和55年設立 定員100名
 - ケアハウスジョリーメイト清流苑
平成7年設立 定員50名
 - 短期入所施設おあしすホーム

平成12年設立 定員30名

高田のぞみ保育園

平成13年設立 定員100名

実施施設の概要

- 施設名…清流苑
- 施設種別…特別養護老人ホーム
定員100名

施設の運営方針

在宅において、介護が困難となった高齢者を受け入れ、個々の人格を尊重し、生活を支援することを通し人生のラストステージを本人にも家族にも有意義であるようなサービスを提供します。

活動の内容

- 活動対象者…高齢者、身障者
- 活動の頻度…24時間 365日
- 年間延利用者数…約2,000名
- 活動開始年…昭和62年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

当法人の目指す理念の一つに「安心のよりどころ、安心のブランドづくり」があります。

地域の高齢者が安心して暮らすにはどのようなサービスが求められているのか、まさにこのような視点に立って開始した事業です。

日本で最初に緊急通報センターを始めた東京老人ホームを参考に、大分市へ働きかけ、昭和62年3月に大分市からの受託事業という形でスタートしました。現在では特養併設の緊急通報センターとしては、最も古いセンターとなりました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

事業の性格上24時間365日待機する必要があるので、センターを特養清流苑に置き日中は事務職員、夜間は夜勤者が対応する体制を取りました。

受託料としては大分市から約400万円をいただいておりますが、一般的な緊急通報サービスを考えると利用者1人当り月額2,000円程度かかるので、現在の利用者2,000名では年間4,800万円もの額になってしまいます。

これを考えれば、安価なコストで利用価値の高いサービスを提供できていると考えます。この運営コスト安が大分市での緊急通報事業の拡大に貢献していると考えています。

なお、運営の特長として、設立当初から「誤報歓迎」を基本としています。更に、委託契約とは別に法人で加入者へのコールサービス（安否確認）を特に問題を抱えていると推量される方にしています。このサービスを今年度からは全加入者に毎日専従職員が行っています。

これらの活動を通して問題があると考えられる時には、市内19か所の在宅介護支援センターと地域連携をとり安心の暮らしを支えています。

す。

■利用者の声、地域の反応

平成14年度実績で2,361件の通報があり、そのうち本当の緊急事態は51件です。その中には、心臓発作等、死の危険があるものも含まれ、病院の救急搬送等の依頼を行っています。

この事業には協力員という形で、利用者の近所の方々にボランティアとして登録してもらっています。このような方々は一人の高齢者の生活を支える上で大変重要だと考えており、緊急時も現場での対応等深夜にもかかわらず協力していただいています。

このような地域共生ともいえる体制は協力員のような人達のご理解の上で成り立っています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

今後も地域の高齢者、身障者の安心づくりの拠点として、行政及び地域の協力員の皆様と協力してこの事業を推進してゆきたいと考えています。

高齢者

事例 よろず相談スポット福祉の悠々タウン・竹田

偕倅社（大分県） 〒878-0025 大分県竹田市大字拝田原字六反776-3 TEL 0974-63-1191

活動の概要 高齢者、障害者・児等介護を必要とされている方、または、これから必要とされる方に、福祉サービスの紹介、社会資源の活用支援、専門機関の紹介等を行い、様々な相談を受付けます。

法人の概要

社会福祉法人偕倅社は、大分県で初の特別養護老人ホーム「悠々居」を昭和43年4月に設置し、その後平成3年デイサービスB型、平成6年在宅介護支援センター・ホームヘルプ事業、平成9年2月ショートステイ事業の運営を開始し、在宅分野への進出を図っています。その間施設の全面改築を行い平成9年4月に完成しました。平成12年以降も障害児デイサービスセンター、身体障害者デイサービスセンター、身体障害者生活支援センターなど高齢者のみならず障害児・者のサービスを手がけ地域福祉の拠点となっています。

- 経営施設数…14
- 法人全体の年間事業収入…546,974千円
- 主な経営施設
 - 特別養護老人ホーム 昭和43年設立
定員84名
 - デイサービスB型 平成3年設立
定員55名

活動の内容

- 活動対象者…一般市民
- 活動の頻度…12月31日から1月3日
迄休日 他営業
- 年間延利用者数…約500名
- 活動開始年…1年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

竹田市他近郊市町村は高齢者の増加率も高く在宅介護等に難渋している方も多く見受けられます。入所施設である特別養護老人ホーム悠々居では待機者が多く、受け入れが難しいのが現状です。そのため様々な社会資源を活用したサービス提供等の必要があり、専門の相談員の援助、調整ができる相談所があれば、多くの方々の手助けになると考え設置に致りました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

相談援助ができる資格（社会福祉士、介護支援専門員）をもつ職員を常駐で1名、土曜日、日曜日、祝日と配置しなければならないので、本体施設の人員のやりくりで苦心しています。

■利用者の声、地域の反応

事業所所在地である拝田原は竹田市のほぼ中心に位置しており、また国道沿線であり駐車スペースも広い事から立ち寄りやすくなっています。

また、気軽に福祉の専門職員の意見援助が受けられ近隣にこのような場もない事から安心感もありよく利用して頂いています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

商店等繁華街に立地し、相談内容も高齢者、障害児・者他介護全般に関する相談またはそれ以外も受付けており、気楽に立ち寄れる事から近郊の市町村からも良く利用して頂き、情報収集、伝達の間として役立っています。

事例

国際交流母の会

白鳥福祉会（茨城県） ☎311-2111 茨城県鹿島郡大洋村上沢76-1 TEL 0291-39-2963

活動の概要

2ヵ月に1度、フィリピンやタイ等諸外国のお母さん方を対象に懇談会を開いています。日頃の悩み・生活習慣・最近の出来事等を話し合い悩み等を解決するとともに、お母さん方の親睦を深めることを目的としています。懇談会を行う際に、各国の食物を持ちよることにより食文化の交流をもつことにもなっています。

又、年に1度（12月頃）保育園で集めた衣類等をフィリピンの施設にいる子ども達に、お母さん方を通して贈る活動も行っています。

法人の概要

鹿島開発により人口密度も高まり、保育に欠ける子も増加してきたため、昭和51年に認可保育園として開園しました。太平洋が眺められる高台に位置し、松林に囲まれた静かな環境にあります。そのため、夏には海水浴やカブト虫等の虫採りをしたりと、豊かな自然の中で遊ぶことが出来ます。四季の自然に触れながら、生命の大切さを知り、豊かな心と体を育てるよう努めています。

- 経営施設数…2
- 法人全体の年間事業収入…110,000千円
- 主な経営施設

大洋保育園	昭和51年設立	定員60名
わんぱく保育園	平成12年設立	定員20名

実施施設の概要

- 施設名…大洋保育園
- 施設種別…保育所 定員60名

施設の運営方針

当保育園は野性的な子ども達になってもらいたく、あまり制約をしない保育を心がけ、半そ

で半ズボンで1年中いられるようにして、心も体も丈夫一式に保育しています。

活動の内容

- 活動対象者…在園児、卒園児、近隣付近の外国人の母親又はその友人
- 活動の頻度…2ヵ月に1回、1回あたり2時間
- 年間延利用者数…約30名
- 活動開始年…平成10年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

年々諸外国のお母さん方が増えてきています。文化の違いから子育て感も違い、共通理解ができない部分もでてきました。また、言葉の違いから保護者間の意志疎通が出来なかったり、近隣に友人ができないために孤独感があつたりと問題が生じ始めました。そのため、懇談会を開き子育ての悩みや家庭での問題を一緒に解決していくことにより信頼関係ができるとともに共通理解に結びつき、お母さん方の親睦を深めることにもつながるのではないかということで始められました。

1. 地域ニーズへの対応 (1) 施設機能などの地域還元

■人材・資金面等での工夫、苦慮

12月にフィリピンに送る衣類は、保育園の保護者の方々にお便りで伝え、毎回ダンボール箱5箱ぐらい集まります。年々浸透し、ダンボールの数も増えてきているし、卒園した保護者の方達からも集まるようになってきています。

参加する方がいつも一緒なので、多くの方が参加できるような会にしていきたいと思えます。

■利用者の声、地域の反応

日頃の悩みを打ち明けることにより、気持ちが楽になったという声が聞かれたり、懇談会に参加し友人ができた等、笑顔と笑いの中で会が進められており嬉しく思います。夕涼み会等の園と地域が触れ合う機会となる行事にも参加し、「楽しかった」という声も聞かれたので、これからもどんどん参加を呼びかけ、地域の多くの人達にもこの会に参加できるようにし交流がもてるようにしていきたいと思えます。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

生活習慣、考え方の違い等価値観のずれが意見交換をすることにより、共通理解ができるようになってきました。又、お互いの食事内容等を教え合うことにより、食文化の交流をもつことができたり、懇談会を通じ友人ができ日頃の生活が有意義になってきた等、良い面が多い。今後は、この活動を通しての地域との関わりがないので、いろいろな行事にもっと参加してもらい、文化交流ができていければと思います。



フィリピンの施設にクリスマスプレゼントとして衣類などを持参したときの写真

事例 「すくすくけんこうきょうしつ」 —歯みがき援助—

しののめ会（神奈川県） 〒236-0023 神奈川県横浜市金沢区平潟町17-1 聖星保育園 TEL 045-783-8869

活動の概要

当園が保育プログラムの中で実施している、歯みがき活動に地域の児童が参加しています。

主な指導内容

- ①バランスのとれた食事と健康な歯についてのお話
- ②正しい間食の与え方
- ③サイズのあった歯ブラシで正しい磨き方の指導
- ④永久歯萌出児には特別な磨き方の指導

法人の概要

1968年頌栄保育園が創設。1973年個人経営から法人経営へと組織変更を行いました。1974年3月社会福祉法人しののめ会として厚生大臣の認可を受け、引き続き5月横浜市長より頌栄保育園乳児定員30名として認可を受け、その後、園児の成長と共に受け入れられる施設が要望され、1976年聖星保育園の新設となり、乳児だけでなく、幼児や障害児保育（統合保育）、小学校低学年の学童保育に適した施設として発足しました。1981年頌栄保育園の老朽に伴い全面改築を行い、聖星保育園の敷地内に移転しました。1982年二園を合併し、聖星保育園に一本化されました。

1995年知的障害者通所更生施設 聖星学園を新設。

2002年公設民営・認可保育所 横浜市金沢八景保育園受託。

- 経営施設数… 3
- 法人全体の年間事業収入…537,794千円
- 主な経営施設
認可保育所 聖星保育園
1976年設立 定員150名
知的障害者通所更生施設 聖星学園
1995年設立 定員56名

公設民営・認可保育所 金沢八景保育園
2002年設立 定員60名

実施施設の概要

- 施設名…聖星保育園
- 施設種別…定員150名

施設の運営方針

「互いに相愛しなさい」というキリスト教の信仰により障害を持つ児との統合保育を行い互いに、たすけあい、愛し合う、ことを学び誰からも愛され、誰をも愛せる子どもに、成長することを願い保育を行っています。

活動の内容

- 活動対象者…0歳～就学前児
- 活動の頻度…年間5回
- 年間延利用者数…12～15名
- 活動開始年…平成5年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

子どもや子育てをとりまく環境の変化に伴い地域の子育て支援のひとつとして当園が日常保

1. 地域ニーズへの対応 (1) 施設機能などの地域還元

育を通じて蓄積してきた経験を地域に向けて提供している活動のひとつです。園の「歯の健康」年間指導計画に基づいた園児の指導と共に地域の乳幼児をもつ、家庭へも参加の呼びかけを行い、園児と同様に指導を行っています。

—地域への呼びかけには、保護者同伴の支援となっています—

保護者には、虫歯予防の考え方や知識等を啓発することを目的としており、子どもたちひとりひとりが、一生使っていく大切な歯のために、「すくすくけんこうきょうしつ」という名前を設け、虫歯予防に興味と関心がもてるように努めています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

人材—歯科衛生士2名 指導日に来園しています

限られた時間を利用して、保育士、栄養士で指導にあたっています。毎年の内容の充実化につとめるために歯科衛生士、保健師、栄養士、保育士の4部構成で年度末にその反省と次年の指導プログラムの話し合いを行っています。

なお、指導日当日、栄養士が給食業務にあっている時もあり、支障のないように指導プログラムの時間のタイミングを合わせることも工夫していることのひとつです。

■利用者の声、地域の反応

参加した家庭より

—地域の女兒—

先生のお話がとてもわかりやすく、すぐに実行できるようなことばかりで助かりました。私の歯みがきの指導までしていただき、みんなで楽しくやればいやがらずに、口をあけてくれたのでびっくりしました。本当に今日は来たかいがありました。

—地域の男児—

仕上げ歯みがきをとにかく嫌がってしまい私もおっくうになってしまったところにご指導いただいていたありがとうございました。なぜ歯みがきを嫌がるのか今後どのように歯みがきをしたらよいのかわかりました。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

今後も地域のニーズの把握につとめ園の実情に合わせた地域の子育て支援を積極的にすすめて行きたいと思います。



すくすくけんこうきょうしつの様子

事例

子育てを支援する情報活動

さがみ愛育会（神奈川県） 〒229-0006 神奈川県相模原市淵野辺1-16-5 TEL 042-752-2123

活動の概要

保育所という事業体に、専任の情報担当を配して、利用者や地域社会とのコミュニケーション活動の活性化を目指しています。ちなみに情報活動といえば、①公的事業体としての開示義務や②選択する手がありとしての情報もありますが、ここでは主に子育てを支援する情報として位置づけています。とにかく子どもを生んで育てるという営みが、生命の灯を伝えていく崇高な行為が、かけがえのない素晴らしいことであることを確認する活動です。

法人の概要

戦後いち早く、保育所を起点として誕生した法人ですが、やがて地域の多様なニーズに応じて、先駆的開拓的な様々な事業を実践してまいりました。とりわけ、通常保育所に併設する高齢者デイサービスセンターや知的障害者更生施設、さらには夜間保育所との複合効果を目指して日常交流を推進しています。即ち、1プラス1が3にも4にも5にもなるように処遇面のみならずコストマネジメントを意識した取り組みであります。さらにそこから、児童、高齢者、障害者という属性分野の各論を廃し、地域福祉の視点から家族援助の姿勢を重視することを目標としています。

- 経営施設数…6
- 法人全体の年間事業収入…920,931千円
- 主な経営施設

淵野辺保育園	昭和23年設立	定員235名
すこやか保育園	昭和44年設立	定員210名
悠々デイサービスセンター	平成8年設立	定員25名
知的障害者更生施設のびやか	平成13年設立	定員30名
夜間保育所ドリーム	平成8年設立	定員30名
学童保育センターひまわり	平成14年設立	定員60名

実施施設の概要

- 施設名…淵野辺保育園
- 施設種別…定員235名

施設の運営方針

“いっしょっていいね”をキーワードに、ふるさとのイメージが湧いてくるような自然を生かした環境構成や温かさへのこだわりを大切にしています。愛の精神を基盤に地域の福祉ステーションを目指しています。

活動の内容

- 活動対象者…地域社会の乳幼児を育てる家庭
- 活動の頻度…常時
- 年間延利用者数…不特定多数
- 活動開始年…昭和63年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

開園40年を契機に生まれた地域育児センターですが、それまで推進してきた行政主導型の保育から、「地域に根ざす」という価値観を重視するきっかけになりました。それらは新たな事業を加算的に追加するのではなく、地域の在宅見家庭の親子に子ども社会や子育て社会に所属

することを保証するとともに長年蓄積してきた保育のノウハウを開放することにあります。それゆえこの子育て支援活動の一環として大きなウエイトを占める情報活動は、人と人とをつなぐコーディネーターを目指しています。同世代同士のコミュニケーションの活性化は、追体験であったりこれから起こりうる問題として捉えるなど、共感関係を促進し、育児エンパワメント効果が期待されるからです。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

例年、情報担当は園長や主任等の管理職とせず、あえて若手中心の専任職を配置しています。なぜなら管理職のバイアスがかかった片手間作業よりも、同じ世代のコーディネーターの方が心をオープンにできるからです。

その上で、情報担当を含めた地域育児センター担当職員は、併設する学童保育センター職員を兼務する体制をとっています。夏休みや冬休み等を除く午後の時間帯までは、地域の子育て支援活動の領域に専念できる条件が保証されているからです。それゆえ、担当4名のうち2名を学童保育センターに出向させるなど事務的な配慮をしていますが、いずれも地域活動の一環として、相互的な関係が活性化しています。

■利用者の声、地域の反応

情報担当の主な役割といえば、3カ月ごとに発行する、育児と介護の情報誌「であいふれあいめぐりあい」と隔月発行のミニ情報誌「いきいき子育て」の発行配布、すくすくメールや子ども図書館、情報掲示板やインターネット情報があります。特にボランティア4名に委嘱した子育て情報委員の役割は重要で、毎月の例会では「いきいき子育て」の誌面構成を話し合い、分担執筆をしたり、取材をする等、情報掲示板

や子ども図書館の活用を含め、モニターのように活躍していただいています。そこから双方向的に、みんなが育児情報を出し合い、それを共有しあう喜びが、自然に定着する手応えを感じています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

ちなみに情報といえば、未だ公開されていないことをお知らせする周知活動と考えられがちですが、それ以外に例えみんなが参加して承知していることでも、あらためてコメントをつけて掲示することにより共感関係がさらに深まる手応えを感じています。情報の情は日本人のもつ人情とすれば、報は報いるという応答的な関係です。それゆえ情報といっても大量の印刷物や高度なハイテク技術にとらわれることなく、人と人をつなぐ役割に徹する姿勢を重視しています。

乳幼児の子育てサロン

カトリック名古屋教区報恩会（岐阜県） 〒509-9131 岐阜県中津川市千見林1468-7 TEL 0573-68-6858

活動の概要

当法人は3つの児童関係施設を経営、地域に根ざして児童福祉の向上を目指しています。子育てサロンを始めたのはその一環、主任児童委員の支援を受けて子育て中の母親等を対象に毎週1回集う場をもっています。これによって親のふれあい、子どものふれあい、赤ちゃんへの声かけなどがあり語り合う親たちの心身のやすらぎや親睦にも役立っています。また、子どもの保健指導や演習も取り入れ、子育てに志気を高める支援活動の展開をしています。

法人の概要

故人藤井篤太郎氏は遺言で自分の土地建物一切を三重県津市にある法人の児童養護施設に、社会事業に役立てて欲しいと寄付されたが事業の実現ができずその責任を名古屋教区に依頼し実現しました。カトリック名古屋教区は寄付物件の一切を引き受けて児童ホーム藤井学園を設立、20年後に、法人名、施設名を変更し、現在の法人名、施設名となりました。

小鳥のさえずりも身近に聞ける緑豊かな静かな環境、JRの駅や小中学校も近く子どもたちの生活環境に不足はありません。中津川市は人口5万数千人の小さな市、木曾谷は山の中にあると詠む島崎藤村記念館を北に仰ぎ見る自然の山々に素朴性を味わえます。

- 経営施設数…3
- 法人全体の年間事業収入…347,720千円
- 主な経営施設
 - 児童養護施設 昭和33年設立 定員50名
 - 乳児院 平成12年設立 定員15名
 - 児童家庭支援センター 平成11年設立

活動の内容

- 活動対象者…地域住民の子育て中の母子等
- 活動の頻度…毎週1回約2時間
- 年間延利用者数…約960名
- 活動開始年…平成11年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

地域に開かれた施設養護の展開は、地域児童との交流を図ることによって機能化します。地域交流ホームの建設によって多様な利用があります。子どもたちの交わり、文化的活動も徐々に広がり、地域住民の施設利用も多くなりました。少子化や虐待問題が高まる中で、主任児童委員は学童保育の実態面から家庭養育機能の希薄化を憂慮され、相談や助言が日増しにふえる状況に親たちの家庭養育のあり方、特に子育て中の母親たちの様子を見て相互に語り合うことの必要性を思い、親たちが子連れで集い気軽に会話し語り合える楽しみとよろこびの中で子育てで不安や心配ごと等々を解消し、明日からの子育てに専念できるように配慮し支援を開始しました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

法人の施設経営45年になってようやく地域住民の1員になれた感じ、施設経営は地域の理解と協力がなければ施設の目的は果たせないとの実感でした。多くのボランティア、実習生等も受け入れて協力支援をうけて地域化に努めた。子育てサロンも主任児童委員等によるボランティア、サロンでの行事には休日利用の保育士等の協力があります。資金面では団体補助金等を受けて遊具の設備、可能な限り母親たちの金銭的負担をさけて最低限度の維持費で工夫しています。楽しみ会の時には参加者たちが材料実費を負担し相互に作り合っけて楽しみ会の展開となります。

■利用者の声、地域の反応

子育てサロンの利用者の声が1人また1人に伝えられてか、利用者は段々増加しています。多面的な話題の中で、気軽に語り合える場面に余裕を感じます。三三五五の場の語らいの中に笑い声もあります。友が友を呼び日頃の子育ての様子を相互に語り合っているのでしょう。子どもたちは相互に遊びふれあっており親たちも気を許し合っけて語り合える場にやすらぎを感じ

満足顔で帰っていきます。子育てサロンに気軽に集まり語り合える私たちの場、共に健康に子どもを育てる競争の場となっているように思います。ある母親が楽になりました、と話していました。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

先にのべたように、この活動は、子育て中の親たちの理解利用が徐々に高まっていると思っています。この実態が活動の成果であろう。少子化、虐待が増加する中で、家庭養育支援、虐待予防対策の1つと考えています。

行政施策を越えても必要なことは可能な限り積極的に取り組み福祉向上に努めたい。

この活動によって1人でもよかった、助かったと言ってもらえればそれでよい。お金の問題ではない。相互扶助は自然の姿です。



子育てサロンでのなごやかな活動風景

児 童

事例 妊婦（親になるための準備）、 0才児、第二子セミナー、子育てハガキ無料配布

秀幸福社会（大阪府） 〒567-0806 大阪府茨木市庄二丁目7-35 TEL 072-626-2191

活動の概要

モンテッソーリ教育の、0才～3才の乳児を専門とした、発達心理、適切な環境、子どもの周りに居る大人（両親、祖父母）の、接し方などについてのセミナー。

妊婦については、受精から出産までの流れ、精神の安定につながることをポイントとし、母の心理と胎児との関係について。出産後の新生児との関わり方、授乳時の精神的内面など、赤ちゃんとよりよく接するためのセミナーと相談を行っています。

法人の概要

前理事長は、ボーイスカウトの設立や、PTA会長、公民館活動を歴任し、次代を担う青少年育成活動に情熱を燃やす中、地域の乳幼児育成へと拡がりを示し、乳幼児の福祉にはよい環境作りが必要と、モンテッソーリ教育の導入を行って、設立となりました。

社会をよくする為には、まず、家庭がよい状態であること、そこに居る子ども達を援助するには、家族全体のサポートが、必要と考えます。

近くには、安威川堤防、旧家の家並み、隣接に特別養護老人ホーム、庄栄エルダーセンターがあり、高齢者との交流が、多くあります。

- 経営施設数…3
 - 法人全体の年間事業収入…920,392千円
 - 主な経営施設
- | | |
|------------|-------------------|
| 保育所 | 昭和54年設立
定員120名 |
| 特別養護老人ホーム | 平成12年設立
54床 |
| デイサービスセンター | 平成15年設立
50名 |

活動の内容

- 活動対象者…妊婦、祖父母、父、乳児の保護者
- 活動の頻度…月2回、1回当たり2時間
子育てハガキは、新生児から2才までの子どもさんを対象に、1才までは（毎月）、1才～2才までは（年5回）を月齢に合わせて誕生日に、子育てポイントを書いたハガキを無料配布している。
- 年間延利用者数…129名
- 活動開始年…平成9年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

モンテッソーリ教育の0才～3才の乳児専門の国際資格を取得した時に、受講内容を知っていたら、どんなにいい子育てが出来たことかと、反省させられました。是非この内容を、妊婦～乳児の保護者の方に知っていただき、子どもを理解し、子どもと、いい関係を作っている様に、乳幼児心理に基づいた、科学的な理論を元にセミナーを実施しています。と同時に、在園児の乳児の自立を、直接に観ることで（在園児

1. 地域ニーズへの対応 (1) 施設機能などの地域還元

生活ビデオ)、セミナー受講生も、安心していきます。

子育てハガキは、核家族で子育て未経験な両親にとって、情報を伝え、どこか専門機関とつながっていることで相談のしやすい関係ができ、安心できればと考えました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

セミナー内容は、モンテッソーリ教育の0才～3才の国際資格を有し、乳児専門の勉強をした者が担当しています。その者達の、より知識の向上の為に、研修会に派遣するなど、研鑽を積んでいます。

セミナーは、知識だけでなく、人の能力にもよるので、担当者一人で行っている為負担が多くなっています。

■利用者の声、地域の反応

◎2ヶ月の赤ちゃんのお母様より……。

初めての育児で、試行錯誤中、母親としての無知のあまりに、子どもに淋しい思いをさせていたと反省。授乳の二人の時間を大切に、この時が、親子の絆の時と思って、大事にします。おしゃぶり、TV、運動機能についても聞いて、あっという間の二時間でした。主人にも、伝えていきます。安心して子どものことが、相談できると思いました

——メールにて。

セミナーには、地域のサークルからの依頼もあつたりします。

◎子育てハガキ終了のお母様より……。

いつもこれでいいのかな…などと思うことがある育児、そんな時にハガキが本当に励みになりました。そうそう、これでいいんだと思える指標でありました。長い間ありがとうございました。これで終わってしまうのが淋しいです。年長者用に送る計画があれば、是非お願いしま

す。

——アンケート回答より。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

子どもと、どう接したらいいのか、わかったり、相談出来る機関（保育所）が出来たと思われる。

今後、業務外で（セミナーが、土曜日）行う事が多く、その代償が全くされていない事が課題である事と、受講生を集める活動が行えていないので、効率的な方法を見つけないといけないのが、課題です。

又、子育てハガキ対象者を探す為に、産婦人科、医療センター、街頭などで声をかけ「ハガキ申込み者」を募るのですが、中々、心快く受け取って下さらず苦勞しています（申し込まれた方は喜んでいらっしゃると思いますが…）。

事例

障害児の面接相談及び指導

八葉福社会（兵庫県） 〒672-8079 姫路市飾磨区今在家6丁目133 TEL 0792-31-1155

活動の概要

地域の障害児をもつ保護者が気軽に相談できる場所を求めています。言語聴覚士との連携のなかで、土曜日の実施が実現し、現在、月2回1日6組の親子が相談に訪れています。保育園は乳幼児のための環境が整っているため、スムーズに相談室にはいることができます。相談の子ども年齢は0歳～12歳まで、1人につき約1時間30分相談指導にあたっています。母親もグループをつくり、お互いの悩みを話し合い、支えあっています。

法人の概要

昭和25年、戦災孤児や子育て中の婦人労働者の援助の為に自宅を開放した保育所を創始者金子末夫が開設。昭和27年、社会福祉法人広英保育園として認可を受け、地域の児童福祉に貢献してきました。複数施設を運営するまでになり、昭和61年に法人名を八葉福社会に変更。

姫路市の南西部に開けた海岸部や田園地帯の住宅地に設立されている三つの保育所には現在、合わせて約380名の乳幼児が在籍。

地域の恵まれた自然や伝統行事、人材を大切に生活重視した保育、子どもが仲間同士育ち合う保育をめざし、地域に開かれた保育所として子育て支援や障害児の統合保育、相談事業にも取り組んでいます。

●経営施設数…3

●法人全体の年間事業収入…365,972千円

●主な経営施設

保育所 広英保育園 昭和25年設立
定員120名

保育所 矢倉保育園 昭和56年設立
定員110名

保育所 津田このみ保育園
平成11年設立
定員150名

実施施設の概要

●施設名…津田このみ保育園

●施設種別…保育所 定員 150名

■施設の運営方針

- ①家庭や地域社会との連携を図り、保護者の協力のもとに家庭養育を補完します。
- ②生きる力、未来をつくりだす力、意欲をもつ子ども、豊かな人間性をもつ子どもを育成します。
- ③地域における子育て支援を行います。

活動の内容

●活動対象者…園児及び地域の乳幼児と児童、生徒

●活動の頻度…月2回、1回あたり8～9時間

●年間延利用者数…105名

●活動開始年…平成15年3月

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

園児の中に言葉や情緒の発達の遅れなど気になる子どもが増えています。また園庭開放に訪れる乳幼児をもつ親などからも発達相談をうけ

1. 地域ニーズへの対応 (1) 施設機能などの地域還元

ることが多くなりました。子どもにも直接対応する保育士は、子どもへの関わり方を専門家に相談し研修を受ける機会が増加していました。

専門機関に行くことをためらう保護者のために、気軽に相談できる窓口を設けることの必要性を感じ、言語聴覚士のボランティアに支えられ、実施にこぎつけました。

相談日は言語聴覚士の都合に合わせて、月2回とし、ケースによって詳しい検査のため、専門機関に送っています。申し込み受付、連絡、施設の管理は、障害児をもつ保護者のボランティアの申し出により実施が実現、継続しています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

財源は全て利用者負担であり、専門家確保の資金、事務担当の人件費は出せない状態です。今のままでは、継続することの不安がぬぐえません。相談予約を受けても現在の月2回の実施では、2～3ヶ月先の相談日となり、子どもの「今」の対応には間に合いません。相談希望者が増え、専門家の増員、相談日を増やしていくことが急務であると考えます。

これから障害をもつ子どもも地域の中で一人の人間として生活していく力を身につけるには、自立にむけてより一層の支援が必要です。足元のしっかりした事業として継続していくために事務員を配置し、専門家にも決まった日時に来て頂けるように人件費の補助制度の実現を期待します。

■利用者の声、地域の反応

姫路では障害児の相談・療育を行っているセンターがありますが、相談希望者が非常に多く、予約希望を出しても2～3ヶ月待ちになっています。その点、本会の活動は、保育園で行っているとすることもあり保護者が気軽に利用して

います。また、専門家の紹介で病院でのSPECT・MRIの検査ができるようになり、必要と認められた子どもたちが検査を受けています。近い所で気軽に申し込み、指導を受け、必要な検査が受けられることに保護者は非常に喜び、相談希望者の増加につながっています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

障害をもっているかどうか悩んでいる保護者にとって、地域の保育園なら気軽に訪問することが出来、障害の早期発見につながっているという利点があります。相談に訪れる親同士は交流をもつことにより、不安が軽減され支えられています。情報は口コミで、悩んでいる親は藁をもつかむ思いで予約を申し込んできます。今後も継続していくためには、専門家の安定した確保、指導料、交通費の支給が出来るような補助制度を求めています。



事例

子育てサークル 転勤妻よりよりの会

カナン福祉センター（香川県） 〒761-8078 香川県高松市仏生山町甲745番地2 TEL 087-889-1059

活動の概要

カナン保育園子育てセンターの8つの子育てサークルの1つです。活動のキーワードは①転勤で香川に来たけど、お友だちがいないという方、集まれ！

②サークル活動で子育てを豊かにしよう（含む家族援助）。③子育てしながら、みんなで“香川”を楽しもう。④お茶したり、手芸したりして、ママの心の支えも考えよう。⑤ひとりぼっちの育児にしない工夫を一緒に考えよう。そこで、2003年度は「性と命」の文集も発行しました。

法人の概要

1967年児童福祉法に基づく認可施設で「キリスト教精神を根底として」保育指針に基づいて保育の業を行っています。カナンとは、聖書の中に神が約束された、乳と蜜の流れる地（出エジプト3：8）、神の約束された地（創世記12：7）のことです。「子ども達が健やかに育まれる園、子どもの楽園であってほしい」との祈りが、そこにこめられています。

香川県県都の南部に位置し、郷土の歴史と文化が息づき、働き盛りの家族が生活する活気のある町、高松市仏生山町に在ります。地域子育てセンターをはじめ、乳児保育、延長保育、統合保育、一時保育、休日保育をして、地域のお役に立つことをめざしています。

- 経営施設数…3
- 法人全体の年間事業収入…32,750千円
- 主な経営施設
 - カナン保育園 1967年設立 定員90名
 - カナン子育てプラザ21（公設民営）
 - 2001年設立 定員120名
 - 児童館 カナン子ども支援センター
 - 2002年設立 定員50名

実施施設の概要

- 施設名…カナン保育園
- 施設種別…保育所 定員90名

施設の運営方針

「安全・安心・癒し=安息」をキーワードに地域の中で「信頼される子育て・青少年のパートナー」を目指します。すべての子ども達が幸せに育つ、親と地域が共に育つコミュニティーを実現するためカナンは応援します。

活動の内容

- 活動対象者…地域の親子（家族）
- 活動の頻度…毎月1回（2003.4～'04.2月）
- 年間延利用者数…249名
- 活動開始年…2000年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

四国の玄関といわれる香川県は、転勤族の家族の流動する県でもあります。カナン保育園は、国のエンゼルプランに発足当初から後押しされ、地域の親子さんのための子育て支援に力を入れてきました。

核家族化や少子化が急速に進む今日、地域の

人との繋がりが薄れてきていますが、転勤族にとっては、子育ての孤立に更に拍車がかかっており、不安や悩み、ストレスを抱えながら子供を育てている現状がうかがえます。

そんな中で生まれた子育てサークル“転勤妻よりよりの会”は、カナン子育てセンターの8つのサークルの1つとして、2人の転勤妻の呼びかけによって発足しました。そして、お父さんも参加する機会を得ています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

- ・ 8つある子育てサークルの1つであるサークルサポーター会と連携して情報交換を密にしています。
- ・ 資金は毎月例会参加費を1家庭300円とし、それに園の活動費を加えて運営しています。
- ・ 子育てボランティア講座への参加を呼びかけ、人材育成し、活動への意欲を高めるよう役立てています。
- ・ テーマを決めて座談会を計画実行し、文集発行にこぎつけ、父親へのアンケートを回収、現在まとめの作業を進めています。
- ・ パッチワークや押し花の手芸活動は、サークル参加者の中から講師が与えられて実現しました。
- ・ 子育てセンター室という専用の部屋活用可。

■利用者の声、地域の反応

2003年11月27日に転勤妻よりよりの会が発行した「座談会 それって本当は育児の悩みですか？」～自分が何にイライラしているのかきちんと考えた事がありますか？～への父親からのご意見（アンケートより）から一部を紹介します。

- ・ <感想は？>：自分が思っているよりも、妻や子供を持つ母親の考えていることは、大変

だと感じています。今まで、妻と子どもの事で話すことはあっても、なかなか深く話合う事は少なかったように思います。夫婦円満が、子どもには一番の子育てになるのでは？と自分自身は思っています。

- ・ <性と命の視点は？>：セックス=子どもの誕生=親としての責任と考えます。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

座談会レポートの文集は50部発行され、父親からのアンケート回答は12枚でした。この中には<ご家庭の幸福は？>という問いに対して、①お互いを尊重し認め合う。②家族みんなの健康、③家族の時間を多く持って仲良くする。④家族みんなが心安らかにすごす。⑤人に対する思いやりがあること…等のご意見がありました。来年度は今回のご意見を参考にして座談会のパートⅡが開かれる予定です。



事例 もうすぐパパママ教室「ふれあい育児体験」

慈愛園（熊本県） 〒862-0954 熊本県熊本市神水1-14-1 TEL 096-383-5100

活動の概要

妊婦とパートナーを対象に実際に乳児ホームで働いている栄養士、保育士や看護師がこれからの育児に必要なことを伝え、自分の子育ての見通しと子どもへの愛着形成の基盤ができることを目的としています。内容としては衣類や寝具、オムツなどの説明、実際に赤ちゃんをモデルにした沐浴見学、衣類の着脱やオムツ交換、授乳、抱っこや寝かせ方の体験、離乳食の説明と試食、調理のコツなどを伝え質疑応答、アンケート記入を行っています。

法人の概要

・設立の背景

第一次世界大戦後、日本では米も食べることができないほど貧しいものでした。大正7年（1918）の米騒動は全国各地で暴動になりました。貧困・病気・人身売買はあとを絶たず、社会事業が待望されていました。

慈愛園創設 「散らされた人々を集め、ひとりも失われないようにする」

・立地

大正8年（1919）3月、日本福音ルーテル教会宣教師会は日本の事情に心を痛め、社会事業を開始することを教会総会に提案し承認されました。

初代園長モード・パウラス宣教師は、北米一致ルーテル教会婦人会の寄付により、土地100平方メートルを購入し、子供ホーム・婦人ホーム・老人ホームを新築しました。

・環境

設立当初は熊本の僻地でしたが、現在は熊本市の東部に位置し、県庁、水前寺公園にも近い文教区になっています。

- 経営施設数…12施設
- 法人全体の年間事業収入…1,732,973千円
- 主な経営施設

慈愛園乳児ホーム（乳児院）
 愛光幼稚園（保育所）
 ひかり幼稚園（保育所）
 シオン園保育所（保育所）
 慈愛園子供ホーム（児童養護施設）
 シオン園（児童養護施設）
 熊本ライトハウス（盲ろうあ児施設）
 熊本ライトハウスのぞみホーム
 （知的障害者更生施設）
 慈愛園老人ホーム（養護老人ホーム）
 パウラスホーム（特別養護老人ホーム）
 慈愛園デイサービスセンター
 慈愛園ケアハウス
 シオン園家庭支援センター

実施施設の概要

- 施設名…慈愛園乳児ホーム
- 施設種別…乳児院 定員15名

施設の運営方針

1. 一人ひとりの子どもに敬意を持って接し、その個性と成長する力を尊重します。
2. 早期家庭復帰が実現するよう家庭を応援するとともに、家庭の意を受けて、
 - (1) 子どもの安心感・安全感の早期獲得を全員でめざします。

1. 地域ニーズへの対応

(1) 施設機能などの地域還元

- (2) ケースマザーとの愛着形成を全員で支えていきます。
 - (3) すべての子どもが基本的信頼を得られるように努力します。
 - (4) 分離体験のもたらす子どもの心理的負担が最小限になるよう努めます。
3. 尊厳ある人として育つにふさわしい環境の整備を怠りません。
 4. 子どもの権利を擁護するため、常に自らを省み、子どもの真の代弁者となれるよう努めていきます。
 5. 乳幼児期の重要性を常に忘れず、遊びを通じて多様な環境のなかで豊富な経験を積むことができるようにしていきます。
 6. 子どもの健康と発達を見守り、全員で支えていきます。

活動の内容

- 活動対象者…妊婦とパートナー
- 活動の頻度…年に4回（4、8、11、2月）第4日曜日（10：00～12：00）2時間
- 年間延利用者数…40名
- 活動開始年…平成元年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

管轄の保健福祉センターの母親学級の一環として行い、園独自の事業となります。

少子化に伴い、実際に赤ちゃんに触れる機会が少ない人や共働きの夫婦が多く、母親だけでは子育ての不安・負担が大きく、協力を求めるには実際に体験して欲しいと妊婦の要望もあり、日曜日に開催しています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

当日は担当の職員を中心にスタッフ一丸となり、プラカードを持っての道案内、駐車場整理も行い、参加者がスムーズにゆったりと参加できるように配慮しています。

参加費は無料。

受付は当日はもちろん、電話やインターネット（<http://kids.kumamoto-net.ne.jp/baby-home>）でも行っています。

■利用者の声、地域の反応

本を読んだりしての知識はあるが実際に赤ちゃんに触れた事により、母親になる実感がわいてとても楽しく、早く自分の赤ちゃんを抱っこしたいと思うという声や子どもを育てる環境の大切さを知ったという声、声かけの大切さや食事の大切さを感じました。今迄知らなかった乳児院の役割や子育て支援事業を知り、職場に復帰した時には是非利用して、今後はパートナーと二人で子育てをしていきたいという声が多くあり、日曜日に開催されて良かったという意見があります。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

日曜日に開催する事でパートナーとの参加が多く、喜ばれています。乳児ホームには各専門家がおり、質問に対しても適切にアドバイスができることが利点です。妊娠中だけでなく、今後の子育ての中での支援事業を伝えることでさらに安心して出産できるのではないかと考えます。他機関とは違い、24時間体制なのでいつでも相談を受け付けることができるのも重要であり、出産後も色々と相談を受け入所につなげたケースもあります。

事例

独居老人宅除雪サービス

愛和福祉会（北海道） 〒044-0221 北海道虻田郡喜茂別町字伏見3-13 TEL.0136-31-2222

活動の概要

この事業は平成6年11月から、喜茂別町内に在住する独居老人世帯31軒の除雪を行っているものです。喜茂別町は北海道でも有数の豪雪地帯で、一晩で数十センチも降雪があり、高齢者にとって除雪が大変な重労働で、大きな負担となっています。さらに、除雪車が残していった雪を処理するのも大変であり当施設が除雪を実施することにより、利用者と老人との交流が進み、喜茂別町より高い評価を受けています。

法人の概要

当法人は、昭和47年12月1日、札幌創成保育園が札幌市より設置認可を受け事業を開始しています。その後、保育園7園、知的障害施設が3園、高齢施設が4園等合わせて14施設を運営しています。当法人は小さな子どもも、障害をもつ方も、高齢の方も一人の人間としてその尊厳が認められ、地域の中であたりまえに生きて行ける社会こそ豊かな社会といえると考えています。

私たちは真の福祉を求め、共に生きる豊かな社会の創造をめざし、このような方針のっとり利用者に対し、多種多様なサービスを利用できるように構築し、その意思を尊重し支援することとしています。

- 経営施設数…14
- 法人全体の年間事業収入…2,497,894千円
- 主な経営施設

保育園	1972年設立	
特別養護老人ホーム		
	1983年設立	定員50名
知的障害者通勤寮	1984年設立	定員40名
知的障害者入所・授産施設		
	1985年設立	定員50名

実施施設の概要

- 施設名…愛和の里きもべつ
- 施設種別…知的入所更生 定員60名

■施設の運営方針

より豊かな生活環境と地域福祉の向上をめざして、生活自立にむけての支援・地域生活の支援・授産的活動の支援を三大方針として各々の利用者の自己実現にとりくみます。

活動の内容

- 活動対象者…喜茂別町内独居老人世帯
- 活動の頻度…月10回・1回5時間・延べ41日間
- 年間延利用者数…31名
- 活動開始年…平成6年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

北海道内でも有数の豪雪地帯である喜茂別町は、行政による除雪・排雪の体制は整備されてきました。

しかし、個人宅の除雪はあくまでも個人の責任において行うものであり、高齢者・障害者世帯においては、いわゆるむこう3軒両隣りのな助け合いで行っていました。高齢化が進むなか

で、互助の精神のみでは、除雪がたちいなくなり、当施設が喜茂別町からの委託を受ける形態で、この事業に取り組むこととなりました。対象世帯は、概ね65歳以上の者で単身世帯、高齢者のみの世帯であり、冬期間の除雪労力確保が困難な世帯となっています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

利用者・職員が当番体制で、活動の体制を作っています。特に休日の出勤については、担当作業班内で人員の確保を行っています。

また、大量降雪時には、町の担当課よりのヘルプコールが入り、人員を派遣する体制をととのえるとともに、担当作業班において定期的に対象宅の巡回を行っています。

年間の資材購入費として、スコップ・ジョンバ・車両燃料等を計上していますが、作業活動の一環としてとらえているので、特に経費的な負担感はありません。

豪雪地帯ゆえに、一夜にして大量の降雪時には、対象世帯を時間内に全てカバーしきれないこともあり、苦慮しているところです。

■利用者の声、地域の反応

利用者は、概ね10名程度、職員は2～3名程で行っています。

長期間行っている事業であり、利用者と対象世帯のあたたかい交流が続いています。老人が利用者にさし入れをしたり、また、利用者が高齢の方に声をかけ、「元気であるネ」などとの会話もはずむこともあります。

福祉施設の利用者が、地域へ貢献していることであり、喜茂別町全体からも、愛和の里きもべつの存在を評価され、この事業を長期にわたり継続してほしいとの要望もでています。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

施設が地域の共同体・社会資源として活動することに、意義があり、また、地域も当施設を受け入れています。

町内的には高齢化が進み、いずれ対象となる世帯が増加傾向となる見込みであり、その際の人員配置については、現在よりも充実させなければなりません。また、市町村合併後には、この事業が存続されるのかどうか、行政側がどう判断するかにより、大きく左右されると考えられます。

事例

自閉症児者療育相談

山形県社会福祉事業団（山形県） 〒999-0134 山形県東置賜郡川西町大字下小松2045の20 TEL 0238-46-3101

活動の概要

強度行動障害特別処遇事業の一環として、在宅あるいは施設等を利用している自閉症児者の、家族や支援に関わる方からの療育相談を受け、臨床心理士や、スタッフ職員が、療育や支援についてのアドバイスを行ったり、専門機関の紹介等を行います。

法人の概要

当法人は、山形県が設置した社会福祉施設を受託運営することにより、一層向上したサービスが提供でき、かつ住民本意のより可能であるとのいわゆる公立民営の精神に立脚し、県の福祉行政と密接な連携を保ちながら、県民福祉の向上に貢献する目的で、昭和39年に設置された法人です。

県内各地の事業所を中心に、第1種社会福祉事業、第2種社会福祉事業、公益事業を展開していますが、平成15年4月からは4つの特別養護老人ホームの自主経営を開始するとともに、在宅福祉、地域福祉の分野にも積極的な事業展開を図っています。

●経営施設数…53

●法人全体の年間事業収入…7,500,000千円

●主な経営施設

特別養護老人ホーム 松濤荘 昭和43年設立 定員100名
 特別養護老人ホーム 寿泉荘 昭和47年設立 定員100名
 特別養護老人ホーム 福寿荘 昭和49年設立 定員100名
 特別養護老人ホーム 大寿荘 昭和51年設立 定員100名
 救護施設 みやま荘 昭和45年設立 定員100名
 救護施設 泉荘 昭和47年設立 定員80名
 身体障害者更生施設 梓園 昭和48年設立 定員70名
 身体障害者授産施設 鶴峰園 昭和51年設立 定員50名

身体障害者通所授産施設 ワークショップ明星園

平成7年設立 定員30名

知的障害者更生施設 吹浦荘 昭和41年設立 定員70名

知的障害者更生施設 慈丘園 昭和48年設立 定員70名

知的障害者更生施設及び授産施設 昭和49年設立 定員500名

精神障害者地域支援センター 平成13年設立

福祉休養ホーム 寿海荘 昭和54年設立 定員56名

障害者就業・生活支援センター 平成14年設立

実施施設の概要

- 施設名…山形県立総合コロニー希望が丘しらすぎ寮
- 施設種別…知的障害者更生施設、定員100名

■施設の運営方針

安全と安心並びに人権擁護を基調とした利用者本位のサービス提供の充実と、個々のニーズに合わせた個別生活支援の推進と共に、在宅支援、地域生活移行に向けた取組み強化。

強度行動障害特別処遇事業の充実。

1. 地域ニーズへの対応

(1) 施設機能などの地域還元

活動の内容

- 活動対象者…在宅の自閉症児者、その家族、自閉症の支援に関わる方
- 活動の頻度…随時
- 年間延利用者数…23名
- 活動開始年…平成12年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

昭和60年頃より自閉的傾向の見られる方が何名か在籍していましたが、平成3年、強い行動障害を持つ自閉症の方が入所されたことから自閉性障害の特性の理解と、それに基づいた支援に取り組み始めました。研修も自閉症に関わる内容のセミナー、実地研修等積極的に参加し、援助技術の向上を目指してきました。平成12年1月より、強度行動障害特別処遇事業の認定を受け、訓練棟を設置し、専任スタッフと共に臨床心理士、精神科医といった専門スタッフも嘱託配置し支援を行っています。事業の一環である啓発活動から、在宅の自閉症児者の家族の方による療育相談や、施設等利用中でも支援の困難性の高い方への支援内容についての相談等を受けるようになりました。

人材・資金面等での工夫、苦慮

特別事業対象者の支援と共に、寮利用者への支援も行っており、スタッフも変則勤務のため、職員配置に調整が必要であり、相談の日程、時間帯を施設側の都合に合わせてもらうケースも多い。また、臨床心理士が多忙なこともあり、月に2～3回の勤務の時もあり専門スタッフによるタイムリーな対応ができない時もあります。

利用者の声、地域の反応

地域に在宅の方が相談できる資源が少ないため、学齢期から成人期にかけての方の相談が多い。継続的なアドバイスにより、家族や学校、施設関係者の理解が得られたり、行動改善が見られたケースもあります。養護学校等、学校教育あるいは施設での取り組みも充実してきていますが、卒業後の生活について不安を持つ家族の方も多い。ニーズに応じ、サポートできる資源の整備に対する要望が高い。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

在宅の方だけでなく、施設支援関係者についても、情報交換や療育困難なケースへのアドバイス、それによる行動改善等評価を得ています。又、支援の継続性、ネットワークの必要性から、今年度より自閉症療育研究協議会を発足し、近隣の施設、養護学校といった関係機関の地域でのネットワーク作りを行っています。生涯にわたるケア及びファミリーサポート、療育相談機能、必要な時に必要な支援を提供してくれるジョブコーチやガイドヘルパー、スケジュールキーパー等、ニーズに応じ、総合的にコーディネートできるセンター的機能が早急に必要です。

事例

乗馬教室 アニマルセラピー

にいはり福祉会（茨城県） 〒300-4106 茨城県新治郡新治村小高572-1 TEL 029-862-5116

活動の概要

年4～5回地域の障害児者、健常児者を対象として、日本乗馬療法協会から大小3～4頭の馬とスタッフ、当園の職員が企画段取りを行ない、ボランティアとして主に筑波大学社会福祉研究会メンバーが毎回協力し運営ができます。定期的に開催している中、半数近くはリピーターの親子連れです。和気あいあいの雰囲気楽しくできております。今後の課題としては費用対効果を進めて行かなければならないと考えております。

法人の概要

昭和62年社会福祉法人にいはり福祉会が設立され翌年63年4月に知的障害者授産施設通所にいはり園30名が開所、設立の背景、立地は同法人理事長が兼務している会社所有の土地の寄付と施設整備等1/4は同会社から寄付金を受けました。その他一般者からの寄付金や保護者等の協力は一切受けませんでした。

その後平成10年10月知的障害者更生施設入所みもり園を開所、その背景には初代にいはり園施設長の妻の家所有の山林の寄付を受け施設整備費の1/4は地元つくば市からと借入金は社会福祉・医療事業団と市中金融機関から借入し整備を行い現在に至っております。

- 経営施設数…2ヶ所
- 法人全体の年間事業収入…275,730千円
- 主な経営施設

知的障害者授産施設	通所	
	昭和63年設立	定員30名
知的障害者更生施設	入所	
	平成10年設立	定員50名

活動の内容

- 活動対象者…地域の障害児者、健常児者
- 活動の頻度…年4～5回
- 年間延利用者数…500名
- 活動開始年…平成8年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

みもり園園長はアメリカテキサス州でカウボーイ経験者で大変な動物好きで、知的障害者特に自閉症に対してイルカとのコミュニケーションが大変有効な手段であるという事を知ったが馬でも可能であるという事ではいはり園近くの塚田陶管グラウンドで平成8年から活動開始、平成11年8月にはアメリカテキサス州から乗馬セラピーのインストラクターを招き全国各地の障害者乗馬関係者を集めて講習会を2日間行ないました。その時にはNHK水戸放送局の取材も受け成功を収める事ができました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

乗馬療法を開催するにはたくさんの人手と資金が必要です。人手の確保が最大の課題です。最低でも15名程のスタッフが必要です。最初のころは近隣の同種の施設へ呼びかけ応援をもらいながら行なってきましたが最近では日本乗馬療法協力のスタッフと筑波大学生のボランティアの協力で毎回安全安心な療法を行う事が可能になりました。資金面では、年2回分は「つくば市」からの協力をいただき大変やりやすくなりました。利用者からは、料金の1割程度の参加費をいただき参加者のおやつ等にあてております。

■利用者の声、地域の反応

リピーターの親子参加者からは毎週行なって欲しいとの声も聞かれますが、費用とスタッフ、ボランティア等の関係で不可能です。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

活動の成果。みもり園の場合最重度の利用者が馬に乗った時、普段の顔（表情）とは違った顔が見られ精神的な安定と、長く続ける事によって運動にもなります。心（精神）とからだ（身体）の両方の効果が期待できます。

長年培ってきた実績が認められ、つくば市から年2回分の補助金をいただく事ができるようになりました。今後の課題として屋内馬場を整備し毎週定期的に行う事が可能になればもっと多くの重度の障害者（心と体）のリハビリが可能になると期待でき理学療法の一部にもなると思われます。

ヨーロッパでは障害者施設で馬を飼う事が非常にポピュラーな事なのですが、日本ではまだまだです。



乗馬教室 アニマルセラピーの様子

事例 あずま太陽の家 事務処理科 「パソコン教室」

山梨太陽の家（山梨県） 〒400-0071 山梨県甲府市羽黒町1272番1 TEL 055-251-4123

活動の概要

平成15年1月14日より、初心者の方を対象にした「あずま太陽の家パソコン教室」を開始しました。「パソコンをはじめてみたい」「パソコンを使いたいけど操作がわからない」というような方を対象に、施設入所者、作業指導員がチームを作り、指導実施計画を立案して、期間区分を設けて、指導を行っています。当初、地元新聞の一面を使い、広く一般に広報した結果、多くの一般地域住民の参加も行われています。

法人の概要

当法人は、昭和62年4月に、20名定員の身体障害者通所授産施設を設置し、事業を開始しました。その後、平成11年10月に身体障害者デイサービスセンターを1日利用定員5名で認可を得、平成13年12月に身体障害者通所療護施設を利用定員4名で認可を得て、今日に至っています。

通所授産事業の主なものは、①印刷科（オフセット印刷機による封筒印刷等）②軽作業（地場産業である鹿革工芸品の甲州印伝の下請組立作業）③事務処理科（「パソコン教室」中心）等です。

施設は、甲府市街地から車で15分程の場所にあり、通所バスを甲府駅と当施設の間を運行し、通所者の送迎を行っています。

- 経営施設数…3
- 法人全体の年間事業収入…60,000千円
- 主な経営施設
- 身体障害者通所授産施設
昭和62年設立 定員20名
- 身体障害者デイサービスセンター
平成11年設立 定員5名
- 身体障害者通所療護施設
平成13年設立 定員4名

実施施設の概要

- 施設名…あずま太陽の家
- 施設種別…身体障害者通所授産施設、定員20名

施設の運営方針

障害者は、自分の幸せを得るために、「援助」という安易な考え方でなく、確固たる信念を持ち、一社会人としての自覚を持って、一日一日を大切にすごしてもらいます。障害者の自立をめざした地域作り活動に努めます。

活動の内容

- 活動対象者…障害者、児童、主婦、老人、一般成人等制限を設けない。
- 活動の頻度…毎日、午前と午後に分けて活動
- 年間延利用者数…1,500名
- 活動開始年…平成15年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

平成14年度事業で、国の設備近代化事業に、老朽化したワープロ10台の後継機種として、パソコン10台を申請したところ、承認をいた

1. 地域ニーズへの対応 (1) 施設機能などの地域還元

だき、整備することができました。この整備されたパソコンの活用方法として、施設利用者に限定せず、広く地域に門戸を広げ、施設利用者がこれまでに習得してきたパソコン操作能力を、地域の子供から主婦、老人にまで広げて、利用の機会を提供し、かつ、低額料金でいつでも誰でもが利用できる場を提供しました。

こうした機会に、施設を気軽に活用し、人間関係が生まれ、互いに理解し合う機会となることを願っています。児童も夕方等を利用しており、地道な地域活動となるような活動として育ててまいりたいと思います。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

当パソコン教室は、2ヶ月を1サイクルとして受け付けていますが、希望者が多く、また、継続受講を希望される方も多い。また、施設利用者の中にもパソコンを使いたい方も居る等で、全体の日程調整に苦勞する面も見られます。

現在、指導体制は、職員2名、障害者4名となっています。指導方針としては、「基本操作の習得」とし、受講終了時には文字入力ができ、簡単なチラシが作れる程度を目標に行っています。

1回の受講料を300円としているので、採算ベースというわけにはとてもいきません。

課題は、指導レベル向上のニーズに対応する指導体制づくりにあると思われれます。

■利用者の声、地域の反応

先日(2月10日)施設の広報紙に73才の受講者の方が投稿されたので紹介します。

『73才の初体験ですが、挑戦してみることに価値があると、やってみました。最初はなかなか覚えが悪くはかどりませんでしたが、段々やって行くうちに興味も手伝って、面白くなっ

てきました。ひとつひとつが新鮮に興味深く感じられ、週2回の午前中が楽しくなりました。無論、私を指導してくださる方々の御協力もあっての事と思います。なによりも私の心構えであります「過ぎ去った昨日を今日に生かし、今日の反省を明日に生かす」という生きがいをもって、努力することにつきると思います』といった記事をいただきました。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

パソコン教室が、息長く、地域の中で活用されることを願っています。そのためにも、指導する者のたゆまぬ精進、努力が必要であり、また、設備の維持向上にも努めてまいりたい。

将来、このパソコン教室で培われた技能が上達し、施設の中核事業の一つである印刷業において、版下等の製作等で職業技能が習得されるような方向が芽生えてくれることを、一方では願っているところです。

(ホームページアドレス

<http://www.a-taiyou.com/>)

事例

学童障害児の夏休み支援(母子家庭等対象)

南山城学園 (京都府) 〒610-0115 京都府城陽市観音堂甲畑1-2 TEL 0774-54-4507

活動の概要

母子家庭で、かつ、母親が働いており、障害を持つ子供の夏休み等長期休み期間の在宅での養育が困難なケースについて、障害児(者)地域療育等支援事業(地域療育支援センターういる)が中心となって、ホームヘルパーや行政関係者、社協、民間施設と共にネットワークをつくり、これらの子供達の長期休み中の日中活動の場の保障と、母親の就労継続について支援を行い、在宅生活を支えています。

法人の概要

法人理念

- ・利用者の尊厳を守り、幸福を追求する
- ・地域のニーズにパイオニア精神で取り組み「共生・共助」の地域づくりに貢献する
- ・いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する

沿革

社会福祉法人・南山城学園は、昭和40年、京都府南部の南山城の地に開設され、現在では3つの入所更生施設、1つの入所授産施設、4つのグループホームならびに、高齢・身障・知的の各デイサービスセンターや障害者・高齢者のための総合相談機関、及び診療所を含めた、総合福祉法人として地域密着型の福祉づくりをめざしています。

- 経営施設数…6
 - 法人全体の年間事業収入…1,000,000千円
 - 主な経営施設
- | | | |
|----------------|------------|--------|
| 知的障害者更生入所施設「翼」 | 平成11年7月設立 | 定員35名 |
| 知的障害者更生入所施設「和」 | 平成11年7月設立 | 定員90名 |
| 知的障害者更生入所施設「円」 | 昭和40年3月設立 | 定員100名 |
| 知的障害者更生入所施設「魁」 | 昭和49年10月設立 | 定員60名 |

- | | |
|---------------------------------|-----------|
| 地域福祉支援センター | 平成14年4月設立 |
| 知的障害者デイサービスセンター「あっぷ」 | 平成11年7月設立 |
| 地域福祉支援センター高齢者デイサービスセンター「すまいる」 | 平成14年4月設立 |
| 地域福祉支援センター身体障害者デイサービスセンター「すいんぐ」 | 平成14年4月設立 |

実施施設の概要

- 施設名…地域療育支援センター「ういる」
- 施設種別…知的障害者更生入所施設「翼」に位置づく、相談支援事業

施設の運営方針

知的障害者更生入所施設「翼」に位置づく障害児(者)地域療育等支援事業の一環として取り組んだものであり、同事業は、在宅の障害児者への相談支援活動やケアマネジメントの策定等、コーディネートや課題解決にむけた活動を行っています。

1. 地域ニーズへの対応

(1) 施設機能などの地域還元

活動の内容

- 活動対象者…母子家庭の障害学童児
- 活動の頻度…養護学校の長期休み期間
- 年間延利用者数…70名
- 活動開始年…平成14年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

障害を持つ学童児（特に中学生以上）に対する学童保育的な支援が整備されていない状況の中、母子家庭で母親が働いているケース等は夏休みなどの長期休み中、在宅で日中の養育を行うことができず、この時期を契機に施設に児童を入所させたり、職を辞して母子ともに保護の対象となるといったケースもありました。学童保育的な機能を持つ日中受け入れ場面の整備があれば、母子の地域生活は安定して継続できるのだが、制度的基盤もなく障害児が家庭に一人とどまらざるを得ない場合もありました。このような状況の中、地域の相談支援機関（「ういる」）が中心になり、支援ヘルパーや活動場所、また送迎の支援などをコーディネートし、在宅生活安定のための支援を行いました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

障害を持つ学童児（特に自閉症などの障害特性がある場合）を支援するにあたり、障害や発達に一定の理解を持ちながら、なおかつ、子供と一緒に活動を創ってゆけるホームヘルパーの確保が、まずネックとなりました。従来の高齢者対応のヘルパーでは、専門性が異なったり、子供に長時間対応する体力面での問題があったため、このケースでは、特例的に学生ヘルパーを臨時採用していただいた。また、ヘルパーの活動時間にも概ねの上限があったものを、これ

も事情にかんがみ必要時間数の派遣を実現しました。また、活動場所の選定も、子供の活動性を考慮に入れ、当法人が運営する知的障害者デイサービスセンターの施設と敷地を提供し、家庭内に閉じこもることを解消しました。

■利用者の声、地域の反応

母親の手記より——抜粋・要約——

私は養護学校中学部の障害児を持つ母親です。実は私達親子は母子家庭ですが、子育ての上で一番困ったのは長い夏休み・冬休みの対応でした。小学校の時は学童保育で預ってもらうこともできましたが、中学にあがってからは学童保育も使えなくなりました。そこで、もう一人私と同じような共働き家庭の障害児を加えて、何とか支援してもらえないかと「ういる」に相談しました。このコーディネート事業に相談したのがきっかけで小さいけれども意義のある活動が生まれました。理解のあるヘルパーさんをつけて、長い休み期間中マンツーマンの対応ができました。私も仕事を続けることができ、本当に感謝しています。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

地域における学童児の夏休み等長期休み期間についての支援の問題については、市の育成会等からも問題提起があり、特にこのケースが新聞等に取り上げられてクローズアップされるに従い、市としても何らかの対応策を検討してくれることとなり、結果、市が地域の作業所に依頼する形で学童児の夏、冬、春の各長期休み期間について、支援を行う方針が打ち出され、現在、「夏の家」「冬の家」といった形態で障害学童児の長期休み対応が実現し、利用がすすんでいます。

言語発達相談・言語訓練

幸生会（長崎県） 〒854-0121 長崎県諫早市有喜町537番地2 TEL0957-28-3131

活動の概要

昭和57年、1歳6ヶ月健診事業の一環である諫早市の「言葉の相談事業」への協力要請に応じて専門職員を派遣したのをきっかけに在宅で言語に何らかの問題のある児童及び成人に対して相談及び言語訓練を実施しています。言語聴覚士による発達相談や個別訓練、施設への職員派遣など、昭和57年から現在まで延べ9,105人の支援を行ってきました。

法人の概要

昭和35年、当時長崎県職員であった山田理事長が、婦人児童課長に就任して間もないある朝、「障害児をもつ母親より」と書かれた手紙を手にしたことが、社会福祉法人幸生会誕生の出発点でした。その手紙には重度の障害の子どもを抱え、時には死に場所を求めることもあるという母親の苦悩と、障害児対策への強い願いが記されてありました。「この子らとその家庭の力になりたい」という山田理事長の思いは長崎県を退職後も強く残り、諫早市をはじめ関係者の支援を得て福祉施設経営へと歩み出しました。昭和52年、社会福祉法人幸生会設立。昭和53年諫早市の協力のもとに最初の事業として取り組んだのが重症心身障害児施設です。

- 経営施設数…9
- 法人全体の年間事業収入…2,398,321千円
- 主な経営施設
 - 重症心身障害児施設
昭和53年設立 定員160名
 - 特別養護老人ホーム（2施設）
平成6年、平成9年設立 定員50名、30名
 - 老人デイサービスセンター（2施設）
平成3年、平成5年設立 定員30名、20名
 - 老人介護支援センター 平成12年設立

身体障害者療護施設

平成11年設立 定員50名

身体障害者デイサービス事業

平成11年設立 定員15名

実施施設の概要

- 施設名…諫早療育センター
- 施設種別…重症心身障害児施設
定員160名

施設の運営方針

心身の著しい障害があつて家庭での生活が困難な重症心身障害の児童及び成人の方に対して適切な療育を行い、利用者一人ひとりが持てる力を発揮して、その人らしい生き生きとした生活がすごせるように支援します。

活動の内容

- 活動対象者…在宅で言語又はその発達に障害のある児・者
- 活動の頻度…月25回 1回あたり1時間
- 年間延利用者数…平成14年度 298名
- 活動開始年…昭和57年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

昭和57年、諫早市の協力要請に応じて1歳6ヶ月健診事業の一環である「言葉の相談事業」に諫早療育センターの言語聴覚士を派遣したのをきっかけに、在宅で言語に何らかの問題のある児童及び成人の方に対して言語発達相談や訓練を実施しています。平成5年～12年にかけて諫早市や隣接する大村市の言葉の相談・訓練事業、養護学校や病院の言語訓練等に言語聴覚士を派遣し、専門的な観点から地域の言語療法に取り組みました。

現在は来所者を対象とした個別指導・訓練や保護者や家族への指導・助言、また障害の状態によっては作業療法士とチームを組んで療育支援する等ニーズに応じたサービスを提供しています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

年度によっては言語聴覚士の退職や異動が重なって、外部への派遣が困難な時期もありその場合は施設内で来所者対象に活動を行うなどしています。

また、言語に関するだけでなく、不登校や福祉資源についての相談もあり、本人よりむしろ家族や生活環境の調整が必要な利用者もあり、他の支援機関の紹介等も行ってきました。何らかの支援が必要な人達が在宅生活を送るためには関係機関をはじめ地域諸資源との連携が必要であり、課題でもあります。

■利用者の声、地域の反応

一人ひとりの障害に対応した訓練を専門的な観点と手法により受けられるため、障害の克服と発達の促進について希望を持てるようになること、また、悩みの相談などが直ちに持ちかけられるなど、安心して家庭での療育に携われる

ようになった等の声が寄せられています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

専門の言語聴覚士の指導により、個々のニーズに応じたサービスの提供を行うことにより課題に対する集中力、持続力が増して訓練の成果が出てきているという保護者の声を聞いています。諫早市及び周辺の地域の言語に障害がある児・者へ支援の中核機関の一つとして評価されています。

事例

地域生活体験棟サポート事業

山形県社会福祉事業団（山形県） 〒993-0033 山形県長井市今泉1812 TEL 0238-88-9211

活動の概要

泉荘の第2グループホーム「みどり荘」を活動拠点に、グループホームの利用者、在宅の精神障害者等に各種サービス（生活相談、健康相談、福祉サービス相談）や、ミュージックケア、フラワーアレンジメント、そば打ち体験等のカルチャーサービスを提供することにより、施設機能の地域展開の拡大を図り、在宅障害者の福祉向上と、地域生活支援に寄与することを目的に実施しています。

法人の概要

当法人は、県民福祉の向上を目的に、昭和40年に山形県により設置された社会福祉法人であり、県立社会福祉施設の受託運営を中心に事業を展開してきました。その事業は、第1種社会福祉事業、第2種社会福祉事業、公益事業と多岐にわたっていますが、最近は福祉や法人を取り巻く環境の変化に対応して、自律的な経営へのシフトに取り組んでいます。

具体的には、平成15年4月から4つの特別養護老人ホームの自主運営を開始するとともに、在宅・地域福祉分野における相談支援事業等に積極的な事業展開を図っています。

- 経営施設数…15
- 法人全体の年間事業収入…7,500,000千円
- 主な経営施設
P.36参照

実施施設の概要

- 施設名…山形県立泉荘
- 施設種別…救護施設、定員80名

■施設の運営方針

泉荘は、障害を有する利用者の一人ひとりを地域で暮らす一市民として尊重し、その基本的人権と健康で文化的な生活を保障します。また、施設が「地域福祉の拠点」となるよう施設機能の地域展開を推進します。

■活動の内容

- 活動対象者…グループホーム利用者、在宅の精神障害者、地域住民
- 活動の頻度…カルチャーサービス年3回、生活・健康・福祉相談随時
- 活動開始年…平成14年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

平成12年12月、グループホーム認可前の「みどり荘」を「地域生活体験棟」と命名し、地域生活体験を希望する泉荘利用者を対象に具体的に地域での生活体験をすることにより地域住民としての意識の涵養を図る目的で「地域生活体験事業」を開始する。その後、地域へ活動範囲を拡大し、グループホーム「ハヶ森荘」の利用者や、在宅精神障害者への各種サービスの

1. 地域ニーズへの対応 (1) 施設機能などの地域還元

提供、サポート体制の構築を目的に「地域生活体験棟サポート事業」を平成14年度から展開する。活動場所は、「みどり荘」の洋間を利用したり、参加者が多数の場合は、施設内の生活体験棟「つくし寮」を利用して実施しています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

地域生活体験棟サポート事業のサポート体制としては、泉荘の自立促進部会、グループホームの専任・支援スタッフ、看護師等の泉荘職員が中心となって対応しています。特に、生活相談、福祉サービス相談については、社会福祉士、精神保健福祉士の有資格の職員が親身になって支援しています。また、ミュージックケアや健康運動実践等は、それぞれ専門の研修を受けた職員が実技指導を行っています。予算的には、カルチャーサービスのフラワーアレンジメント、そば打ち体験の外部講師への謝礼と材料費程度を計上しています。

■利用者の声、地域の反応

泉荘の「地域生活体験棟サポート事業」は、グループホームの利用者、在宅の精神障害者を対象に、生活相談、健康相談、福祉サービス相

談を実施したり、年3回程度のカルチャーサービス（ミュージックケア、フラワーアレンジメント、そば打ち体験）を実施しています。相談事業は、利用者から高い信頼を得ています。カルチャー事業も昨年度より参加者が増加し、概ね好評です。本来、こうした在宅の精神障害者への様々なサービス提供と生活支援は、行政を中心として行われるべきですが、当地域においては、ニーズも高く、この事業を通して、泉荘が、その一端を担っていると思われま

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

今年度実施したフラワーアレンジメントやそば打ち体験事業は好評で参加者も昨年より増加しています。障害を有している方が地域で暮らしていくためには、地域住民の方の理解と協力が必要であり、そのためのサポートが大切です。施設の機能を十分発揮して、施設が地域福祉の拠点となるよう、今後も地域生活のサポート事業を通して、利用者の地域生活支援と、地域貢献に向けた活動を実践していきたいと思



フラワーアレンジメント教室

事例

大阪自彊館あいりん相談室

大阪自彊館（大阪府） 〒557-0004 大阪府大阪市西成区菟之茶屋1丁目9番14号救護施設三徳寮敷地内 TEL 06-6645-0504

活動の概要

失業や高齢、疾病等に伴う生活障害の諸問題を抱え、主に「あいりん地域」で生活困窮状態を余儀なくされている労働者、野宿生活者等に対し、生活全般にわたる相談を受け、その自立を支援します。

関係機関、各種団体等との連絡調整および情報交換。野宿生活者等の実態把握。

法人の概要

明治45年、釜ヶ崎の惨状（最下層の生活環境）を「何とかできぬものか」との発想から当地区の環境改善と労働者への宿所提供を目的に設立されました。釜ヶ崎は全国最大の「寄せ場」として、主に建設労働市場へ日雇い労働者を供給していますが、長びく不況で多くの労働者が仕事を失い、野宿生活を余儀なくされています。日雇い労働はきわめて不安定な雇用形態であることから、好不況の影響を真っ先に受け、かつてから経済の調整弁的役割を担わされており、日雇い労働者は雇用する側の恣意によって常に犠牲にされてきました。こうした状況は社会的に創り出された側面が大きく、社会の責任として問題解決を図っていく必要があります。

- 経営施設数…11
- 法人全体の年間事業収入…5,337,140千円
- 主な経営施設
 - 救護施設 7施設
 - 昭和42年～平成8年設立 定員1,000名
 - 更生施設 昭和27年設立 定員240名
 - 身体障害者療護施設 2施設
 - 昭和48年、平成7年設立 定員100名
 - 特別養護老人ホーム
 - 平成7年設立 定員104名

実施施設の概要

- 施設名…三徳寮
- 施設種別…救護施設 定員150名

施設の運営方針

「あいりん」とともに生き、地域が抱える課題と積極的に取り組みます。「他律から自律、依存から自立へ」を利用者サービスの基本とします。利用者一人ひとりの人格を尊重し、各人に即した過不足のない適切なサービスを提供します。

活動の内容

- 活動対象者…主に釜ヶ崎の労働者、野宿生活者
- 活動の頻度…週5日 9:00～17:00
- 年間延利用者数…約2,400名
- 活動開始年…平成12年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

当法人は、明治45年釜ヶ崎の惨状の改善を目的として創立されました。創立から約90年が経過し、その間に法人全体の様相は大きく変

1. 地域ニーズへの対応 (1) 施設機能などの地域還元

化してきましたが、創立当初の理念は常に法人の方針の根底にあります。いわゆる「あいりん対策」の一翼を担う形で当地区の改善のために、必要とされる役割「夜間巡回、単泊宿泊の受入れ、生活ケアセンターの運営、自立支援センターの運営等」を果たしてきました。しかしより一層の生の声をくみ上げて、即応できる取り組みの必要性も痛感されました。当地域は街としてのハード面での改善は確かに進んできたと言えますが、労働者の置かれている過酷な状況は深刻化しています。そうしたなか相談室は釜ヶ崎の中に自ら一步を踏み入れたと言えます。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

現在、社会福祉士2名で業務を遂行していますが、有資格者であるよりは、釜ヶ崎の実情をどれだけ正しく把握しているかのほうが重要と思えます。釜ヶ崎には生活困窮している労働者等を陰に陽に支えている機関、団体、人、物等(活用しうる資源)が比較的多く存在していると言えます。相談室もそうした資源のひとつとして機能しています。従って、利用者のニーズ充足のために活用しうる資源との連携に努めてきました。各機関、団体ごとにそのスタンス、立場に違いがあるので、それぞれの持ち味、特徴を理解し、情報の共有化を図るためにも、日常的に他資源とのコミュニケーション、意思の疎通を図る努力をしてきました。

■利用者の声、地域の反応

生活困窮状態にある相談者をいかに適切な窓口(資源、施策、制度等)へつなぐかが相談室の主たる仕事です。こうしたことを地道に行ってきた結果、それなりに釜ヶ崎を取りまく多くの資源との連携が形づくられてきました。そのことによって、相談者の問題解決がスムーズに

行えるようになり(当然難ケースでどうにもならない場合もあるが)、口コミで相談室の機能が広がり、対応した相談者に紹介されて来室する人、他資源から紹介されてくる人が増え、地域の相談窓口として認知されるようになってきました。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

事業開始してからの3年間で確実に把握しているだけでも、約400名の人を路上から畳の上の生活へ戻しました。地域の資源(含む民間)を活用し続けたことで街づくりのためのネットワーク化が進みつつあります。

課題としては、難ケースの問題解決のためにさらに資源の開拓が必要です。対応後に次々と問題発生する人もあり、相談室としてフォローが現体制でどの辺まで可能なのかの見極めも必要だと思えます。当然、地域資源とのさらなる連携の強化、ネットワークの形成も重要です。



あいりん相談室

事例 至誠コミホーム（憩いの場活動）

至誠学舎立川（東京都） 〒190-0023 東京都立川市柴崎町3-18-18 TEL 042-527-9553

活動の概要

地域住民よりご遺贈いただいた民家を一部改修し、家庭に引きこもりがちな高齢者をはじめとした地域住民の憩いの場として開放しています。

多くのボランティアの協力を得て、お茶のみ場、趣味活動の場、異世代交流の場として運営をしています。

法人の概要

社会福祉法人至誠学舎立川は、明治45年、司法少年保護団体として設立されました。

昭和17年財団法人へ、戦後社会福祉法人への組織変更を経て、「誠の心」を理念として、児童福祉・高齢者福祉・乳幼児保育等、様々な福祉活動を行っています。

至誠コミホームを運営するのは、高齢者福祉部門の至誠ホームです。

至誠ホームは昭和26年に養護老人ホームを設立以来、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、ケアハウス、各種在宅サービスを立川市を中心に提供しています。

生活施設としても在宅サービスの拠点としても、高齢者及びその家族の生活を支援する総合的サービスの提供に日々努めています。

- 経営施設数…18
- 法人の年間事業収入…1,800,000千円（高齢者福祉部門）
- 主な経営施設
 - 軽費老人ホーム 昭和38年設立 定員50名
 - 特別養護老人ホーム（従来型）
昭和52年設立 定員150名
 - 特別養護老人ホーム（ユニット型）
平成12年設立 定員70名
 - ケアハウス 平成15年設立 定員50名

活動の内容

- 活動対象者…地域在住高齢者
- 活動の頻度…月22日程度、1回当たり6時間
- 年間延利用者数…2,071名
- 活動開始年…平成13年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

ご寄贈者の遺志により、地域在住高齢者のために運営することとし、法人として、介護保険では担いきれない面をカバーするとともに、誰もが気軽に立ち寄ることのできる憩いの場として開放することとなりました。また、介護予防を目的とした様々な活動を企画しました。

運営は、ボランティアが中心となり、地域民生委員とで構成する「コミホーム運営委員会」を設置し、活動の企画等にかかわることで、より地域に密着した場を目指しました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

至誠コミホームには、非常勤職員が1名常駐しています。ただし活動にあたっては、地域ボランティアが中心となり、職員は側面からサポートするかたちを取っています。

利用者については、気軽に立ち寄れる場ということから利用料の徴収はしていません。ただ

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

し、季節行事等にかかる材料費等の実費をいただく場合があります。独自の会計とはせず、改修をはじめとした経費はほぼ全額法人の持ち出しとなっています。

事業運営については過去2年間、助成団体からの助成金で行っています。法人の思いと事業運営上の資金調達方法との兼ね合いが今後の課題といえます。

■利用者の声、地域の反応

地域民生委員、ボランティアを中心としたPR活動により、コミホームの存在が地域に広がりを見せ、利用者も増加傾向です。ただお茶を飲むだけの方から趣味活動に参加する方まで、その利用法は様々ですが、「ここへ来るのが楽しみ」や「家にいても人と話すことが無くさみしいので助かる」といった声が多くなってきています。また、地域の小学校との交流も活発であり、地域密着の新しい場として、反応も良いようです。



民家を改修して、いこいの場活動を行っています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

憩いの場、介護予防の場として地域からも期待をされています。利用者からも活動内容について様々な要望も出始めており、地域密着の場として機能してきています。

今後は事業運営についての助成金の確保を始め、利用者にはできるだけ負担をかけず、いかに必要資金を調達していくのかが大きな課題といえます。



様々な趣味活動を行っています。(写真は籐編み教室)

事例

藤井寺地域ネットワーク

みささぎ会 (大阪府) 〒583-0024 大阪府藤井寺市藤井寺4丁目11番7号 TEL 0729-52-0008

活動の概要

平成15年9月より会を発足させ、地域の障害を有する方々と各事業所が、毎月第4水曜日に集まり、情報交換や障害を有する方々との日頃感じている疑問や不安な気持ちを受け止め、改善出来ることであれば、働きかけをしています。

法人の概要

1980年の当初、府・市より特養未設置のため、高齢者福祉の向上、推進はままならないという事で、現理事に設置要請をいただきました。同時に、特養は山間部に多く、市街地に設置されている施設は少ないので、ぜひ当藤井寺市(市域は全て市街地)に設置願いたいとの要望がありました。

現理事を始め他の役員も、元々同上の条件下で、施設の設置を考えていたので、行政との間ではスムーズに運びました。ただし、地域住民の総論賛成、各論反対は根強いものがありました。

立地条件として、藤井寺駅より徒歩10分、第1種住居専用地域、施設の西どなりは仲哀御陵、閑静な住宅地にあります。

●経営施設数…2

●法人全体の年間事業収入…900,000千円

●主な経営施設

藤井寺特別養護老人ホーム

昭和63年設立 定員70名

高齢者ケアセンター つどうホール

平成14年設立 定員50名

実施施設の概要

- 施設名…藤井寺特別養護老人ホーム
- 施設種別…特養、定員70名

施設の運営方針

保健・医療・福祉に関する各種介護サービスが多様なサービス提供機関より利用者のニーズに沿って、総合的、一体的に効率よく提供されるように努めていくと共に、地域にみとめられるように事業に取り組みます。

活動の内容

- 活動対象者…地域の障害を有する方
- 活動の頻度…月1回 1回あたり2時間
- 年間延利用者数…69名
- 活動開始年…平成15年

活動開始の背景(取り組みの経緯)

支援費制度が開始された、去年4月に、障害を有する方より、自分達の思いを聴いてもらう機会がないので、是非、そういう場を作って欲しいと声が出てきました。5月と7月に1回ず

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

つ行い、大きい事は出来ないが、日常生活で困っている小さな事から変えていくのを目的に、他事業所の方にも参加してもらい、9月より会を発足し、活動を開始しました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

活動自体が始まったばかりで、藤井寺市全域に周知できておらず、障害を有する方々の参加者も少ない。参加者が多くなれば今以上、生の声が聴け、私たちも勉強になると同時に、行政も動かせるのではないかと考えています。

その為、どの様にPRすれば、より多くの方に参加して頂けるのか考えていく必要があります。

工夫している点としては、会館まで来ることが大変な為、自宅まで送迎をさせていただいています。

■利用者の声、地域の反応

「自分達の思いなどを聴いてくれる場所がないので、とてもよい機会です。」「若い障害者が集まる場がなく、友達以外、他の障害者がどこに住んでいるのか全く知りません。この会でどんどん参加者を増やし、障害者同士がもっと情報交換できると思います。」「支援費でのショートなど自宅から近い施設でやっているのをこの会を通して初めて知りました。」などという参加者の声が聴かれます。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

障害を有する方のみで、日常生活用具の申請をされても、該当しないといわれたが、この会を通し、働きかけをすることにより、申請できたなど、障害を有する方々の疑問に感じていることに答えたり、日頃感じている不安などを聴くことで、不安が少し和らいでいます。

今後は課題として、行政に参加してもらい、生の声を聴いて施策に反映できることはしてもらいます。

事例

引きこもり児童の施設体験

寿耕会（鳥取県） 〒689-4403 鳥取県日野郡江府町久連7番地 TEL 0859-75-3626

活動の概要

関係機関（町役場の保健福祉課、民生児童委員、児童相談所）との連携により、特別養護老人ホームにおいて、引きこもり児童1名（17歳）を体験研修職員として受け入れ、本人の希望により週3日通うことになりました。

入所者ならびに従業員と触れ合うことで、他者とのコミュニケーションがとれるようになり、1年3ヶ月を経て宿泊施設への就職につながりました。

法人の概要

江府町の要請に基づき平成5年7月26日設立。

立地、環境としては大山山麓に位置し、風光明媚で静寂この上なく、スイスのチロル高原の様な自然に恵まれた最良の環境に位置しています。

- 経営施設数…4
- 法人全体の年間事業収入…262,573千円
- 主な運営施設
 - チロルの里特別養護老人ホーム
平成5年設立 定員50名
 - チロルの里ショートステイサービスセンター
平成6年設立 定員10名
 - チロルの里デイサービスセンター
平成5年設立 定員30名
 - チロルの里在宅介護支援センター
平成6年設立

実施施設の概要

- 施設名…チロルの里特別養護老人ホーム
- 施設種別…特別養護老人ホーム 定員50名

施設の運営方針

利用者が、可能な限りその居宅における生活への復帰を念頭において、入浴、排泄、食事等の介護、相談及び援助、社会生活上の便宜の供与その他日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行うことにより、入所者がその有する能力に応じ、自立した生活を営むことが出来るようにするものとします。

活動の内容

- 活動対象者…引きこもりの児童（17歳）
- 活動の頻度…週3日
- 年間延利用者数…1名
- 活動開始年…平成14年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

中学校1年の2学期から登校拒否となり、外出もしなくなった児童について、町役場の福祉保健課並びに、民生児童委員、鳥取県児童相談所が三者一体で様々な取り組みを行ってきました。

平成14年10月20日に上記3機関から当法人へ「入所者並びに従業員と触れ合うことにより会話ができて心が開くのではないか」との相談があり、25日に本人と面接し意思確認の上、

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

同年11月5日から体験研修職員として受け入れることになりました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

体験研修生として受け入れるにあたり、条件として体験費用は無し、昼食は当施設にてデイサービス利用者と一緒に同じメニューを食べます（無料）。

体験研修中は介護長ならびに、介護リーダーに同行することなどを決めました。また、一般職員と同様、タイムカードを作成すると共にロッカーや制服についても支給しました。

利用者には1施設職員として紹介し、特別扱いはせず、排泄介助、入浴介助などの業務にも施設職員とマンツーマンで取り組みました。

時折、「寂しい」と言っていて、特定の介護職員に抱きつくことがありましたが、職員の側は、本人の感情表現をありのままに受け止めるように心掛けました。

■利用者の声、地域の反応

当初は無口で行動も重い感じでしたが、10日後あたりから、言葉、行動ともに変化が見られました。入居者とおむつ交換も嫌がることなく取り組み、入所者の皆様方や介護職員からも愛称で呼ばれるようになりました。

午前8時30分から正午まで特別養護老人ホームを体験し、正午から午後1時までデイサービスを体験（食事の用意をし、デイ利用者と一緒に食事をしながら会話をします）、その後無料巡回バスにて帰宅という日課でした。

特別養護老人ホームでは午前11時にジュースと菓子で10分間労をねぎらい職員3～5人で会話をし、心を開くよう働きかけました。

本人も次第に施設に打ちとけ、利用者からも受け入れられるようになりました。また、6ヶ月をすぎた頃から「今日も来れてうれしい」と言うようになりました。

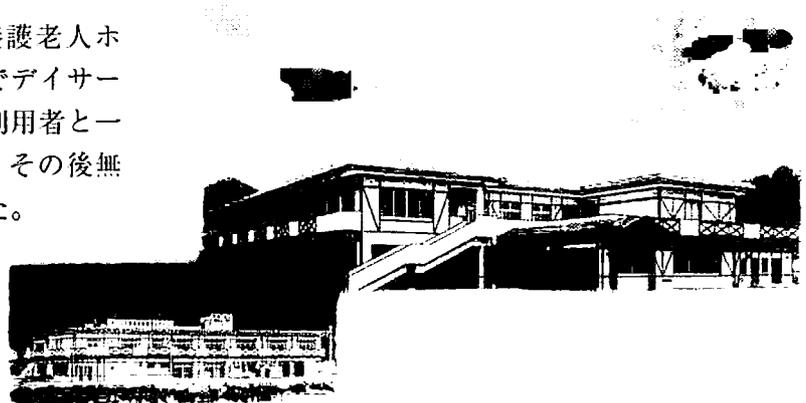
活動の成果、地域の影響、今後の課題

平成16年2月 本人の希望でサービス業への就職が決まり、社会人としての第一歩を踏み出しました。

当施設での体験研修は1年3ヶ月で卒業しました。

更生施設ではない特別養護老人ホームでも、引きこもりの児童に対して、何らかの（自立への）支援が出来たのではと思っています。

本人のご家族、地元の町役場の福祉保健課、民生児童委員、児童相談所などの機関からも大変感謝されました。



チロルの里特別養護老人ホーム全景

事例

不登校児との交流

大原福祉会（神奈川県） 〒259-1132 神奈川県伊勢原市桜台1丁目36番5号 TEL 0463-93-8925

活動の概要

当保育園の近く（100m）に児童館があり、そこで日中、不登校児を対象とした「伊勢原市適応指導教室」が開かれ、10数名の小・中学生が通っております。

日頃から、不登校児の対応について考えておりました。もし、幼い頃に楽しい思い出があり「昔にフィードバックできたら」と、職員と話し合いました。このことを担当の先生に打診したところ、快く受入れてくださり、異年齢児交流の事業といたしました。

法人の概要

昭和53年に、社会的な背景に「核家族化やベビーブーム」による乳幼児を受け入れる施設が少なく、市内8番目（公立4園、民間4園）の保育所として法人の設立をいたしました。

法人・施設のある小田急線伊勢原駅南口は、特に昭和40年以降、大型スーパーの進出や住宅街の建設等により街の活性化が進み、駅周辺におけるあらゆる方面への利用ニーズが高まり人口増加の現象をもたらしました。

このことにより、駅から徒歩5分に設立した保育園の利用者ニーズは、国のエンゼルプラン等の施策もあり、年々、利用者ニーズの高まりを見せています。

- 経営施設数…1
- 法人全体の年間事業収入…約146,000千円
- 主な経営施設
保育所 昭和53年設立 定員120名

実施施設の概要

- 施設名…大原保育園
- 施設種別…保育所、定員120名

施設の運営方針

開園当初に「心身共に健康で豊かな情操を養い、たくましい子供の育成」を柱に保育を実施し、地域との連携を大切に「共に育つ保育」に徹しております。

活動の内容

- 活動対象者…小・中学生
- 活動の頻度…年2～3回 1回1時間程度
- 年間延利用者数…約20名
- 活動開始年…平成13年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

当時、児童館に日中、数名の中学生と先生が外でキャッチボール等をしている姿をよく見かけ、先生に尋ねましたところ「不登校児を集めた指導教室」を開いていると回答されました。

このことを園に帰り、主任保育士等に話をし、「何か交流ができないか」と打診し、保育園の子どもたちとの交流により、昔に戻ることも必要と判断し、担当の先生と「生徒さんの対応等について」話し合いを持ちました。

その結果、1回1時間程度で、特に年中・年長児との交流を希望され「このことは生徒の意

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

志に沿って行って下さい」との要望がありました。そして、生徒さんの意志によりスタートいたしました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

交流当初は、1人の先生と6名の生徒さんが来園されましたが、半数の生徒さんは表情が硬張ったり、ぎこちなく交流をしておりました。

この交流は、あくまでも互いに無理がなく、予算を掛けない方法で取組むことといたしました。

現在、交流する生徒さんも10名を越え、自主的に参加され、先生と一般の市民から選任された指導員さんと2名が付き添いで来られます。また、生徒さんにいろいろと要望するのではなく、互いが自然にふれあえる交流をしております。

■利用者の声、地域の反応

生徒さんたちのぎこちない表情が最近ではすっかりなくなり、いつも集団で来園していたのが、個人の意志で集まっていただけになりました。

また、生徒さんが子どもたちといろいろなあそびを通して交流していただき、子どもたちと生徒さんの間に信頼関係が生まれ「今日は楽しかったよ」と、互いに声を掛け合う姿が見られるようになりました。

そして、自治会の方が交流風景を見られ、子どもたちと不登校の生徒さんが交流することをとても良く評価され、長く続けてほしいとの要望がありました。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

保育園側と先生から「交流して良かった」という声があがるようになり、また、先生から「自立していく生徒さんがいる」ようにも聞いております。

今後は、回数を増やし、生徒さんの気持ちを大切にし、声かけや相談等も受けられるような体制を取り、よりアットホーム的な交流ができることが課題と認識します。

児 童

事例

保育所における外国人児童の受け入れ及び、 外国人保護者に対する通訳等支援

聖母福祉会（静岡県） 〒436-0056 静岡県掛川市中央1-8-1 TEL 0537-24-0875

活動の概要

言葉や習慣、文化の異なる日本で外国の方が安心して、子育てをしながら働き生活できる環境を用意し、子どもを積極的に受け入れ支援していきます。

法人の概要

昭和25年キリスト教（カトリック）のパリ外国宣教会が、清水聖母保育園を開設、社会福祉活動の第一歩を踏み出しました。

昭和41年社会福祉法人の設立認可を受け初代理事長にアンリ・ジャシェ神父が就任しました。以後、天使の聖母宣教修道女会、聖ヨハネ会、聖母訪問会の協力を得て保育園と特別養護老人ホームを静岡県内に順次開設し、現在は8施設を運営しています。

- 経営施設数…8
- 法人全体の年間事業収入…1,513,571千円
- 主な経営施設…
 - 保育所 清水聖母保育園
昭和25年設立、定員200名
 - 保育所 掛川聖マリア保育園
昭和41年設立、定員150名
 - 保育所 藤枝聖マリア保育園
昭和43年設立、定員150名
 - 特別養護老人ホーム 聖ヨゼフの園
昭和44年設立、定員90名

実施施設の概要

- 施設名…掛川聖マリア保育園
- 施設種別…保育所、定員150名

施設の運営方針

カトリック精神に基き、保育に欠ける乳幼児を受託し、養護と教育が一体となった情緒の安定できる生活環境を用意し、自己を十分に発揮できるように留意して、豊かな人間性を持った子どもに育成します。

活動の内容

- 活動対象者…外国籍の園児とその保護者
- 活動の頻度…週6日（月～土）
- 年間延利用者数…平成15年171名
- 活動開始年…平成4年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

平成4年4月にブラジル国籍の幼児が入所した事に始まり、その頃から近隣企業の外国人労働者の雇用が多くなり、ブラジルやペルーから日本へ働きに来る外国人が増えてきました。

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス

家族全員の生活と本国への仕送りを含め、経済面での安定を求め、派遣会社を通じ企業で働く人がほとんどでした。

早急に子どもを預けられる所が必要となり、知人や勤め先から保育園を紹介されたり、知人の子が入所しているから安心という理由で入所を希望する人が多くなりました。

又、宗教心が厚く、隣接する教会に来る人も多く、カトリックの保育園という事でも希望者が増えてきました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

ほとんどの保護者が派遣会社を通して早朝から夕方遅くまでの仕事に従事し、長時間の保育が必要です。その為に職員も時差出勤したり時間外職員をあて対応しています。

文化や生活習慣の異なる園児にとっては言葉もわからず乱暴になったり、集団生活になかなか馴染めない子もあります。一人一人に声をかけ、様々な欲求を適切に満たして情緒の安定を図る為に保育士の人数にもゆとりが必要となっています。保護者への通信は勤務先にFAXで知らせ通訳をお願いする事もありましたが毎日の子どもの様子や行事をより理解してもらう為にそれぞれの家庭に合わせてカタカナやローマ字で書いたり、時には人を介してポルトガル語にかえて知らせています。

■利用者の声、地域の反応

個々に温かく援助することにより、子ども達は情緒の安定と共に、自信をもって生活できるようになり親からも感謝されています。

日本での生活が経済的にも安定し、国へ帰っても仕事がなく治安も悪いから日本に永住したい、という家族もあります。又帰国を予定している家庭では子どもが日本の生活に慣れ、日本

語を覚えていく中で母国語を忘れてしまう事への不安を訴える人もいます。

外国籍の子がいるからという事で、他の保護者が入所を拒んだり、地域の方からの苦情等今までにはありません。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

当初はお互いに言葉が通じず距離を置いて様子を見ている面もあったが、園での生活の積み重ねや行事を通して他の親とのつながりもでき、園周辺の地域の人にも笑顔で挨拶が交えるようになってきました。

今後は、生活の為又は企業の要望によって延長保育時間以上まで仕事があり、二重保育をしている家庭への負担の軽減など保育時間の見直しや改善を考えていかななくてはなりません。

農繁期の休日保育

葵会（静岡県） 〒421-2103 静岡県静岡市俵沢109番地 TEL 054-294-0169

活動の概要

茶の収穫、田植えなどを中心とした5月、6月の農繁期に日曜、祝日も保育園を開所し休日保育を行っています。園児のみでなく地域の乳幼児や小学生も利用できるよう枠を広げ兼業農家の多い地域のニーズに合わせた支援を行っています。

法人の概要

農村地帯であり、兼業農家が多い地域に、当法人の運営する保育園は開設しました。自然に囲まれた素晴らしい環境にあり、3世代同居の家庭が多く子ども達は愛情を注がれて成長しています。

しかし両親は市街地へ働きに出掛け、祖父母が主になって農業を行っているので、家族は多くても日中子ども達を世話する大人がいない家庭がほとんどです。そこで地域より保育園への要望が高まり、法人を設立し、保育園を開きました。

- 経営施設数…1
- 法人全体の年間事業収入…81,000千円
- 主な経営施設
保育所 昭和43年設立 定員60名

実施施設の概要

- 施設名…賤機保育園
- 施設種別…保育所、定員60名

施設の運営方針

子どもたちが今を生き生きと活動し生活出来るよう職員が一体となり取り組んでいきます。

また福祉施設であり、乳幼児からお年寄りまでの幅広い要望に応えられるように保育園として出来る限りの工夫、努力をしています。

活動の内容

- 活動対象者…地域の乳幼児・小学生・園児
- 活動の頻度…5月、6月の日曜祝日12日程度
- 年間延利用者数…40名程度
- 活動開始年…平成6年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

当保育園がある地域は農村地帯であるが、近年若い世代は市の中心へ勤めに出ており、普段の農作業は老人が一手に引き受けている状況の

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

中で、最大の収入源である緑茶と米の収穫は休日に家族総出で行っています。

平日の延長保育では対応できない状態となり地域の要望から休日の保育を始めました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

独自の取り組みのため、特別な収入はないので保育園運営の一環として位置づけました。

職員は年間の休日カレンダーを作成し、出勤日として対応しています。

しかし、職員自身も兼業農家が多く、自分たちの農作業との調整が難しくなっています。

■利用者の声、地域の反応

休日保育を始めて10年が過ぎ、地域に定着してきたので入所園児だけでなく、時期になると地域の方々から保育の希望を出してくるようになりました。親戚一同もかり出されるので地元だけでなく学区外の小学生や乳幼児の利用も増えてきました。安心してお茶摘みや田植えに専念でき、作業がはかどると好評です。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

開所当時は、園児だけが過ごす特別な施設として見られていたのが、休日保育や学童保育等諸事業を行ってきた為に、困ったときは利用できる施設として地域の方々の意識が変わってきました。地域からの要望に沿った活動をしてきましたが保育園の事業としてはこれ以上広げる事が難しい状況です。今後は法人として収支を考えながらもできるだけ活動をしていかなければなりません。その一環として、今年度に「地域交流室」として専用スペースを設け乳児からお年寄りまで様々な人が気軽に利用できる場を提供したいと計画しています。

事例

子どもクラブ

明照浄済会（三重県） 〒516-0073 三重県伊勢市吹上2丁目5-41 TEL 0596-28-2678

活動の概要

放課後児童の健全育成事業として、5年前から地域の小学校6校より通所しています。特に子ども自身の生活支援と共に親（家族）による子育て相談支援に力を入れています。

子どもの居場所提供だけでなく、親同士の相互協力をしていく場として活動態をとらえています。

法人の概要

当法人は伊勢市のほぼ中心地の住宅商業地域にあり、大正2年の創設にて本年で90周年を経ています。

創設時は無料宿泊所、職業紹介事業、保育園等を開設していましたが、昭和20年以後は戦災母子や浮浪児の保護救済を実施し、社会福祉事業法制定後、母子生活支援施設・児童養護施設・児童館・子どもクラブ・児童家庭支援センターを現在経営しています。

法人敷地は狭いが、地域で根づいている法人活動と利便性があり、職員も住民意識をもち、住民が主体的に活動できるよう働きかけております。

45人の常勤職員と非常勤の各職員が共通した理念と自主自発を大切にした運営を行っています。

- 経営施設数…5
- 法人全体の年間事業収入…221,803千円
- 主な経営施設
 - 母子生活支援施設 サラナ
昭和29年設立、定員20世帯
 - 児童養護施設 精華学院
昭和30年設立、定員30名

児童厚生施設 明照児童館
(明照こどもクラブ)
昭和63年設立、月平均40名
児童家庭支援センター 柊
平成14年10月設立

活動の内容

- 活動対象者…小学校1～6年生
- 活動の頻度…月22日間・平均6時間
- 年間延利用者数…7351名
- 活動開始年…平成9年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

児童養護・母子生活支援の入所型の施設を運営するなかで、入所前に支援すれば入所に至らずに在宅・地域で暮らすことができるケースも多くある実態をみて、児童館、こどもクラブ（学童クラブ）、子育て家庭支援センターの3つのセクションを有機的に連携し「子育て家庭支援」として法人事業を統括化していきました。

そしてこの分野の職員も、従来の施設養護の専門的機能面のノウハウを地域で発揮する体制を作りました。

それが当法人の特化する事業として、子ども

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

の健全育成と親（家族）の支援を目的とする「こどもクラブ」であり、児童館活動であり、子育て家庭支援センターにて、各々の主体性をもちつつ連携して活動しています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

地域の子育て支援を主目的にしている学童クラブも年々希望する家庭が増え、現在市内6校より通所しています。

放課後児童の安全安心の場所提供だけでなく地域の子育て支援、親（家庭）支援を主旨としているので、そのための専門職が必要となります。家庭相談支援員・心理職・スーパーバイザー等の配置が必要になります。出来得るならば、市内の各小学校地区に1か所の学童クラブの設置が望まれます。

また、設置運営が不安定であり、建物は公（行政）が設置し、民間に委託する方法を進めるべきです。

■利用者の声、地域の反応

子どもたちの声としては、「学校もちがい、年齢もちがい、住む地域もちがうが、いろんな子との出会いがあり、楽しいし面白い。この様子を学校や家族と話ができる楽しさがある」という。

親（家族）は、安心安全の確保と共に遊びや、家でのくらしが変わった、テレビ漬け、ゲーム漬けの生活から、自分でいろいろなものを作りだす生活になったと、子育ての話し合いの中でできています。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

こどもクラブも児童館も地域児童の健全育成事業を目的として発展したものであり、平成14年度より子育て家庭支援センター事業も開始されています。

総じて、民間法人は地域住民に直接的に働きかけることこそ、その使命であり、児童虐待予防、DV防止の方策を法人のもつ専門性でもって展開していくことです。

地域力をもった子育て支援を、日常的な活動として住民と手を組んで実践したいと考えています。



地域の「町なみ保存」のNPO活動に「子どもクラブ」のブースを作り参加した。

事例 **24時間365日の利用が可能な保育所
～子どもの姿を通して考える～**

こうほうえん（鳥取県） 〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1400番地 TEL 0859-30-0111

活動の概要

男女雇用機会均等法の施行に伴う女性の深夜就労、経済の悪化による共働きの増加、パート等雇用形態の多様化など、社会的環境が急速に変化しているにも関わらず、当市における認可保育所の開所時間は朝7～8時から夕方18～19時までがほとんどで、夜間保育を実施している保育所は皆無でした。このような状況の中、就労保障と子育てを両立するための様々な保育ニーズに対応するため、「キッズタウン24かみごとう」は、24時間365日保育に対応した90名定員の保育所として平成14年4月に開園しました。

法人の概要

昭和5年設立以降、地域医療に貢献してきた米子脳病院（現広江病院）が現法人の母体となっています。昭和62年、当時事務長であった廣江研（現理事長）が、今後訪れるであろう高齢化社会に向け、本地域における老人ホームの必要性を強く感じ設立したのが本法人です。当時の境港市長である安田市長の強い要望もあり、境港市の誠道小学校横に特別養護老人ホームさかい幸朋苑を建設、世代間交流を重視した同地に法人を設置することとなりました。

その後、特養、老健を中心とし、訪問介護、通所介護等住宅サービスを含めたトータル福祉サービス群を「ヘルスケアタウン」として、米子市に2群、鳥取市に1群、クックチル方式で食事を提供するヘルスケアフーズ、24時間保育所キッズタウン24を設置。現在、県内全域で定員数約1,600名の福祉サービス事業を営んでいます。

- 経営施設数…7（62事業）
- 法人全体の年間事業収入…5,020,210千円
- 主な経営施設
P.10参照

実施施設の概要

- 施設名…キッズタウン24かみごとう
- 施設種別…保育所、定員120名

施設の運営方針

法人の理念である「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される施設をめざします」に基づき、地域のニーズを捉え、昼間の保育内容の充実に努め、子どもたちが安心して過ごせるような園運営をしていきます。

活動の内容

- 活動対象者…生後6週間～就学前の乳幼児
- 活動の頻度…24時間 365日
- 年間延利用者数…148名
- 活動開始年…平成14年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

雇用機会均等法の施行に伴う女性の深夜就業や、経済環境の悪化など障壁は多く、親の就労保障と子育ての両立には矛盾があるのが現実です。核家族化も進み、一人で（母子家庭・父子

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

家庭) 子育てをする人も急速に増加している社会状況の中で、多様な就労形態に対応する保育園が求められてきました。

鳥取県内においても同様であり、子育て中の女性の離婚率は高く、特に夜間保育の充実を望む保護者の高いニーズがありました。

以上のような理由からこの24時間365日の利用が可能な保育所の実現に至りました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

乳幼児の体調不良・保護者の急な勤務変更による欠席等、常に変動する園児数に合わせた効率的な職員配置を行うため、保護者の保育希望表(1月分の利用希望表)をもとに勤務シフトを作成し、仮に変更があった場合にも、夜勤予定者を日勤に切り替える等の対応を可能としています。また、日曜祝祭日に利用される場合、別に利用料は設けず、代わりに平日に休んで頂くことで、利用者の費用面・園の職員配置面の双方にメリットがある方法を取り入れています。

地域ニーズに充分応えるためには、委託費のみでは採算が取り辛いのが実情ですが、当園の場合、法人の介護から保育までのトータルサービスの一環として提供することでこれを実現しています。

■利用者の声、地域の反応

平成15年度アンケート結果(抜粋)：

「急に晩ごはんを頼んでも対応していただき、喜んでます」

「キッズタウンがなければ安心して仕事ができなかったと思います。延長や夜間保育など、とてもありがたく思ってます」

「たまにですが、電話やノートで連絡したこと(明日休みます・休みにしていたが登園します等)が伝わっていない事がある」

「仕方がないことかもしれませんが、帰宅して傷や打ち身を発見することがあります」(保育

士の勤務形態が多様化しているため、申し送りの不備を指摘する声)

「病気(発熱時)時の急なお迎えは無理なので、病児保育をして欲しい」

活動の成果、地域の影響、今後の課題

さて開園して1年半が経過し、子ども達にとってこの保育所が居心地の良い場所になっているか、保育内容が充実しているか保育士として感じる課題は山積しています。24時間保育は確かに他の園との大きな違いですが、子どもの姿になんら違いはありません。保護者と一緒にその子の成長に最適な環境を考え、協力し合っていくことがなにより大切だと痛感しています。現時点での問題点、課題を明らかにし、1つずつ実践するなかで解決策を見いだしていきたいと思います。

- 長時間延長保育(泊まり含む)を受ける子ども達の心の揺れ(疲れ)にどのように対応していくか?
- 変則勤務(10パターン)により複数担任制をとっているが、子ども達に負担がかかっていないか?
- 園行事等をどう捉え、子ども主体の活動にしていくか?
- 育児不安のある保護者に対し、いつでも利用できる相談窓口があるか?
- 園内研修を充実し、知り得た情報を共有し保育実践に生かす体制をどのように整えるか?
- 子どもにとって望ましい職員配置(運営面からみて)は、どのような勤務シフトなのか?等が当面の問題点としてあげられます。

事例 DV被害者に対する 緊急一時保護事業（シェルター）

倉吉東福祉会（鳥取県） 〒682-0021 鳥取県倉吉市上井550-3 TEL 0858-26-4326

活動の概要

夫やパートナーの暴力から逃れてくる母子、または単身女性の緊急一時避難所として、被害者の安全を守り、心身の傷を癒しながら、当面の生活の場を提供し新しい生活を始めるためさまざまなサポートを行います。

法人の概要

[法人の沿革]

社会福祉法人倉吉東福祉会は昭和49年10月、大橋政治（故人）によって設立され、児童の健全育成とその時代に必要とされる地域福祉を実現することを理念として設立されました。

翌年昭和50年4月に倉吉東保育園を開設し、昭和53年4月援助を必要とする母子のため母子寮倉明園を設置し、運営を開始しました。その後、平成9年には保育園の全面改築と併せ、児童センターを合築、さらに障害児のためにデイサービスセンターを開設し、地域における児童福祉・家族福祉を視座に置きながら、有機的に連携、機能できる総合的な福祉法人としてその一翼を担っています。

- 経営施設数…4
- 法人全体の年間事業収入…231,000千円
- 主な経営施設
保育園 120名
母子生活支援施設 昭和53年設立 20世帯
児童センター 平成9年設立
障害児通所施設 平成14年設立

実施施設の概要

- 施設名…倉明園
- 施設種別…母子生活支援施設
定員20世帯

施設の運営方針

利用母子に対し安心して生活できる環境を提供し、子育て支援、就労支援、などを提供しながら自立へのステップの場所としての役割を果たします。

活動の内容

- 活動対象者…夫やパートナーからの暴力被害者
- 活動の頻度…年間延べ日数 115日
1世帯平均利用日数 23日
- 年間延利用者数…5世帯12名
- 活動開始年…平成14年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

当施設では平成6年度より法人独自で緊急一時保護（突然、生活の場を失ったり、緊急に避難する必要のある母子や単身女性とその日から安心して利用できる緊急一時保護事業）を実施してきました。実施場所は倉明園内の緊急一時

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

保護室です。その中で平成6年～12年の間は年間6～9件の利用があり利用延べ日数も90日～270日と多くの利用者がありました。さらに平成13年度よりDV被害者の利用も多くなり、緊急一時保護利用者が重複することが多く、1室の緊急一時保護室では対応が難しくなり、保育室、学習室なども利用しながら事業を継続してきました（平成13年の緊急一時保護利用者は15件）。さらに利用者の入所理由のうち例年2～5件だったDV被害者が、7～9件と増加してきたため、より安全で、安心した生活を提供する必要性を感じるようになり、平成14年度より鳥取県のDV被害者支援事業の委託事業として「シェルター」として園外にアパートを1室借り上げ、DV被害者の緊急一時保護室として利用しています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

施設外にシェルターがあり、職員は利用者が安心して生活を送ることができるよう施設～シェルター～を往復しなければなりません。利用者の危険を回避し、また、精神面の安定を図るためには同じ職員が夜間も対応できることが望ましいのですが、その支援を行うためには人員的に難しい現状です。

資金面については、施設内にもう一部屋、緊急一時保護で利用している部屋がありますが、平成6年から法人持ち出しで運営を行っている。シェルターは、県のDV被害者支援センターの一時委託事業なので資金面での持ち出しはありません。

■利用者の声、地域の反応

利用者にとって心身ともに追い詰められた状態で生活を始めるので、心のケアが必要です。着の身着のまま慣れない土地での生活である

が、シェルターには生活用品が備わっているためすぐに生活が始められます。また、施設（倉明園）や関係機関に守られ、身の危険を感じることなく安全に生活することができる、今後の生活についてゆっくりと考えることができる、との感想が寄せられています。

しかし地域にはシェルターとして利用していることを公表していないため、DV被害者の入れ替わり時には不信感をもたれることもありますが、大家さんとは詳細は説明しなくとも密に連絡をとり理解を得ています。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

施設外にシェルターとしてアパートを借り上げたことにより、公表されている倉明園の住所や電話番号でDV被害者を探されることがなく、安心してDV被害者が生活できるようになりました。

今後の課題は、アパートが少し遠い（車で5分）ので、もう少し近い所に借り上げ、ケアする職員の負担の軽減と、DV被害者の安心を保障していきたいと考えています。

事例 フリールーム（不登校児童通所施設）

小野田陽光園（山口県） 〒756-0803 山口県小野田市大字小野田6111番地の28 TEL 0836-83-4595

活動の概要

市内唯一の社会福祉法人の児童養護施設内に所在する相談室として、その独自性を生かして幅広く機能していく立場にあると考えられます。

相談の受け入れ対象は市内児童生徒およびその家族を中心としていますが、必要に応じて高校生以上、アフタケアも含めて枠を広げた長期のかかわりを続けています。

対応児童生徒の実情に応じて聴覚、視覚など五感を通じた体験行動をとり入れた相談活動を行い自立への支援を行っています。

法人の概要

施設園内の一角に2部屋10坪余りの部屋を「フリールーム」相談室として平成7年4月に開設されました。開設の背景には当時在園していた一園生の「学校へ行けなくても同世代の仲間を求めあう心はみんなもっている」という趣旨の言葉が一つの動機づけとなり開設につながったものと言えます。

所在場所、周辺の条件を考える時、図書館、児童館、公民館など公共施設に恵まれ、相談活動の発展的な活用の場として効果的な活用の場としてとり入れています。

地域住民との適宜な声かけ、ふれあいの導入も可能であり柔軟に体験を広げることができま

- 経営施設数…1
- 法人全体の年間事業収入…109,293千円
- 主な経営施設
児童養護施設 昭和32年設立 定員30名

活動の内容

- 活動対象者…市内小中学校児童生徒、親、家族
- 活動の頻度…（ケースによる）週1回～3回 1時間～2時間
- 年間延利用者数…（来室）279名
- 活動開始年…平成7年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

子どもが心のよりどころとする場として、いわゆる不登校児の対応の相談室として、スタートしたのですが、不登校問題もその背景が複雑化したことに伴い、対応の対象も広がり、親、家族をも含めた相談が大きなポイントになってきています。

対象となる子どもの実情に応じて、ふれあいトーク、ティータイム、遊々タイム、屋外への散策、学ぶ雰囲気づくりなど対話と活動の選択を折りこんだ対応を行って生活習慣の改善、自立支援、学校復帰へ向けて支援を行っています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

平成7年度、園単独でこの事業を開始。平成8年度より小野田市より「青少年対策業務」委託事業と認められ144万円の補助金がつきました。平成9年度より山口県の地域家庭養育支援

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

事業を小野田市が実施主体になり、194万円の補助金となりました。

小野田市との深い連携のもと活動を行っており、フリールームの職員も小野田市の青少年校外補導員を経たものを雇用しています。

■利用者の声、地域の反応

市教育委員会設置の相談機関、学校関係者との連携、児童民生委員など福祉関係機関との連携、交流の場を持ち研修の機会も設定しています。研修の交流については市内小中学校生徒指導担当、相談担当、養護教諭などとも連携を図りながら相談室としてのフリールームの効果的な利用について発信し、なげかけを行っています。

また、来室相談者の親同士の交流の機会を設定し、相互に交流しあう中で悩みを話しあい、学びあう場として効果的です。しかしここにつながるまでの条件が揃うことがなかなか難しい面もあります。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

子どもとの相談活動を進めていく中で一番大きな課題となるのは、親、家族とのかかわりです。親の変容がより大きく子どもを支えることになるのですが、一番困難な課題です。親への支援、親の自覚をどう促していくか、地域の力起こしが望まれるところです。

事例

地域子育てサポート事業

長崎県社会福祉事業団（長崎県） 〒856-0813 長崎県大村市西大村本町127番地3 TEL 0957-53-7418

活動の概要

乳幼児及び児童を養育している保護者が、緊急・一時的に子供を養育できない場合、必要期間その乳幼児及び児童を預りその家庭の生活の安定と児童福祉の向上を目指し、より開かれた施設として地域へ寄与します。

対象となる者は、母親が病気や出産・家族の病気の付添い・冠婚葬祭・出張など一時的に養育を受けられない乳幼児及び児童。

法人の概要

昭和43年総合的児童福祉施設として、長崎県立「光と緑の園」が開設され、施設を運営するため、社会福祉法人長崎県社会福祉事業団が長崎県により開設。

施設の運営にあたっては、合理的な運営に努めるとともに、地域社会のニーズに即応できる体制の確立と併せ、開かれた施設となるよう努めています。

施設は、旧陸軍連隊司令部の跡地にあり、樹齢100有余年の大楠木の緑に囲まれた広い敷地の絶好の環境にあります。

- 経営施設数…2
- 法人全体の年間事業収入…375,000千円
- 主な経営施設

児童養護施設	昭和43年設立	定員80名
乳児院	昭和43年設立	定員40名

活動の内容

- 活動対象者…地域の乳幼児及び児童
- 活動の頻度…1年365日 1日24時間
- 年間延利用者数…300名
- 活動開始年…平成4年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

生活環境の変化、少子高齢化時代の到来等社会情勢の急変に加えて、地域への施設開放等の課題がある中、地域へどのようにかかわっていくか。又、地域が施設に求めているものは何か、を考え、法人の運営施設である児童養護施設及び併設の乳児院のもっている機能を十分に発揮できるものとして、地域の子供を一時的に預る、子育て支援事業へ取り組む事となりました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

通常の措置児の定員枠内での受け入れ事業の為、入所児の変動により、受け入れが不可能な時があります。

■利用者の声、地域の反応

地域内に自衛隊がある為、核家族・転勤者が多く、次子出産・兄弟の入院付添い等で、緊急性の高い利用者が増えています。

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

又、設立当初は、ポスター等作成して、PRに努めましたが、現在は、病院からの紹介、利用者の口コミ等で、事業は地域に理解されているようです。

活動の成果、地域の影響、今後の課題

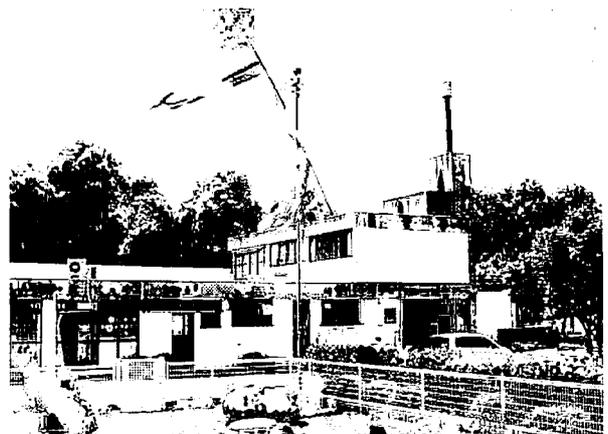
児童相談所・市役所等行政からの問い合わせや利用者の紹介等もあり、実績は増えつつあります。

施設の性質上、入所児（措置）が優先であるため、入所児の増減、施設内外での流行性の疾病等により、受け入れが出来ない事があります。

現在、この対応策を検討中です。



施設案内



光と緑の園乳児院

事例

不登校児を持つ親の会

別府光の園 (大分県) 〒874-0838 大分県別府市荘園町 8 組 TEL 0977-23-2506

活動の概要

不登校児をもつ親、又は以前持った経験のある親を対象に、毎月1度臨床心理士の先生をコーディネーターとしてグループカウンセリング、個別化カウンセリングを展開しています。

法人の概要

戦後の混乱期、創設者である長田シゲ（シスター）が戦災孤児を自宅に引き取り、育てたことで事業が始まる。昭和43年に光の園保育園を創設、平成11年より光の園子ども家庭支援センターを併設しています。

創立当時から、職員が子どもたちと寝食を共にし、温かい家庭に代わって子どもたち一人ひとりが心豊かに育つように、できる限り環境を整え、また、愛が大人を通して伝わるように、日常の中で一人ひとりを大切に、心豊かな人格の形成がされることを目指しています。

●経営施設数…6

●主な運営施設

児童養護施設 光の園 昭和21年設立
定員45名

保育所 光の園子ども広場 昭和43年設立 定員60名

放課後児童健全育成事業 光の園子どもクラブ 平成12年設立 定員25名

児童家庭支援センター
光の園子ども家庭支援センター 平成11年設立

児童館 光の園親子の広場 平成16年設立

実施施設の概要

- 施設名…光の園子ども家庭支援センター
- 施設種別…児童家庭支援センター

施設の運営方針

光の園子ども家庭支援センターは、カトリックの愛の精神にもとづいて創設されています。

子どもたち一人ひとりにはかけがえのない尊い存在であり、子育て家庭の支援にキリストの愛の精神で努めます。

活動の内容

- 活動対象者…不登校児を持つ親、および経験したことがある親
- 活動の頻度…月1回 5時間
- 年間延利用者数…100名
- 活動開始年…平成11年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

当センターにて相談援助活動を展開していく中で、地域の方より寄せられる様々な相談のうちに、不登校の問題があげられました。

気持ちをうちあける場のない子ども、様々な形で行動化する子どもと学校との狭間で苦しむ

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

親、双方への専門的な支援の必要性を感じてきました。

その中で、親たちの支えをすることで、その家庭全体の変化や、問題に向き合う力を育むことを期待できるのではないかと考え、親の会を開始しました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

臨床心理士をコーディネーターとしてお迎えし、不登校児を抱える親へのカウンセリングを中心とした取り組みを展開しています。

現在、グループの性格別に2つのグループが2時間半ずつのセッションで展開されており、それぞれの親が自分たちの現状、気持ちなど伝え合い、癒しとなっています。

毎回同じ臨床心理士の方が毎月時間をさいて下さり、それはスタッフや利用者の大きな支えとなっています。資金面等については、その臨床心理士の方に毎月謝礼をお支払いしている他に特になく、もちろん利用者の方の参加も無料です。

■利用者の声、地域の反応

回数を重ねるたびに利用者同士の信頼関係やコーディネーター、スタッフとの信頼関係も深まり、自らの問題を話したり他の方々のお話を聞く中で、癒されたり、不登校という現象への理解も深まってきている様です。利用者の方々は皆、月に1度の会を心待ちにしており、心の支え、拠り所になっていると話されています。

地域においても、学校や関係機関にこの取り組みは知られており、相談を受けたり、困っている方へ当センターを紹介していただいたりしています。ひとつの機関で問題を抱えてしまうのではなく、他機関が連携して支援を行うこと

ができるようになってきています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

この活動が不登校児を持つ親達の心の支え、拠り所となっており、共通の問題に対し共に支えあい励ましあう中で、「不登校」という現実と向き合う力が蓄えられてきています。同時に、専門的なケアと同じ悩みを持つ親達（利用者同士）のピアカウンセリングの相乗効果が見られています。

今後も継続してこの活動を展開していく中で、地域の養育の力を育む原動力となるように取り組んでいきたいと思えます。

事例

保護観察少年社会参加活動

北斗会（熊本県） 〒863-0002 熊本県本渡市本渡町本戸馬場390 TEL 0969-23-3503

活動の概要

保護観察処分となった天草地域（当該圏域）の少年・少女が、社会参加活動の一環として身体障害者療護施設内でのボランティア活動を行っています。保護観察所からの申し出にもよりますが、年間2回程度1回あたり5～10人程度の参加があります。

法人の概要

社会福祉法人北斗会は設立から34周年を迎えます。北斗会は北斗七星からその名を取っています。昔から旅人はこの北斗七星をもって方向付けとし道しるべとしたといわれています。北斗会も身体に障害を持つ方々と共にその方向を定め、そのことをお互い認め合い、助け合うことをモットーとして今日まですすんできました。

当法人は熊本県の天草地方の中心都市、本渡市で活動しており、その本渡市のほぼ中心部で3つの施設を運営しています。地域における身体障害者福祉において、その歴史や経験からも中心的な役割を担うべき組織という自負をもって活動している法人です。

- 経営施設数…3
 - 法人全体の年間事業収入…570,000千円
 - 主な経営施設
- | | |
|-----------------|---------------|
| 身体障害者入所授産施設 | 昭和45年設立、定員60名 |
| 身体障害者療護施設 | 昭和50年設立、定員80名 |
| 身体障害者デイサービスセンター | 平成6年設立、定員15名 |

実施施設の概要

- 施設名…星光園
- 施設種別…身体障害者療護施設、定員80名

施設の運営方針

『福祉とは生活権の問題である
全人格と全人権を常に考えよ
処して止まらず 取りてむさほらず
自己の職業に奉仕することに徹しよう』
という法人基本理念を運営方針とします。

活動の内容

- 活動対象者…天草在住の非行歴のある少年・少女で保護観察中のもの
- 活動の頻度…保護観察所の申し出により不定期に年2回程度
- 年間延利用者数…15名
- 活動開始年…平成9年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

平成9年5月下旬、熊本保護観察所より法務

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

事務官、保護観察官が来園。「罪を犯した人たちの更生保護を考え、その補導援護の一環として社会参加活動をしています。今般施設でのボランティア実習を計画中です。ぜひとも実習受入施設となって頂けないか」との話でした。「地域の非行少年・少女の更生のお手伝いができるなら」と承諾された園長より、定例職員研修会においてその趣旨を告げられ、人格・人権の尊重に基づく対応をしていく等の確認がなされました。6月18日、保護司等7名、少年4名が来園。第1回目の社会参加活動が始まりました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

対象となる少年は1回あたり5～10名（少女も含む）で、施設の概要、自己紹介等のオリエンテーション後、車椅子の取り扱い方や利用者接遇の注意点を学んだ彼等は利用者の歩行訓練や食事介助の手伝い、入浴時のストレッチャー搬送、施設の清掃等に懸命に取り組んでくれます。これらは現場に担当職員を配置されているので不安はありません。利用者との会話も最初はぎこちないですが、時間の経過でかなりうち解けていきます。ただ苦慮するのは参加者への配慮から、彼等の素性については利用者特に説明はしていません。そのため無邪気な利用者が時折「どこの学生ですか?」「どこから来たの?」等の質問があった時で、「〇〇という所じゃなかったかなあ」と返答を濁らせているのが現状です。

■利用者の声、地域の反応

彼等の若さ・行動力が初対面（同一人が二度来たことはない）であっても、時間の経過とともに利用者とは何となく仲良くなっている源ではないか。活動終了後、施設をあとにする時に参加者・利用者双方が涙ぐむ様子もあります。利

用者からの拒否の声は未だ聞いたことはありません。ただ、通常の実習生は二度、三度と来ることも多いので、その違いは肌で感じているのかもしれない。

参加者の感想文を記載しておきます。

『初めての体験だったけど、今までこのような障害を持った人たちの手伝いをしたことがなかったのでわからないことが多く、勉強になることが多かった』

『学校では決して習うことができないことを沢山学ぶことができたので、このような奉仕活動があってもよいと思った』

『自分たちは健康な体だけど、星光園にいる人たちは自分では出来ない所があるのに、自分でもうにかしようとする気持ちが伝わってきました』

『今日の体験は、一生心に残ると思う。特に星光園の人たちの頑張りがすごいと思った。自分にはまだその頑張りがたりないと思う』

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

保護観察処分者の更生のための活動の一環のため、参加者のその後まで詳しくフォロー出来ないし、直接的にその成果が伝わってくるわけではないが、保護観察所からは「彼等自身のこれからの人生を見つめ直すきっかけになるでしょう」との言葉を頂いています。何よりこの活動がいまだに続いていることを考えると、これまでの参加者には少しでもプラスの影響を与えているということではないでしょうか。

障 害

事例

身体障害者の自動車運転免許取得の支援 —適性相談と運転練習—

農協共済別府リハビリテーションセンター（大分県） 〒874-0840 大分県別府市大字鶴見字中山田1026番地の10 TEL.0977-67-1711

活動の概要

更生施設「にじ」の入所者については、設立以来、自動車免許取得のため自動車訓練を実施しています（年間5名程度）。この訓練を、平成15年度から地域在宅障害者や病院退院者にも拡大し、身体障害者の運転適性相談や運転技能について支援を行っています。これから免許を取得する方々については、適性相談を、すでに免許保持者で、運転技能評価を希望する方々については、センターのコース内訓練のみに限定し実施しています。

法人の概要

当法人は、交通事故により身体が不自由になった方々が、1日も早く社会に復帰して、元の生活に戻っていただくことを目的に、昭和48年にオープンしました。現在は、医学的リハビリテーションから、心理・職業的リハビリテーションを一貫して総合的に行い、交通事故による被害者の方々はもちろん、労働災害あるいは脳血管障害などにより身体機能に障害を起こしてお困りの方々の社会復帰の支援を行っています。また、センターの環境は、別府市郊外の鉄輪温泉に近く、扇山を背に別府湾が眺望できる閑静にして温泉に恵まれた景勝の地にあります。

●経営施設数…7

●法人全体の年間事業収入…1,591,606千円

●主な経営施設

身体障害者更生施設	にじ	
	昭和48年設立	定員80名
身体障害者授産施設	みのり	
	平成3年設立	定員50名
身体障害者福祉ホーム	のぞみ	
	平成13年設立	定員5名
付帯的公益事業診療事業		
	昭和48年設立	定員97床

実施施設の概要

●施設名…更生施設 にじ

●施設種別…身体障害者更生施設 定員80名

施設の運営方針

身体障害者の一人ひとりに、機能訓練から各種職能訓練までを幅広く提供し、自立と社会経済活動への参加を支援しています。

活動の内容

●活動対象者…身体障害者の免許取得と自動車免許保持者の運転技能指導

●活動の頻度…利用者の申込により随時

●年間延利用者数…37名（運転技術指導35名、適性相談2名）

●活動開始年…昭和49年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

身体障害者にとって、足の確保は行動範囲を拡大すると同時に社会復帰の大きな要素であることから、自動車訓練を昭和49年6月より開始しました。以来措置制度下では、入所者のために予算や人員を割くという制限があり、在宅

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス提供

障害者には利用をお断りしてきました。しかし、平成15年度の契約制度を機に、入所以外の障害者にも自動車訓練を開放することとしました。原則は、あくまで入所者の自動車訓練が優先するという取り決めで実施しています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

自動車訓練は、手動装置付きの身体障害者用訓練車を2台使用し、職能指導員がマンツーマンで実施しています。施設入所者で自動車訓練を希望する人を優先し、残りの時間を調整しながら、在宅障害者等の受け入れを行っています。適性相談は無料。技能訓練は、時間単価を表示し有料ですが、社会福祉法人ということで、公認自動車学校の2/3程度にしています。

1名の指導員で、原則として施設入所者の訓練を優先するため、在宅障害者の受け入れ調整が大変です。しかし、希望者がある限り、支援していきたいと思っています。

■利用者の声、地域の反応

- ・免許の更新ができて嬉しい。
- ・自分の車のどこを改造すればいいか参考になりました。

- ・右片麻痺になり、左足で運転操作の練習ができ自信ができました。
- ・社会復帰する前に、運転練習ができ自信ができました。
- ・自分の車で練習したい（助手席に補助ブレーキがない場合、持ち込み練習はお断りしています）。
- ・路上練習をしたい（リスク上の問題でお断りしています）。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

昭和49年開設以来、入所者を中心とした身障者の免許取得は、約140人にのぼり社会参加の大きな支援になったと思っています。当法人の理念である個々のニーズに沿ったリハビリテーションを提供し、地域における福祉社会の創造と発展に寄与することを目的に、自転車訓練施設の開放・利用に取り組み、障害者が地域で社会経済活動の参加が可能になるよう支援を行っていきたいと思います。



コース内での運転練習の様子

事例 ボランティアコーディネーター実践事業

楽晴会（青森県） 〒033-0022 青森県三沢市三沢字園沢156-8 TEL 0176-54-2534

活動の概要

特別養護老人ホームに配置されたボランティアコーディネーターによる、施設在宅福祉サービス、養護老人ホームなど、法人全体のボランティア活動に対する包括的な「ボランティアコーディネーター実践報告」の活動

法人の概要

昭和42年に齊藤甫人が高齢者事業の必要性から、寄付行為により法人設立した社会福祉法人。行政の庇護に甘んじることなく、独立自尊の精神で経営されてきた法人。

青森県三沢市は米軍基地のある北国であり、国際的な風土もあって、自由、個人の尊重を大切にするとともに、太平洋側の平野に囲まれたなだらかな地形もあり、南部のゆったりした気質のある地域です。

創立者が語学堪能なこともあり、おそらく東北地方でははじめてであろうと見られる米軍婦人会の団体でのボランティア活動が、昭和49年頃から開始されています。

また日本人は団体が多いが、米婦人は自分の家で作ったケーキをちょっともってきていただくなど、そのボランティア精神、スタイルも異なったことから、多くのボランティア精神に対する啓示をうけることになったという。

- 経営施設数…3
- 法人全体の年間事業収入…882,158千円
- 主な経営施設
 - 晴ヶ丘老人ホーム
昭和43年設立、定員70名
 - 三沢老人ホーム
昭和48年設立、定員110名

松園ケアラウンジスカイ

平成15年設立、定員27名

実施施設の概要

- 施設名…三沢老人ホーム
- 施設種別…特別養護老人ホーム
定員110名

施設の運営方針

自分で入りたいと思う施設作り

活動の内容

- 活動対象者…一般市民・職員
- 活動の頻度…毎日
- 年間延利用者数…1600名
- 活動開始年…平成8年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

取り組みの経緯は、施設長の私が、老人ホームという場合は、地域から隔絶した、特別な場ではない、という発想から始まっています。

その間、いろいろな方法でボランティアを増やす試みをしました。

— ボランティア活動がしやすいように、紹

介の冊子を作る

- デイサービスのボランティア募集として、有償のボランティアを公募してみる
- ボランティアアドバイザー研修会をしてみる
- コーディネーターを配置する

これらはいずれも意味はありましたが、失敗に終わり、いろいろ検討したのちに、ボランティア講座や、コーディネーターとして知識のある者の配置などを通し成功してきたと思っています。

ですから簡単だったのではなく、なかなか定着しないボランティア活動を定着させるまでの苦闘でした。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

当初は措置時代でしたので、ボランティアコーディネーターを配置するだけで基準にないと、監査で眼をつけられる対象だったかもしれません。

また人材も上記で触れているように、最初はパートで全くの未経験者に依頼したのですが、やはり仕事の前の福祉がわからないのに、紹介といっても難しく、うまくいきませんでした。

そのため資金面としては、日本火災財団や現在の日本財団（旧笹川財団）などの補助がある、あるいは市の単独事業もある、などといって配置のいいわけにしていたのですが（実際は全く足りませんでした）、少しですが措置費の中から地域機能強化推進費のような補助が70万円程度できるようになりました。さらに最終的には先駆的な事業につけていただくということで、人件費が賄われる程度の予算をつけていただいたのは当会のボランティア活動の実績でもあり、当時の県の担当者の英断です。

当初はこのような苦労がありました。それ

でも私共は一般市民が来るというのが、老人ホームの存在には必要条件だと信じていたもので、現在の活動にいたっております。

■利用者の声、地域の反応

現在は、年間1,600人ほどのボランティアがきます。人口4万3000人の地方都市です。さらに在宅の一人暮らしの方への訪問のボランティア活動が行われるようになり、職員が参加しているものも出てきました。そして当会のケアマネージャーが、このボランティアも活用するケースも出てきました。

そればかりでなく、市立病院でのボランティア活動への斡旋など地域の受け入れに影響しています。

また施設ボランティアコーディネーターはまだまだ数が少なく、私共でまとめた小冊子「地域と施設とボランティアと—施設ボランティアコーディネートの展開—」は、大学機関からの問合せもあり、わが国の数少ない施設ボランティアコーディネーター記録として、話題をさらったわけではありませんが、小さいながらも光を放っていると実感しています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

活動は現在、定着して、何もしなくてもボランティアの問合せが口コミで入る状況になっています。しかし第三者にわかりやすくするためにはもう少しボランティア講座を開催したほうがいいと思っています。

また現状はボランティアコーディネーター1名の配置だが、さらにもう1名配置し、ボランティアの増員に対応したいと思っています。

事例

聴覚障害児との交流保育事業

上野市社会事業協会（三重県） 〒518-0131 三重県上野市ゆめが丘5-14-1 TEL 0595-22-9955

活動の概要

- ・対 象 三重県立聾学校幼稚部 4歳男児 1名
ゆめが丘保育所 4歳児 41名
- ・目 的 聴覚障害児が同年齢の健常児とふれあい、年齢発達にあったあそびを経験します。
- ・回 数 月4回（毎週水曜日）
- ・時 間 毎回 午前9時～午後1時
- ・開 始 平成14年6月5日
- ・その他 母子通園

法人の概要

昭和23年（1948年）、大戦後の民間社会福祉事業を振興するため、有志の民間人が相寄って上野市社会事業協会を創立。上野市第一幼児保育所（現・曙保育園）、第二幼児保育所（現・睦保育園）の経営を引き継ぐ。昭和27年（1952年）、厚生大臣より社会福祉法人に組織変更認可。その後、新分野を開拓しつつ現在では、児童福祉施設19、老人福祉施設4、障害者福祉施設4など27の施設を経営する社会福祉法人となりました。

- 経営施設数…27
- 法人全体の年間事業収入…2,231,859千円
- 主な経営施設

保育所 曙保育園	昭和23年設立 定員180名
保育所 睦保育園	昭和23年設立 定員 90名
保育所 三田保育園	昭和30年設立 定員 60名
保育所 中瀬城東保育園	昭和30年設立 定員115名

その他

実施施設の概要

- 施設名…ゆめが丘保育所
- 施設種別…保育所 定員180名

施設の運営方針

乳幼児の心身の健やかな発達をはかるとともに、保護者が安心して子育てと仕事の両立ができるように支援します。さらに、小規模地域子育て支援センター事業を実施し、地域に在住する未就園児家庭の子育て支援を行ないます。

活動の内容

- 活動対象者…聾学校幼稚部 4歳児1名、ゆめが丘保育所 4歳児41名
- 活動の頻度…月4回。1回あたり4時間
- 年間延利用者数…48名
- 活動開始年…平成14年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

・当保育所を運営する社会福祉法人上野市社会事業協会は、心身障害児療育施設「かしのみ園」を運営し、障害児の療育保育の研究、実践に長く取り組んできました。職員は、障害

児の療育保育について深く理解し、熱意があります。

- ・三重県立聾学校より交流保育の依頼がありました。
- ・当所に本児の弟が在籍しています。
- ・当所に手話ができる職員が在籍していることと、本児の受け入れを機に、法人内の手話教室に職員が参加し、手話のレベルアップをはかりました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

- ・コミュニケーションの取りにくい聴覚障害児が、活発な4歳児クラスに入ることへの危険性を感じたので、主任保育士が本児がクラス的环境に慣れるまでサポートしました。
- ・クラスの子どもや担任保育士との信頼関係ができるまで、母子通園をしてもらいました。
- ・主任保育士が手話教室に通い、日常会話程度の簡単な手話を全職員で練習しました。
- ・給食費と教材費の実費程度を徴収しました。

■利用者の声、地域の反応

- ・本児は、園生活が楽しいので休まず通所してきました。その姿に母親も健常児とのふれあいが本児にとって良かったと思えたようです。
- ・障害をもたない児童は、本児とのコミュニケーションをはかるための工夫をするようになりました。
- ・障害をもたない児童は、交流を通して本児の障害について分かろうとし始めました。
- ・本児は、当初、補聴器を使用することをいやがったが、5歳児クラスになった時、友だちともっとかかわりあいたいという思いが強くなり、補聴器を使用するようになりました。
- ・障害をもたない児童の保護者から、子どもが

家庭で指文字や手話を時々使っていることを聞かされました。このことが障害を社会全体で自然に受けとめられていくきっかけとなればと思います。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

- ・母親が市内の聴覚障害者の団体や手話サークルに積極的に参加したり、内容を詳しく知ろうと関心を持ち、関係づくりを始めました。
- ・本児が当園の交流保育を利用することを機に、家族で地域のさまざまな活動や行事へ積極的に参加するようになりました。
- ・聾学校小学部で専門的な教育を受けながら障害をもたない児童との交流がはかれる、このようなシステム作りが望ましいと思います。

事例

国際協カプロジェクト

佛子園 (石川県) 〒924-0024 石川県松任市北安田町548番地2 TEL 076-275-0616

活動の概要

青年海外協力隊（日本のODAの一環として開発途上国の要望により派遣されるボランティア）などに法人職員が参加し（過去2名）、開発途上国の福祉研修員（長期3名、短期：マレーシア平成14年より毎年6名）の受け入れや、姉妹施設提携を結ぶことで、開発途上国の障害者福祉に貢献、協力し、世界の一員としての役割を担います。また、これらの協力事業及び各国留学生との交流を通じて障害者本人が海外に興味を持ち、旅行への挑戦を経験ある職員がサポートします。

法人の概要

社会福祉法人佛子園は、戦後認可を取らずに障害児支援を開始しました。昭和35年法人認可を取得、昭和50年代からグループホームの建設を開始し、様々な障害者施策が整備される前から地域生活支援を実施してまいりました。その後成人施設「星が岡牧場」、授産施設「日本海倶楽部」を設立し、入所施設以外に通所更生、グループホーム、生活支援事業、デイサービスなど事業内容を充実し、障害者への支援技術、及び生活の質の向上に努めてまいりました。

現在、「生活支援ネットBe」を各施設に開設し、ホームヘルプ事業などを開始することで、障害者施策すべての種別に対応した総合的な障害者支援体制を整備、展開しています。

- 経営施設数…3
- 法人全体の年間事業収入…793,000千円
- 主な経営施設
 - 仏子園
昭和35年設立 定員入所60名
 - 星が岡牧場
平成7年設立 定員通所30名 入所30名
 - 日本海倶楽部
平成10年設立 定員入所50名

実施施設の概要

- 施設名…星が岡牧場
- 施設種別…知的障害者更生施設
定員：通所30名、入所30名

施設の運営方針

利用者の個性を尊重し、障害の特性を理解した上で、プライバシーや人権に配慮した様々な取り組みや、個々の力を引き出せるような専門的な働きかけを行います。また、地域社会の参加などの社会的自立を援助します。

活動の内容

- 活動対象者…開発途上国福祉研修員、各国留学生、施設利用者、在宅障害者、地域住民、職員その他
- 活動の頻度…福祉研修員研修 年1回
長期研修員 過去3名
留学生受け入れ 年1回
青年海外協力隊 過去2名
- 年間延利用者数…80名
- 活動開始年…昭和60年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

平成14年「新障害者基本計画」が策定され、その重要な4つの課題の一つに『国際協力』が盛り込まれました。ここでは『アジア太平洋障害者の10年』が延長されたことを踏まえ、障害者団体間の交流、政府や民間団体による各種協力を実施し、関係の強化に努めることが謳われています。

法人では昭和60年から青年海外協力隊への参加や、海外からの福祉研修員の受入れ、姉妹施設提携による相互訪問などにより、開発途上国の障害者福祉の向上に貢献、協力しています。また、職員が海外での異文化理解を通じて障害の本質を肌で感じ、障害者支援の現場でサービスの質を向上させることができるため、協力プロジェクトを開始しました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

青年海外協力隊へ参加する際、法人に在籍したまま参加ができる「現職参加制度」を利用することで法人に人件費負担はなく、開発途上国の福祉研修員の受け入れは地方自治体、国際協力機構の受け入れを受託するため費用負担はありません。

青年海外協力隊、その他海外経験を有する職員により、福祉研修員の出身国の障害者福祉状況を十分に理解し、各国の状況に応じた研修を行なうことができるようになります。また、このような職員が障害者本人の海外旅行への挑戦を支援します。

■利用者の声、地域の反応

国際協力機構（JICA）北陸支部の開催するマレーシア障害者福祉研修において、法人での研修が好評であったため、参加者の要望により法人での研修日数が増えています（平成14年

1日間、15年3日間、16年5日間（予定））。また、過去の長期福祉研修員、青年海外協力隊の任地施設との間で姉妹施設提携を結び、研修員や海外留学生との交流イベントを通じて障害者本人の海外への興味が広がり、海外旅行を希望し参加するなど貴重な経験をする機会が増えています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

マレーシア福祉研修員が、帰国後に研修内容を実践し成果をあげているという報告をいただいています。しかし、日本での研修内容が周囲の職員に広がらない等の問題点があります。また、研修や海外での協力活動を通じて、日本の障害者福祉の進んでいる所、足りない所が見えてきます。今後このプロジェクトを通じ、各国の足りない所を補いあい、障害者福祉の向上に向けた取り組みを考える機会を増やしていきたいと考えています。

障 害

事例

あじさいテレフォンメッセージ —知的障害者施設から贈る電話によるボランティア事業—

共生社（茨城県） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣1179番地 TEL 0280-48-0431

活動の概要

あじさいテレフォンメッセージは、社会福祉法人共生社設立の年、昭和61年に開始して以来18年間、毎月内容を新しく変えてお届けしています。施設での生活の様子や作業活動、物語やふとした出来事、何気ない会話など、様々な内容でお届けしています。声の出演は、セルフあじさい古河、あじさい寮、セルフあじさい八千代の利用者とスタッフたちです。24時間、だれでも、どこからでも電話で触れることの出来る贈り物です。

法人の概要

社会福祉法人共生社は「男性も女性も、年をとった人も子供も若い人も、障害者といわれる人も障害をもっていない人も、共に生きる社会に」という願いを込めて設立しました。セルフあじさい古河は、社会福祉法人共生社創立の地であり、古河市のほぼ中央、広い都市計画道路に面した市街地の中にあります。近隣には商工会議所、大型電気店、飲食店、大型カラオケ店などが立ち並んでいます。町の中に、通りっぶちに施設があることそのものが大切です。そこではアート製品やパン・クッキーを自主生産する他、喫茶店あじさいティールームを行っています。日頃から人々が生活し行き交う地域の立地条件を活かして実践しています。

- 経営施設数…3
- 法人全体の年間事業収入…350,000千円
- 主な経営施設
 - 知的障害者通所授産施設・セルフあじさい古河
昭和61年設立 定員40名
 - 知的障害者更生施設・あじさい寮
平成6年設立 定員50名
 - 知的障害者通所授産施設・セルフあじさい八千代
平成11年設立 定員30名

活動の内容

- 活動対象者…全世界の人々に向けて
- 活動の頻度…毎日24時間。1回あたり約3分。
- 年間延利用者数…1200名
- 活動開始年…昭和61年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

私は知的障害者といわれている人と接している「素朴さ」や「あたたかさ」「素直さ」「無邪気さ」などに触れ、驚きや感動、喜びを覚えることが度々あります。そのことを多くの人を経験し、人間らしさや幸福について考え、豊かな社会が創られるのではないのでしょうか。私は現場から、これらの想いを実現しようとテレフォンメッセージを思いつき実践してきました。知的障害者といわれている人たちのパーソナリティーを電話の声を通じて多くの人に贈り、聴いた人があたたかい気持ちになり、周囲に幸せを広げられることを願って贈り続けています。またこの試みで、同時に知的障害者といわれている人の真の理解を育むことができるように願っています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

テレフォンメッセージシナリオは約3分という限られた時間で収めなければなりません。何回もの打ち合わせを重ねてシナリオを決定し、録音も何度もします。十分に整った専用設備・環境に苦慮します。出演者の中には、マイクが向けられると緊張する人がいます。録音前にマイクで自由に歌を歌いマイクに慣れます。話を苦手とする人もいます。スタッフが耳元で台詞をそっとささやき台詞を言い始めます。その人がただそこにいるだけで明るい雰囲気になることがあります。台詞だけでなく、笑い声や明るい雰囲気づくりなど様々な出演手段で各々が重要な役割を担います。利用者一人一人のパーソナリティを表現できるように工夫しています。

■利用者の声、地域の反応

自らが出演者である利用者から日常の中で様々な声が聞かれます。「テレフォンメッセージが大好きです。どうしてかな。毎月のように家で聴くのが好きなんだ」「テレフォンメッセージのベテラン名人です。台詞を早くおぼえちゃう」「人が間違っても笑ってはいけないよ。やさしくたすけあって楽しいメッセージができるようにと思います。」「たくさんの人に聴い

てもらえるようにガンバルゾ！」…。テレフォンメッセージへの反響が一般の方から平成2年度に実施したモニターアンケートなどに寄せられました。「疲れた時に聴きます。元気になります。心があたたまります。温かさが伝わってきます。キラキラ、うれしそうですね」……。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

『「障害」・「福祉」に対する社会一般の意識の啓発を目的とする調査研究報告書——知力にハンディキャップをもつ人たちからのメッセージ「あじさい学園テレフォンメッセージ」を通して——』（三菱財団助成事業、平成5・6年実施）より調査研究の結果、テレフォンメッセージが聴取者の心に響き、福祉へのイメージ・知的障害をもつ人に対するイメージ、その意識を変え、福祉への実践の動機づけになっていることが立証されました。



テレフォンメッセージ製作

あじさいテレフォンメッセージ
0280-48-0432

事例

地域ネットワーク活動「ふれあいネット雅び」

四天王寺福祉事業団（大阪府） 〒583-0868 大阪府羽曳野市学園前6-1-1 TEL 0729-57-3731

活動の概要

地域セーフティネットワークの構築を目的とします。

住民主体で編成する地域ケア推進チームを側面的にサポート。月1回開催の地域ケア推進チーム会議では、住民から要望があがった勉強会の開催、地域資源について解説した回覧板の発行、地域の見守り体制下で見つけられた事例検討会、迅速な相談、支援活動（緊急一時入所、ヘルパー利用）を行なっています。

法人の概要

593年、聖徳太子によって四ヶ院が創設されました。その中において悲田院は、老人や孤児など社会的弱者を住ませ、それらの方々が生きていく上での安心、安全を提供する施設でした。昭和12年、四天王寺悲田院（現四天王寺悲田院養護老人ホーム）が大阪南河内の地に再興されて後、保育所、学童保育、児童発達療育の通園施設などの施設、事業が併設され、府内他地域にも社会福祉事業を展開していきました。現在、主なものだけでも23の施設を数え、太子の四ヶ院創設趣意に則って、児童から障害、高齢の幅広い方々に安心、安全を提供しつづけています。

- 経営施設数…23
- 法人全体の年間事業収入…8,274,768千円
- 主な経営施設

病院	昭和8年設立
四天王寺悲田院	養護老人ホーム 昭和12年設立 定員300名
四天王寺悲田院	特別養護老人ホーム 昭和40年設立 定員100名
たかわし寮	養護老人ホーム 昭和24年設立 定員120名

実施施設の概要

- 施設名…四天王寺悲田院
- 施設種別…特別養護老人ホーム
定員100名

施設の運営方針

事業団宣言

1. 私たちは四天王寺開祖聖徳太子が帰依された仏教の精神に基き人の幸せをよろこびとして福祉社会の実現を目指します。
2. 私たちは良質で信頼されるサービスを誠実に提供し安心して暮らせる地域づくりに貢献します。
3. 私たちは人の尊厳と主体的な生活を守るとともに常に安全なサービス提供に努めます。

活動の内容

- 活動対象者…羽曳野市民
- 活動の頻度…月1回地域ケア推進チーム会議開催。情報誌の発行2ヶ月に1回。見守り体制随時、緊急訪問、支援活動は適宜。
- 年間延利用者数…4～5,000名程度
- 活動開始年…平成13年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

四天王寺悲田院は、児童、障害、高齢の方々を対象とした総合社会福祉施設の特徴を生かし、地域の方々を包括的に支援する活動を使命として活動を行ってきました。その悲田院も地域の一員である羽曳野市で、中学校区を1単位とし、在宅介護支援センターを事務局、市高年介護課、保健センター、医師会、薬剤師会などの専門機関が地域住民の代表的立場である校区福祉委員会を支援することで、地域セーフティネットの構築を目指す『ふれあいネット雅び』の活動が平成14年度からスタートしました。

セーフティネット構築の柱となってもらうべく、地域の区長、民生委員の方々などへ地域での見守り体制の重要性を説明し、協力を呼びかけました。それぞれの役割、方向性を共通認識とするのにかなりの時間を費やしたが、体制づくりへの賛同と協力を得ることができました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

上記の区長、民生委員の方々との協力体制づくりに苦心しました。その他、地域セーフティネットワークを形成するにあたって、悲田院が持つ児童、障害、高齢の方々に対する施設、人材を利用することはもとより、それぞれの施設に所属する社会福祉士が、行政縦割りによる制度の狭間にある方々の支援を行なえるよう、悲田院社会福祉士会を結成し、相談援助活動、制度の勉強会などの活動を行なっています。

また、それら悲田院内各施設・人材の地域に対する総合窓口として地域支援係を創設し、児童から障害、高齢まですべての相談を受け止め、相談援助、院内外の機関・施設へのつなぎと連携、悲田院社会福祉士会へ社会福祉士の出動を要請するなどの活動を1ヶ所で行なう、ワンストップサービス体制を実施しています。

地域子育て支援センター、地域療育等支援センター、在宅介護支援センターの担当職員による地域支援担当者会議を月1回実施し、地域支援という視点で連携、協働して企画・実践活動を行なっています。

■利用者の声、地域の反応

地域に住む一人暮らしの高齢者から、地域の方々による見守りネットワーク体制への感謝の投書がなされたり、在介センターを含む各施設への相談件数の増加など、地域への効果は目に見えて現れています。総じて、地域住民が自ら見守り活動や地域の問題などに積極的に取り組む意欲が向上しています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

活動の成果、地域の影響については上記の「利用者の声、地域の反応」の項参照。

現在、ふれあいネット雅びにおける取り組みは高齢者に関することが主ですが、障害、子育て中の親・子など地域のすべての方々へのサポートネットワークを拡大することも視野に入れ、地域の福祉力向上と関係機関との連携をすすめています。

事例

地域福祉マップ作成

青香福祉会（徳島県） 〒771-0134 徳島県徳島市川内町平石住吉183番地 TEL 088-665-5511

活動の概要

地域に存在する社会資源が、地域住民に有効に活用されること、また有機的に連携することを目的に、徳島市川内町、応神町（当在宅支援センター担当地区）の二町に該存する福祉、介護及び医療関係諸機関、施設、団体等の所在地、連絡先をできるだけ見やすく図形化した「地域福祉マップ」を微力ではあるが当法人独自の判断により作成しました。

これを端緒とし、地域福祉推進の一翼を担えれば幸いと考えます。

法人の概要

昭和55年法人設立、昭和56年特別養護老人ホーム開設、平成4年在宅介護支援センター等在宅サービス開始と共に地域福祉推進の中核となるよう努めてきました。

法人が所在する徳島市川内町は徳島県の北部に位置し、大河四国三郎吉野川の河口にあります。その肥沃で広大な平地を利用してサツマイモ、レンコン等の栽培を主とする農業の盛んな土地です。それでいて市の中心地に近く、その便宜性からか新興住宅が増加の傾向にあると聞きます。

このような地理的条件のせいか、地域住民の生活を支える社会資源が豊富に存在しますが、意外にもそのことが認知されていないか、若しくは活用されていません。

- 経営施設数…5
- 法人全体の年間事業収入…350,490千円
- 主な経営施設
 - 特別養護老人ホーム青香園（短期入所）
昭和56（61）年設立 定員50（5）名
 - 青香福祉会デイサービスセンター
平成4年設立 定員35名
 - 青香福祉会ホームヘルプ事業所
平成2年設立

青香福祉会指定居宅介護支援事業所
平成11年設立

実施施設の概要

- 施設名…青香福祉会在宅介護支援センター
- 施設種別…在宅介護支援センター
定員1名

施設の運営方針

地域における要支援・要介護高齢者とその家族等の基本的な人権及びプライバシーを尊重し、公的機関また保健・医療・福祉サービス機関との連携を図り、高齢者支援を行う。

活動の内容

- 活動対象者…地域高齢者
- 活動の頻度…1～2ヶ月に1度の訪問
1回20～40分
- 年間延利用者数…435名
- 活動開始年…平成4年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

在宅介護支援センターにて、基本業務を遂行

する中で以前より強く感じていたことがあります。それは、在宅介護支援センターが地域住民に周知されていないということです。支援センターの地域に対する必要性を通常の活動以外で何かアピールできる方法はないかと考えた一つの手段が、「地域福祉マップ」の作成でした。

このマップは、独居老人をはじめ、地区民生委員等に配布し、公民館等に備え、地域住民の生活にて活用されることを大きな目的の一つとし、このマップと同様に在宅介護支援センターも活用していただければと考えています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

介護保険制度導入後、在宅介護支援センターに寄せられる相談の8割は介護保険に関することです。同種の相談とはいえ、一例毎に異なる問題を抱えています。一人の職員で全てのケースに対応するのは難問です。また、市の委託費削減にて、これ以上の増員も難しいのが現実です。当法人は併設に居宅介護支援事業所があり、介護保険に関する相談は介護支援専門員が迅速に対応してくれています。しかし、保険適用外である高齢者、また、サービス利用の拒否等による孤立化した高齢者等の支援活動も重要であると考え、全ての高齢者の方が安心した生活を送ることのできる一つの支援活動として「地域福祉マップ」の配布を行っています。

■利用者の声、地域の反応

地域福祉マップの試験的な配布が行われてから3か月にみたないため、目に見える成果は感じとることはできていないが、一部の地域住民の方から、「地域福祉の向上を目指した地域福祉マップの作成は素晴らしい」等の励ましのお声をいただきました。

今後の活動において、当センターが心掛けな

ければならないことは、地域福祉マップを配布して終了ではなく、この福祉マップを修正・補充しながら在宅介護支援センターの活動を一人でも多くの地域の方に周知していただき、地域福祉相談の拠点となるよう努めなければならないと考えます。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

独居老人をはじめ、障害者等への福祉マップの活用・周知については、これからの在宅介護支援センターの活動を左右すると考えます。この「地域福祉マップ」が生きたマップとなるように、また、地域に必要とされる在宅介護支援センターであるように、ソーシャルワーカーは、しっかりとした目的意識を持ち活動することが重要です。

事例

空飛ぶ車椅子

三恵会（愛媛県） 〒792-0035 愛媛県新居浜市西の土居町2丁目8番12号 TEL 0897-33-4477

活動の概要

新居浜工業高校と連携して、工業高校の持つ技術・技能を生かし、中古の車椅子を修理・再生して、韓国を中心とするアジア諸国へ寄贈しております。また、韓国の福祉施設を訪問して、現地での車椅子修理ボランティア活動も行なっています。

三恵会は、車椅子の調達、修理した車椅子の寄贈先の選定、韓国訪問に係る調整等のコーディネーターの役を受け持っています。

法人の概要

新居浜市は、愛媛県東部に位置し、住友関連企業群を中心に、四国屈指の工業都市として発展を遂げて、愛媛県下第2の都市となっています。平成15年4月1日現在、人口は約12万8千人、高齢化率は約23%となっています。

三恵会は、昭和48年6月設立され、昭和49年4月より、新居浜市では初めての特別養護老人ホームを開設しました。その後、地域のニーズに応じて先駆的の事業に取り組み、現在では、特別養護老人ホーム2か所、老人保健施設2か所、ケアハウス1か所、身体障害者療護施設2か所、保育所1か所等を経営しております。

●経営施設数…9

●法人全体の年間事業収入…2,757,000千円

●主な経営施設

特別養護老人ホーム

昭和49年設立 定員120名

保育所

昭和55年設立 定員120名

身体障害者療護施設

昭和55年設立 定員80名

老人保健施設

平成6年設立 定員100名

実施施設の概要

●施設名…きぼうの苑

●施設種別…特別養護老人ホーム
定員120名

施設の運営方針

「ゆったりとした安らぎが得られ」、「安心と信頼感をもって」、「何度でも気軽に利用できる施設」を目指し、地域と共に歩む。

活動の内容

●寄贈国…韓国（148台）、台湾（2台）、モンゴル（7台）、スリランカ（6台）、タイ（5台）、インドネシア（2台）、マレーシア（1台）

●活動の頻度…車椅子の修理活動は年間を通じて行っています。韓国の福祉施設訪問は、年1回で5日間（2施設訪問）

●年間延寄贈台数…平成12年度 40台
平成13年度 34台
平成14年度 56台
平成15年度 41台

(年間約42台)

- 現在までの延寄贈台数…171台
- 活動開始年…平成11年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

介護保険の導入を機会に、他の施設が行っていないサービスを提供する特色のある施設づくりと、地域から信頼される施設づくりを目指しました。社会の中でいかに役立つか。そのためには、社会福祉法人の業務とは別であるが、一般企業が行っている社会貢献活動を取り入れ、地域との連携を図り、地域からなくてはならない存在であると思っただけの施設でなければならぬと考えました。そんな折知ったのが、工業高校生が古くなって使われなくなった車椅子を修理して東南アジア等に贈っている空飛ぶ車椅子事業でした。そして、このようなすばらしい事業を愛媛の地でもやってみたいと思ったのが始まりでした。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

車椅子の調達について、当初は新居浜市内の病院や福祉施設に呼びかけて集めましたが、数が集まらず、愛媛県社会福祉協議会に依頼して、県下の福祉施設に情報の提供を呼びかけてもらいました。

車椅子の収集については、当初は法人職員が各施設まで行って収集していましたが、途中から介護用品販売業者の協力が得られ、ボランティアで車椅子の収集をしてもらっています。

活動資金につきましては、国際ソロプチミストやロータリークラブ、NPO等に呼びかけて、直接新居浜工業高校へ資金の助成を頂いております。

■利用者の声、地域の反応

社会貢献の一環として、新居浜工業高校と連

携して空飛ぶ車椅子事業に取り組んでできました。まだ十分使える車椅子でも粗大ゴミとして捨てられていく中で、世界には車椅子が買えなくて困っている人がたくさんいます。国際貢献、環境問題が問われている中、空飛ぶ車椅子事業が果たす役割は多大なものがあります。空飛ぶ車椅子＝新居浜工業高校、三恵会との認識が新居浜市民にも定着しており、市民活動として高い評価を受けております。また、近年盛んになっている韓国と新居浜市の国際交流事業のさきがけをつくったのもこの事業です。最近では、この事業を通して他の高校との連携も図られ、ボランティアの輪が益々大きくなっています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

この事業は施設に直接利益をもたらすものではありませんが、市政だよりやテレビ、新聞等マスコミでこの事業が取り上げられた結果、施設の知名度も上がり、さらに、高齢化が進む中で、福祉ボランティア活動を通して次世代を担う青少年の育成に貢献していることに対する理解が深まり、地域からの信頼度も高まりました。このことが、本来の法人の事業である社会福祉事業によい影響をもたらしております。



やすらぎの郷 (全景)

事例 **奈良児童虐待防止ネットワーク「きずな」
(児童虐待防止推進活動)**

飛鳥学院 (奈良県) 〒633-0053 奈良県桜井市谷480番地 TEL 0744-42-2831

活動の概要

近年、家族関係あるいは子どもの教育について多くの課題が生まれており、その中でも特に、養育者の子どもへの不適切な関わりによるさまざまな形の子どもの虐待が増加しています。

子どもへの虐待の数は年々増加しており、児童相談所を始め関係機関の熱心な取り組みが行われています。

大きな課題を抱える子どもの虐待防止に対して、ひとりでも多くの方々や関係機関と民間団体が手を結びネットワークを作る必要があると考え児童虐待防止活動に取り組む・奈良児童虐待防止ネットワーク「きずな」を設立いたしました。

法人の概要

昭和20年10月、倉庫を改造した建物に数名の戦災孤児、浮浪児を保護したことが、飛鳥学院の始まりです。

昭和24年4月一児童福祉法第41条による養護施設として発足。

昭和25年4月一飛鳥学院保育所を設立。

昭和27年5月一社会福祉法人に組織変更。

平成4年4月一「飛鳥学童保育所」開設。

平成11年4月一桜井市より「城島学童保育所」運営委託。

平成12年6月一奈良児童虐待防止ネットワーク「きずな」設立。(事務局一飛鳥学院)

平成12年10月一児童家庭支援センターあすか開設。

平成14年4月一桜井市より「安倍学童保育所」運営委託。

平成15年4月一桜井市より「桜井西学童保育所」運営委託。

社会福祉法人飛鳥学院は、「地域における子育ての社会支援」を行う総合施設として役に立つ相談・援助の専門機関として「子育ての社会支援システムの構築」を目指しています。

●経営施設数…3

●法人全体の年間事業収入…467,676千円

●主な経営施設

児童養護施設 昭和24年設立 定員80名

保育所 昭和25年設立 定員300名

児童家庭支援センター 平成12年設立 一

地域小規模児童養護施設

平成16年(開設予定) 定員6名

活動の内容

●活動対象者…専門職・関係機関および活動に賛同する人々

●活動の頻度…公開専門講座…年2回
(1回あたり2時間半)

事例研究会…年3回

(1回あたり2時間半)

ニュースレターの発行…年3回

市町村における児童虐待防止ネットワーク設置促進のための研修会を開催一年17回

(講師派遣)

●年間延利用者数…1,500人

●活動開始年…平成12年6月



児童家庭支援センターあすか外観



児童虐待防止対応マニュアル3種

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

児童虐待を受ける子どもや虐待の加害者になってしまう人々への援助を目的として、専門職・機関及び活動に賛同する人々の協力のもと、民間団体として、子どもへの虐待の発見と防止活動への支援を行っています。

活動の内容は、地域において、啓発活動や研修活動を行うとともに、子育てのニーズへの相談支援も行っています。また、効果的な緊急対応ができる地域システムをつくる為、日常的な関係機関との連携を図っています。

社会福祉法人飛鳥学院が法人全体で「きずな」の活動をサポートしています。特に、児童家庭支援センターあすかが地域の子育て家庭への役に立つ支援サービスを推進する為、相談・援助の専門機関として関係機関・団体の異なった機能を活かして、その役割を果たしています。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

現在、会員数は304名で医師、弁護士、教員、保健師・看護師、保育士等の専門職が約半数を占めています。今後の会員増強については、児童虐待問題に関心が高まっている幼・小・中の教員の入会を強化していきます。

資金面に関しては、公費補助がなく会費と委託費・寄付金を運用しています。会員は、個人会員に限り1人につき年間3,000円の会費を徴収しています。会費徴収については、事例研究会・専門講座の際やニュースレターの送付時に振込用紙を入れ納入のお願いをしています。

活動資金面での工夫として、年度において、奈良県からの委託事業を受託したり、社会福祉・医療事業団からの助成金を受けたり、国際ソプロチミスト奈良からの寄付金などを受けています。

■利用者の声、地域の反応

奈良児童虐待防止ネットワーク「きずな」は、保健・医療・司法・福祉・教育の各専門分野の方々がおられるので、県内の市町村や民間団体等から児童虐待防止研修会や子育て支援研修会、ケース会議、人権学習会などへの講演及び参加の依頼があり講師等を派遣しており、地域の子育て支援への関心や意識が高まってきました。

市町村において、児童虐待防止ネットワークを立ち上げたがネットワークをどのように機能させていけばよいのか分からないという担当者からの質問も多くなり問題意識が出てきました。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

- ・奈良県より、児童虐待防止啓発活動・児童虐待防止対応マニュアルの作成・児童虐待防止研修会の開催等を委託され奈良県や各関係機関との信頼関係ができた。
- ・「きずな」で専門講座や事例研究会を開催することで多くの県民及び関係者に児童虐待防止及び子育てに関心をもってもらうことができた。
- ・県下の市町村に「児童虐待防止ネットワークの設立」の必要性を働きかけた。今後においても、「地域における子育ての社会支援システムの構築」を目指して活動していきます。

事例 北多摩地区福祉ネットワーク「たまたま」

東京コロニー（東京都） 〒189-0002 東京都東村山市青葉町2-39-10 TEL.042-395-0452

活動の概要

それぞれの営業活動の中で、自分の施設にない作業種目や自分の施設の作業量を越える商談があった時に、ネットワークを利用して、情報を流し、共同で作業することで、ビジネスチャンスを逃さないようにします。又、各施設にとって有益な情報の提供・交換を行ないます。

法人の概要

東京コロニーの事業目的は、社会就労センター（授産施設・福祉工場）など障害者が働く場やグループホームなどの生活の場を通じ、障害者の「完全参加と平等」を実現していくことにあります。支援費制度における利用者への施設及び生活援助の福祉的支援サービスの向上に努めると共に、一方では共に働く仲間として、さまざまな取り組みを行なっています。

- 経営施設数…10
- 法人全体の年間事業収入…8,579,203千円
- 主な経営施設
 - 授産施設コロニー東村山第二印刷所
平成14年設立、定員50名
 - 身体障害者通所授産施設コロニー印刷所
昭和46年設立、定員45名
 - 身体障害者福祉工場東京都葛飾福祉工場
昭和47年設立、定員50名
 - 身体障害者福祉工場東京都大田福祉工場
昭和50年設立、定員50名

実施施設の概要

- 施設名…トーコロ青葉ワークセンター
- 施設種別…身体障害者、知的障害者、精神障害者通所授産施設 定員90名

施設の運営方針

身体障害者・知的障害者・精神障害者が利用できる定員90名の通所授産施設です。「地域の中で安心して暮らせる社会の実現」を基本として、障害のある人たちの働く場の充実に努力しています。

活動の内容

- 活動対象者…10施設
- 活動の頻度…随時（電話、FAX、メール等利用）
- 活動開始年…平成14年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

各施設とも仕事の受注量が不足しており、また、安定した受注ができない状態です。そこで、ネットワークを作り、スクラムを組むことで、少しでも上記の状態を改善し、また、ビジネスチャンスを逃さないことを目的に、近隣の施設間でのネットワークを立ち上げることにしました。

人材・資金面等での工夫、苦慮

ネットワークを組むうえで、事務局に負担をあまりかけないこと、又、各施設の費用負担がないことを前提にしています。従って、商談窓

口は、各施設であったり、顧客との接点がある施設であったりします。事務局は、あくまで、情報の提供を行なうことを主たる業務としています。

■利用者の声、地域の反応

授産施設の悩みとして、安定した仕事の受注があげられると思います。その意味で、お互いの施設が協力し情報交換をすることで、仕事がない時や逆にあふれた時に調整できるようになりました。

まだまだ安定受注までいっていませんが、今後も協力し合っていこうと思います。そうすることで、そこで働く利用者の工賃が少しでもUPできるようにしていきたいと思ひますし、それが利用者の声でもあります。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

ネットワークを利用して、共同受注をした案件がいくつか発生しています。また、他のネットワークとのつながりも出来ており、少しずつではあるが実績として成果があがっています。課題としては、事務局機能がまだ弱く、ネットワークとしての営業活動まで至っていないのが現状です。

地域ネットワーク「たまたま」参加施設

NO	施設名	作業内容
1	トーコロ青葉ワークセンター	メールサービス、情報処理、清掃、簡易作業
2	あしたば作業所	木工製品（パズル、組木）
3	コロニー東村山印刷所	印刷
4	福祉事業センター	時計組立・基板検査、部品計数・包装、自動車用ハーネス組立、他
5	平成の里	メールサービス、簡易組立、紙加工
6	サンワーク田無	砂糖詰め、ダイレクトメール、紙器加工、ギフトセット
7	そらの会お弁当クラブ	給食宅配
8	かりん共同作業所	資源回収、菓子製造、下請け、農耕、他
9	あさやけ作業所	牛乳パックの紙すき、縫製、自主製品等の販売、パソコンによる入力、割り付け、下請け
10	える・ぼいん	牛乳パックの紙すき、縫製、自主製品等の販売、パソコンによる入力、割り付け、下請け

福祉機器評価・モニター事業

神奈川県総合リハビリテーション事業団（神奈川県）〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516 神奈川県リハビリテーション支援センター TEL.046-249-2602

活動の概要

本事業は、企業・個人が開発した福祉機器について、それを必要としている高齢者・障害者に試用していただき、そこから得られた利用者の意見と県内の福祉機器専門家たちの意見・助言・提言を報告書にまとめて、開発した企業・個人にフィードバックし、これにより商品化を支援することを目的としています。

この事業は、県内の福祉機器・大学・製造技術・流通等の専門家から構成された「かながわ福祉機器目利き委員会」において、モニター適正審査とモニター結果に対する助言・提言を行い、モニター先の手配、評価項目の設定、モニター結果集計を行う事務局（神奈川県リハビリテーション支援センター）とにより実施しています。

法人の概要

本事業団は、心身障害児者、高齢者等の社会復帰を積極的、かつ効果的に推進するため、入所（院）者等に最も適した評価、診断・治療、リハ訓練、生活支援のほか職業前訓練等を積極的にとり入れるとともに、あわせてこれらに関する研究を行う総合的、かつ一貫した神奈川県総合リハセンターを神奈川県からの委託を受け、昭和48年から経営しています。

本センターは、本県におけるリハビリテーション事業の中心的、指導的役割を果たすことを目的としています。

- 経営施設数…7
- 法人全体の年間事業収入…150億円
- 主な経営施設
 - 5 社会福祉施設（定員320人）
 - 2 病院（病床数687床）、研究部
 - 県リハ支援センター、看護師養成校（定員210人）

実施施設の概要

- 施設名…地域支援センター
- 施設種別…（職員26名）うち、本務4人、兼務22人

施設の運営方針

神奈川県における高齢者・障害者等に対して、適切なリハ・サービスの円滑な提供に向け、関係機関の連携方策や全県的な立場で地域を支援するため、①リハ専門相談、②リハ情報の提供、③地域リハ人材共同確保、④生活支援工学的な支援、⑤リハ専門研修を実施します。

活動の内容

- 活動対象者…福祉機器開発企業・個人、利用者及び中間ユーザー
- 活動の頻度…福祉機器目利き委員会を年5回の開催、モニター参加募集を年3回、審査会を年3回
- 年間延モニター参加企業…20社
- 活動開始年…平成14年度

活動開始の背景（取り組みの経緯）

平成6年の「福祉用具法」の施行や平成12年度の介護保険法の施行などにより、福祉機器ビジネスは6兆円産業と予測されていますが、開発される福祉機器は、利用者（高齢者・障害者）にとって「使いやすく、低廉で、良質な」ものであって欲しいとの声が多く寄せられてい

ました。

一方、開発した企業には、一般商品と異って利用者の声が入りづらく、両者に正常なコミュニケーションが困難な状況にあります。

このため、平成12年度から神奈川県商工労働部新産業新興課が「新規成長産業事業化促進事業」の一環として神奈川県中小企業センターと実施していた「かながわ医療・福祉コンソーシアム」の「福祉機器評価・モニター事業」を、福祉機器の研究・開発や開発企業への事業化支援に実績のある当事業団に平成14年度から委託されたものです。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

担当する人材については、当センターにおいて福祉機器の研究・開発を30年にわたって実施してきたリハビリテーション工学エンジニアがおり、これまで福祉機器の開発、ユニバーサルデザイン、福祉のまちづくり、福祉車両などについて、産学公の研究を実施してきた実績がありました。

これらの実績を活用して、福祉機器の質的向上と普及を考慮し、自ら研究・開発するよりも、既存の企業での研究・開発についてアドバイスやコーディネートすることが効率的な面や、産業構造も変革しつつある時期でもあり、さらにリハ工学エンジニア自身が米国での視察において、モニター事業を実施している先駆的な事例を学んできたことなどにより、神奈川県からの事業の委託がなされたものです。なお、リハ工学エンジニア2人と事務職員2人で、実施しているため、大量にモニターを行うモニター先の確保などが困難な状況です。

将来計画としては、新ビジネスモデルとして、障害当事者団体との協働による事業化を考慮する必要があります。

■利用者の声、地域の反応

平成16年3月11日に開催した「かながわ福祉用具フォーラム」において、経済産業省の初代の医療・福祉機器産業室長、評価・モニターに応募した企業・個人やモニターを実施した障害者などの発表者からは、市場への商品化段階における利用環境への適合試験、現場での試用（モニター）、市場確認（ユーザーと生産者側のギャップ）、ユーザビリティ（使いやすさ）などの確認が福祉用具においては、特に重要であるとの意見が発表されています。

なお、開発企業では、現在、経営規模にかかわらず、商品評価は展示会等に展示することで、ユーザーからの意見を直接聞き、社内で評価する方法しかなく、モニター事業で行っている第三者が商品を客観的に調査し、その調査データを基に専門家による評価は、開発者側に偏ることなく商品を評価するシステムであるとの好意的な意見が多い。また、商品評価を行う場合、自らモニター対象者を選択することはメーカーとして大きな負担であり、この事業を中間ユーザーである総合リハビリテーションセンターが実施する最大の意義があるとの意見もあります。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

この評価・モニター事業の成果については、毎年、秋に東京で開催される「国際福祉機器展」などにおいて、モニター審査に適合した福祉機器を展示し、本事業の実績と内容を説明した資料を配付しました。また、年度末には「かながわ福祉用具フォーラム」（福祉機器評価・モニター事業報告会）を開催しています。

なお、平成17年度以降については、新ビジネスモデルとして確立するため、モニターを依頼する企業・個人から評価・モニター料金を徴収して実施できるかどうかの事業化に向けた取組みを行うことが課題となっています。

事例

バリアフリーガイドマップ製作活動

有誠福祉会（徳島県） 〒779-3232 徳島県名西郡石井町石井字城の内563 TEL 088-674-7200

活動の概要

ひとりでも安心して外に出て買い物もできるように、また、「自分たちの町は、障害者も高齢者も安心して買い物や生活ができる所なのか？」という問いかけなどを含め、店や公共機関などの情報を掲載した1つの「冊子」を作ってみようと思い、動きはじめました。障害者や高齢者だけでなく、町外や県外の方々が訪れたりしたときにも役立つ情報誌であるということも念頭におき、生活に近い商店や公共機関について調べます。

法人の概要

昭和54年6月社会福祉法人有誠福祉会が認可され、石井町を一望の下に眺められる風光明媚な高台に、昭和55年4月身体障害者療護施設「有誠園」を開所し、現在100名の重度身体障害者が生き甲斐と潤いのある生活を送っています。

有誠園は開園当初より、地域の拠点施設として地域に拓かれた施設作りを目標として、施設を持つ人的、物的資源を開放して、地域における多様なニーズに対応し「誰でも、いつでも、どこでも」必要とするサービスが利用出来るよう、特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホーム他在宅福祉サービスにも積極的に取り組み、高齢者も障害者も子供達も皆が地域でその人らしく自立した生活が送れるよう支援する事を理念としています。

- 経営施設数…3
- 法人全体の年間事業収入…1,117,623千円

●主な経営施設

身体障害者療護施設	1980年設立	定員100名
特別養護老人ホーム	1993年設立	定員50名
ケアハウス	2001年設立	定員30名

実施施設の概要

- 施設名…有誠園
- 施設種別…身体障害者療護施設
定員100名

■施設の運営方針

利用者の人格を尊重し、一人ひとりのその人らしい生活を支援し、安全で、安心、快適なサービス提供に努め、社会生活に適応できるようエンパワメントを高め、社会参加を支援し、福祉文化の醸成、共に生きる社会作りに努める。

活動の内容

- 活動対象者…障害者（身体・知的）、中高生、一般
- 活動の頻度…
- 年間延利用者数…352名
- 活動開始年…平成13年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

事務局を設定し、この活動に関わる内容・方向を決めるために全機関・団体が話し合う「実務者会」を要所で行い、調査に係る全ての事項や、各機関・団体の役割分担決定を行いました。

現場レベルでは実施に向けて、事前学習や調査人数・調査店舗数（地区）の確認など、打合せを頻繁に行い、事務局が取りまとめを行いました。また、活動をするにあたり、障害者と地域の方々との共同調査という方法を考えていたので、中学・高校には、障害者理解や、車椅子操作の講義など「事前学習」を学校に出向いて行いました。本番前に施設利用者と地域の方が顔合わせし、お互いの緊張や不安などが少しでも解消できた点においては、事前学習は非常に重要なことでした。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

活動に向けては、地域の社協と連携し、実施に向けて動いた。ただ、活動エリアを2町としたために範囲が広がり、①調査員の確保、②調査対象店舗等の確保、が難しかった。①については、社協と連携をとり、他市町村社協やボランティアセンターなどに呼びかけ、人材を確保しました。②については、こちらが積極的に地域の店舗等に趣旨の説明と調査協力依頼を、足を運んで行き、なんとかクリアできました。一番の苦労は、調査表の編集であり、職員2名が編集・校正を行いました。印刷の知識などもなかったために、自由気ままに編集したら、印刷上の問題とぶつかるなどし、かなりの時間と労力を要し、調査終了から発刊までに時間がかかり過ぎてしまいました。

■利用者の声、地域の反応

バリアフリーガイドマップを作るために実際に車椅子を押しながらいろんな所をまわりました。友達が押したり、自分で押してみても分かったのは、私達が普段何気なく通っている道や施設も車椅子の人にとってはすごく大変なんだということでした。特に階段は、何人かの人に手

伝ってもらわないと無理だし、私はもっとバリアフリーであって欲しいと思いました。街なんかに行った時、車椅子の人がいたら道をあけたり、自分に出来ることがあれば手伝いたいと思いました。活動で思ったことは、今まで車椅子の人を見ると「可哀そう」と思っていた気持ちを直そうと思ったことでした。でも、車椅子の人だって私たちと同じだから、そんなことを思うのは間違っていたと反省しました。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

地域の社会資源の再発掘や、この地を訪れた方々への観光的PRや情報誌としての機能を有するとともに、地域で生活する障害者の方々にとって有益な情報誌となったと思います。地域住民には調査活動を通じて、障害者に対する理解や、協力をとというような啓発活動にも繋がりと、活動を通じて関わった学校関係などには、毎年福祉講座（車椅子操作や、障害者理解の話）を実施したり、行事への招待を受けたりといった関係ができたように思います。